

診療科ガイド
2019-2020



昭和大学病院 昭和大学病院附属東病院



Showa University Hospital
Showa University East Hospital
Clinical Guide 2019-2020

玉成へ貫

「まごころ」を尽くし、質の高い医療人の育成を行う

昭和大学宣言

1. 医療人として人類への貢献に自らの人生を捧げます。
1. まごころと持てるかぎりの知識と技術をもって、医療を実践します。
1. 生涯にわたって学習・研究を怠らず、自らの向上に努めます。
1. 教え導いて下さる方への感謝と尊敬を忘れません。
1. 医療を担う仲間を敬愛し、常に支援します。
1. 昭和大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くします。

昭和大学病院及び昭和大学病院附属東病院の理念・基本方針

理念

- 患者本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

基本方針

1. 患者さんと共にチーム医療を実践する。
2. 特定機能病院及び地域の基幹病院として、高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
3. 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
4. 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実施する。

患者さんの権利

1. 安全で良質な医療を受ける権利
2. 各人の人格が尊重された医療を受ける権利
3. 個人の希望や意見を述べる権利とともに、希望しない医療を拒否する権利
4. 解りやすい言葉と方法で、納得できるまで説明と情報を受ける権利
5. 十分な説明と情報を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利



昭和大学病院

病院長

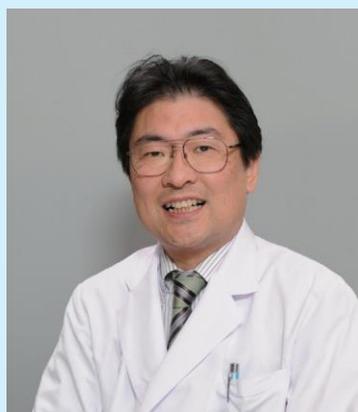
相良 博典

Hironori Sagara

2020年度より昭和大学病院院長を拝命いたしました。板橋家頭夫前病院長のもとで副院長として3年間勤め、色々な学びを得ることが出来ました。それをさらに発展させるべく邁進したいと思います。

昭和大学病院の思想的な柱として、「患者さん本位の医療」、「高度な医療の推進」、「医療人の育成」という三つの理念があります。

「患者さん本位の医療」を実践の前提は、安全で安心な医療を提供することです。この要となるのが「チーム医療」です。患者さんには多職種の医療者が関わりますが、それぞれに視野も視座も見方も異なります。それぞれの専門性から「最適な」医療を主張するために、見解の違いも生じます。異なる立場の意見を切り捨てることは簡単です。しかし、それらの意見は、その患者さんにとっての安全安心な医療のために考えられている限りにおいて、どれ一つとして無意味なものはないと考えます。見方によって「事実」は異なります。必要なのは、患者さんにとって必要な医療という「真実」です。刻一刻と状況は変化し、時間も限られており、様々な制約がある。そのように難しい場面で、私たちを真実に至らしめるのは、唯一、「チーム医療」だと信じています。多職種が垣根を超えて議論し、平面的な情報が立体的になり、現象に因果が見えてきます。それぞれが専門という顕微鏡で見ながら、全員が一つの望遠鏡を覗き込み、患者さんの望むことを見出す。これがチーム医療の目指すものです。病院長として、あらゆる医療者が立場を超えて本音の対話ができるような組織風土の醸成に力を注いでいきたいと思いを。チーム医療は、院内で完結するものではありません。地域では生活者として暮らしている患者さんの日常を知り、支えているのは地域の先生方です。病院と地域における立場を超えた対話は、最適かつ安全安心な医療を実現するために、決定的に重要なものです。地域との顔が見える関係が維持できるよう、最大限配慮していきたいと思いを。



昭和大学病院附属 東病院

病院長

稲垣 克記

Katsunori Inagaki

昭和大学病院附属東病院は糖尿病代謝内分泌内科、脳神経内科、精神神経科、眼科、麻酔科ペインクリニックに加え2017年7月から脊椎・股関節・人工関節・小児以外の整形外科(手の外科・肘関節外科・肩関節・膝関節・足の外科・骨折一般等)が東病院に拠点を移して診療を開始し、それに伴いリハビリテーション科も新たに稼動しました。昨年度より睡眠医療センターと呼吸ケアセンターを立ち上げましたが、今年度はさらに睡眠医療センター病床を拡大し、より多くの患者さんを受け入れる体制をとっております。また、昭和大学病院との連携も強化し、より機動力のある病院を目標に運営を進めております。また、医療安全の面でも、安全・安心な医療を提供する意識やRapid Response System (RRS)等の院内システムを立ち上げ、昭和大学病院と連動・連携しております。

大学病院には診療・研究・教育の三つの使命があります。昭和大学病院附属東病院においても、これらの使命を果たすため、皆様のご期待に応え頼られる病院であることを目指して質の高い急性期医療の一端を担っていきたく思っております。

当院がここまで来ることができたのは、多くの院内関係者のご尽力と、何よりも地域の皆様、多くの医療関係者の皆様のご支援によるものであり、改めて厚くお礼申し上げます。今後も皆様のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

昭和大学病院の概要

名称 昭和大学病院

所在地 東京都品川区旗の台1-5-8

理事長 小口 勝司

病院長 板橋 家頭夫

開院年月 昭和3年5月

許可病床数 815床

承認指定

特定機能病院	臨床研修指定病院	臨床修練指定病院
日本医療機能評価機構認定病院	総合周産期母子医療センター	東京都脳卒中急性期医療認定機関
がん診療連携拠点病院	DMA T 指定医療機関	歯科医師臨床研修協力施設
エイズ診療拠点病院	難病医療拠点病院	災害拠点病院
救命救急センター	東京都アレルギー疾患医療専門病院(内科領域・小児科領域)	
臓器移植登録施設(腎臓)		

法令による医療機関の指定

健康保険法	労働者災害補償保険法
国民健康保険法	地方公務員災害補償法
消防法による救急医療	児童福祉法
生活保護法	身体障害者福祉法
原爆医療法	障害者自立支援法
戦傷病者特別援護法	公害健康被害の補償
母子保健法	
結核予防法	

基本診療科に係る施設基準

歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	重症者等療養環境特別加算	呼吸ケアチーム加算
歯科外来診療環境体制加算	無菌治療室管理加算1・2	後発医薬品使用体制加算
特定機能病院入院基本料(7対1)	緩和ケア診療加算	病棟薬剤業務実施加算1・2
臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	栄養サポートチーム加算	データ提出加算1
超急性期脳卒中加算	医療安全対策加算1	入退院支援加算1
診療録管理体制加算2	感染防止対策加算1	救命救急入院料1
医師事務作業補助体制加算(25対1)	抗菌薬適正使用支援加算	特定集中治療室管理料3(小児加算)
急性期看護補助体制加算(25対1)	患者サポート体制充実加算	ハイケアユニット入院医療管理料
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	総合周産期特定集中治療室管理料1・2
療養環境加算	ハイリスク妊娠管理加算 *2018年取扱分娩件数*医師数51名/助産師数57名(2019年4月1日現在)	新生児治療回復室入院医療管理料
	ハイリスク分娩管理加算	小児入院医療管理料1

特掲診療科に係る施設基準

ウイルス疾患指導料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料1・2・3 外来緩和ケア管理料 移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後) 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 地域連携小児夜間・休日診療料2 地域連携夜間・休日診療料 院内トリアージ実施料 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料 療養・就労両立支援指導料 がん治療連携計画策定料 ハイリスク妊産婦連携指導料1 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 総合医療管理加算(歯科疾患管理料) 歯科治療時医療管理料 在宅腫瘍治療電療療法指導管理料 持続血糖測定器加算 遺伝学的検査 骨髄微小残存病変量測定 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及びHLA抗体(抗体特異性同体検査) HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 検体検査管理加算(Ⅰ) 検体検査管理加算(Ⅱ) 遺伝カウンセリング加算 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 胎児心エコー法 ヘッドアップティルト試験 脳波検査判断料1 神経学的検査 補聴器適合検査 小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験 センチネルリンパ節生検(片側) 画像診断管理加算1 画像診断管理加算2 画像診断管理加算3 遠隔画像診断 CT撮影及びMRI撮影 冠動脈CT撮影加算 外傷全身CT加算 心臓MRI撮影加算 乳房MRI撮影加算 頭部MRI撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1	無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ) 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) がん患者リハビリテーション料 歯科口腔リハビリテーション料2 ITナールの局所注入(甲状腺に対するもの) ITナールの局所注入(副甲状腺に対するもの) 人工腎臓 導入期加算2 透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 CAD/CAM冠 皮膚悪性腫瘍手術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。) 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。) 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) 脳刺刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)(及び脳刺刺激装置交換術、脊髄刺刺激装置植込術及び脊髄刺刺激装置交換術) 仙骨神経刺刺激装置植込術及び仙骨神経刺刺激装置交換術 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MR Iによるもの) 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。) 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) グル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔縫合閉鎖術、胃腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの)及び陰嚢腸腸閉鎖術(内視鏡によるもの) 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 経カテーテル大動脈弁置換術 磁気ナビゲーション加算 経皮的隔心筋焼灼術 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術(リドレベースメーカー) 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術 両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術 大動脈バルーンパンピング法(IABP法) 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術 腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術 腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術 バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。) 体外衝撃波胆石砕砕術 腹腔鏡下肝切除術 生体部分肝移植術 体外衝撃波脾石砕砕術 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術及び腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 腹腔鏡下小切開副腎摘出術 体外衝撃波腎・尿管結石砕砕術 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 同種死体腎移植術 生体腎移植術 腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術 膀胱水圧拡張術 腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術 人工尿道括約筋植込・置換術 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 腹腔鏡下仙骨腫瘍摘出術 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。) 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 胎児胸腔・羊水腔シャント術 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。) 輸血管理料1 輸血適正使用加算 自己クリオプレシテート作製術(用手法) 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 麻酔管理料(Ⅰ) 麻酔管理料(Ⅱ) 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算 強度変調放射線治療(IMRT) 画像誘導放射線治療加算(IGRT) 体外照射呼吸性移動対策加算 定位放射線治療 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 画像誘導密封小線源治療加算 保険医療機関間の連携による病理診断 病理診断管理加算2 悪性腫瘍病理組織標本加算 クラウン・ブリッジ維持管理料
---	--	--

(2019年8月1日現在)

昭和大学病院附属東病院の概要

名称：昭和大学病院附属東病院
所在地 東京都品川区西中延2-14-19

理事長 小口 勝司
病院長 稲垣 克記

開院年月 平成11年4月
許可病床数 199床

法令による医療機関の指定

健康保険法
 国民健康保険法
 消防法による救急医療
 生活保護法
 原爆医療法

戦傷病者特別援護法
 母子保健法
 結核予防法
 労働者災害補償保険法
 地方公務員災害補償法

児童福祉法
 身体障害者福祉法
 障害者自立支援法
 公害健康被害の補償

基本診療科に係る施設基準

一般病棟入院基本料(7対1)
 臨床研修病院入院診療加算(協力型)
 診療録管理体制加算2
 医療安全対策加算1

感染防止対策加算2
 データ抽出加算2
 医師事務作業補助体制加算(50対1)
 急性期看護補助体制加算(25対1)補助者5割未満

後発医薬品使用体制加算1
 入退院支援加算2
 病棟薬剤業務実施加算1

特掲診療科に係る施設基準

糖尿病合併症管理料
 がん性疼痛緩和指導管理料
 糖尿病透析予防指導管理料
 ハイリスク妊産婦連携指導料2
 薬剤管理指導料
 遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)
 持続血糖測定器加算
 皮下連続式グルコース測定
 神経学的検査
 ロービジョン検査判断料
 遠隔画像診断

CT撮影及びMRI撮影
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートあるもの))
 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
 網膜再建術

(2019年8月1日現在)



昭和大学病院



昭和大学病院附属東病院

目次 CONTENTS

概要

昭和大学宣言・理念	2
昭和大学病院 病院長挨拶	3
昭和大学病院附属東病院 病院長挨拶	3
病院概要	
昭和大学病院	4
昭和大学病院附属東病院	5
目次	6
患者さんのご紹介について	7
検査予約について	8
地域連携医療協力機関制度についてのお知らせ	9

昭和大学病院 診療科案内

■呼吸器・アレルギー内科	10
■呼吸器外科	11
■消化器内科	12
■消化器・一般外科	13
■食道外科	14
■循環器内科	15
■心臓血管外科	16
■小児循環器・成人先天性心疾患センター	17
■産婦人科	18
■小児科	19
■小児外科	20
■脳神経外科	21
■救命救急科	22
■リウマチ・膠原病内科	23
■腎臓内科	24
■血液内科	25
■腫瘍内科	26
■感染症内科 ■東洋医学科	27
■緩和医療科	28
■乳腺外科	29
■脊椎外科センター	30
■リハビリテーション科	31
■形成外科	32
■耳鼻咽喉科	33
■頭頸部腫瘍センター	34
■皮膚科	35
■泌尿器科	36
■放射線科	37
■放射線治療科	38
■臨床病理診断科	39
■歯科・口腔外科	40

各センター案内

■呼吸器センター	41
■消化器センター	41
■循環器センター	42
■総合周産期母子医療センター	42
■小児医療センター	42
■血液浄化センター	43
■救命救急センター(3次救急)	43
■救急診療センター(1次・2次救急)	43
■ICU	44
■eICU	44
■CCU	44
■HCU	45
■SCU	45
■リハビリテーションセンター	45
■中央手術室	46
■緩和ケアセンター	46
■褥瘡ケアセンター	46
■腫瘍センター	47
■プレストセンター	47
■臨床遺伝医療センター	47
■輸血センター	48
■超音波センター	48
■内視鏡センター	48
■てんかん診療センター	49
■総合サポートセンター・がん相談支援センター	49
■呼吸ケアセンター	49
■臨床試験支援センター	50

昭和大学病院附属東病院 診療科案内

■脳神経内科	51
■糖尿病・代謝・内分泌内科	52
■整形外科	53
■精神神経科	54
■眼科	55
■麻酔科(ペインクリニック)	56
■睡眠医療センター	57

昭和大学所属医師一覧

昭和大学病院所属医師一覧	57~65
昭和大学病院附属東病院所属医師一覧	66~68

アクセスマップ/附属病院	69
--------------	----

昭和大学病院／昭和大学病院附属東病院 診療科ガイド 2019-2020

■発行 昭和大学病院 医療経営戦略課(〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8)

■発行日 2019年10月15日

当院の許可なく本記事の一切の再利用は法律で禁じられています。

Copyright(C) 昭和大学病院 All Rights Reserved.

目的

地域の医療機関の皆様とより一層の連携を図り、地域医療全体の向上に寄与するとともに、患者さんへ最適な医療を提供することを目的とし「地域連携医療協力機関制度」を開始し、2019年8月1日現在、757医療機関にご登録いただいております。

制度の内容

- ①お申し込みをいただいた医療機関に「地域連携医療協力機関登録証」の送付をいたします。受付や待合室などへ掲示をお願いいたします。
- ②「昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院 地域連携医療協力機関」の呼称を使用することができます。
- ③当院のホームページで「地域連携医療協力機関」としてご紹介いたします。
- ④ご紹介患者が入院中の場合、白衣を貸し出し、当院医師同席のもとにカルテの閲覧ができます。
- ⑤外来診療担当医表、広報誌などの病院情報を送付いたします。
- ⑥当院で主催する各種講習会などのご案内をいたします。
- ⑦患者さんの紹介及び逆紹介を中心とした連携を行います。

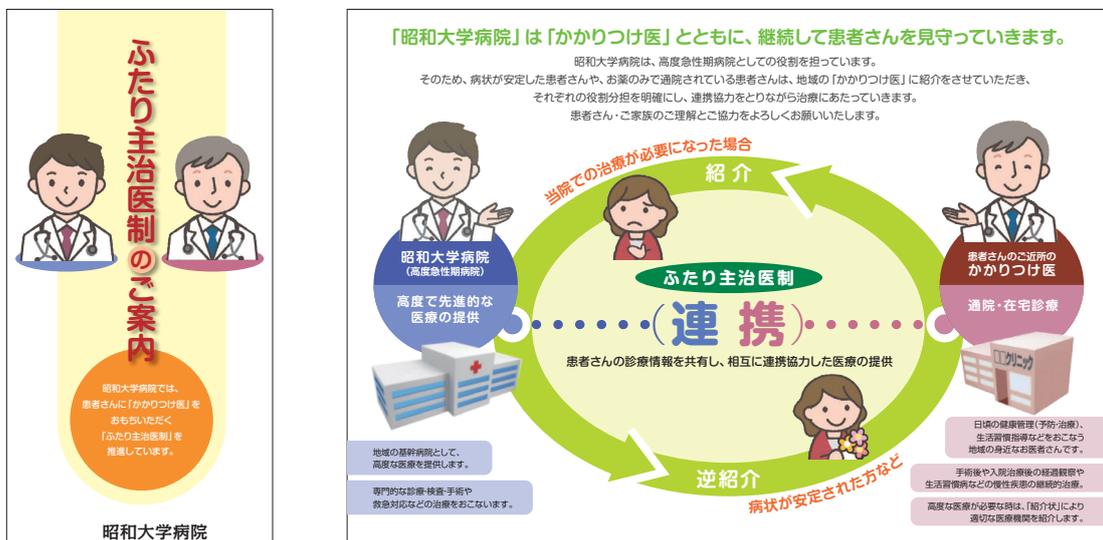
お申し込みについて

お申し込み希望は、随時受け付けております。ご希望の場合は、協定書など必要書類を郵送いたしますので、医療連携室までご連絡ください。

TEL : 03 - 3784 - 8400

ふたり主治医制について

当院では「ふたり主治医制」を基本とし、病状が安定した患者さんについては原則的に紹介元医療機関へ逆紹介させていただきます。かかりつけ医をお持ちでない患者さんには、患者宅に近い**地域連携医療協力機関制度**にご加入いただいている先生方を優先的にご紹介しております。



呼吸器・アレルギー内科

診療科長



田中 明彦

Akihiko Tanaka

専門：喘息、COPD、呼吸器一般

対象疾患：肺炎、気管支喘息、COPD、慢性呼吸不全、間質性肺炎（肺線維症を含む）、肺癌、サルコイドーシス、過敏性肺炎、肺高血圧症、睡眠時無呼吸症候群（睡眠医療センター）、気胸など

専門外来：

- 禁煙外来：呼吸器疾患をお持ちの患者さんのための禁煙指導、処方を行う。
- アスベスト外来：アスベスト吸入に伴う健康被害・疾病の解説、診断・治療法、健康被害救済制度の説明などを行う。
- 公害外来：公害疾患の検査、治療を行う。
- 食物アレルギー外来：アレルゲンとなる食物検査・治療を行う。

1 特徴的な診療領域

外来・入院ともに呼吸器外科と合同で、呼吸器センターとして診療を行っており、外科的な処置が必要な場合にも、迅速かつ円滑に外科的処置が可能です。高齢化社会に伴い、呼吸器疾患で入院する患者さんは年々増加しており、様々なケースにおいて看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などコメディカルとの連携（チーム医療）を心がけて実践しています。喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者さんには看護師が吸入指導を行い、また、薬剤師、理学療法士、栄養士とも連携し、呼吸リハビリテーションなどを取り入れた包括的な呼吸ケア教室を行っています。当科だけではなく病棟全般において、人工呼吸器装着中の患者さんに対しては、集中ケア看護師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士らと共に回診を行います。肺癌患者さんの治療方針は、腫瘍内科、呼吸器外科、放射線治療科とのカンファレンスで決定し、緩和医療科、薬剤師、看護師と連携して治療しています。

■喘息の患者さんには、呼気一酸化窒素(FeNO)、気道過敏性の測定、誘発痰など専門的な検査を用いて、より科学的な診断を行います。吸入ステロイ

ドを中心とした標準的な治療に抵抗性を示す重症症例には分子標的薬や**気管支サーマプラステイ（気管支熱焼灼療法）**を実施します。患者さんに応じてアレルギー免疫療法（急速減感作療法）の導入も可能です。

■COPDの患者さんには、個々の患者さんに応じた薬物療法に加え、COPD教室やレクリエーションなど非薬物療法も取り入れ包括的な医療を行います。

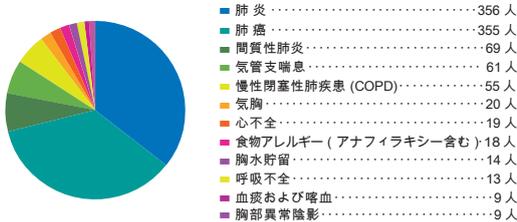
■肺癌の患者さんには、診断から治療をシームレスに行います。近年、肺癌治療は従来の化学療法と放射線療法に加え、分子標的薬や免疫療法が導入され多様化しているためより高い専門性が求められます。

■食物アレルギーの患者さんには、**食物アレルギー外来**を特設し診療を行っています。患者さんの要望に応じて原因確定のための負荷テストを行います。

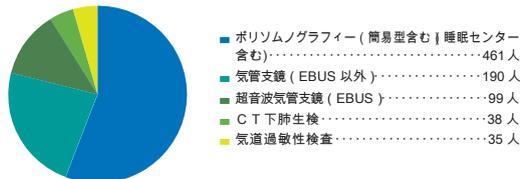
■睡眠時無呼吸に関しては、昭和大学病院附属東病院に循環器内科と合同で**睡眠医療センター**を設置し診療を行っています。治療は耳鼻咽喉科、歯科、地域医師会と連携し、マウスピースや在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）など包括的治療を行っています。CPAPの安定している患者さんには、来院の負担を減らすために遠隔モニタリングによる診療も取り入れています。

2 診療実績集（2018年度実績）

- ① 外来患者数（延数）……………29,967人
- ② 入院患者数（実数）……………1,016人
- ③ 入院疾患別の実績

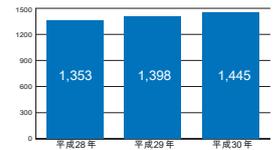


④ 検査・処置の実績



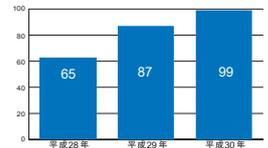
⑤ 紹介患者数の実績

過去3年間において、呼吸器・アレルギー内科へご紹介いただいた患者数の推移です。ご紹介いただいた医療機関は品川区、大田区、目黒区の3区で68%を占めます（2018年度）。



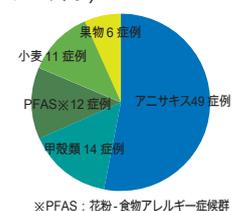
⑥ 超音波気管支鏡（EBUS）の実績

過去3年間のEBUSの件数です。EBUSには超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）とガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）があり、対象物の存在する場所によって使い分けます。その有効性と安全性から今後も需要はさらに拡大すると考えられます。



⑦ 成人食物アレルギー患者の原因抗原（過去1年間）

成人と小児では食物アレルギーの原因となる抗原の多くは異なっておりその対策も異なります。全国でも稀に見る成人の食物アレルギー外来において、原因の特定からその対策まで専門的に行います。



呼吸器外科

診療科長



武井 秀史

Hidefumi Takei

専門：肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、悪性胸膜
中皮腫、気胸、膿胸

対象疾患：肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍（胸腺腫、胸腺癌、神経原性腫瘍など）、悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍、自然気胸、膿胸、気管支異物、重症筋無力症に対する拡大胸腺全摘

1 特徴的な診療領域

呼吸器・アレルギー内科とともに「呼吸器センター」を運用し、呼吸器外科と呼吸器内科医師が外来および入院病棟において緊密な連携のとれた診療を実施できる体制を整えています。患者さんとともに語り合い、その不安に寄り添い、共に病気の治療に臨む姿勢で診療を行っています。医療が専門化・高度化される中で、患者さんに十分ご理解頂き、最先端の診療を実践しています。

■肺がんに対する治療

肺がんの手術は呼吸器外科で担当する疾患で最も多い疾患です。毎週、カンサーボードで呼吸器内科・腫瘍内科・放射線診断科/放射線治療科など肺がん治療に関係する診療科と合同で検討を行い、それぞれの患者さんにとって最善の治療方法を提供しています。手術は**胸腔鏡を併用**し小さい創で行い、早期退院、早期社会復帰に努めています。CTにおけるスリガラス陰影に代表される早期肺がんの症例では、区域切除・楔状切除といった切除範囲を縮小し侵襲の少ない手術を行っています。進行肺がんに対する治療は、放射線治療技術の充進、新規薬剤の登場によって複雑になっています。昭和大学病院ではそれぞれの治療に熟練した専門家が集結し、最適な集学的治療を行い、早期肺がんから進行肺がんまで幅広く手術治療を行っています。また、手術前から口腔外科で**口腔ケア**の実施と、理学療法士による**呼吸リハビリ**

テーションを行っています。これによって術後肺炎を予防し手術後の早期退院、早期社会復帰を実現しています。

■自然気胸に対する治療

自然気胸には肺の基礎疾患がなく発生する原発性自然気胸と肺気腫、間質性肺炎などの基礎疾患によって生じる続発性自然気胸があります。原発性自然気胸は10代、20代を中心とする若い患者さんに多く発生する疾患です。学業や仕事をかかえて忙しい患者さんが多く、入院期間を最小限に留めるよう迅速に治療を行っています。原発性自然気胸は手術後の再発が無視できない頻度で生じることが知られており、**吸収性被覆材による補強**など再発を抑制するための工夫を行っています。また当診療科が中心になって全国の施設に呼びかけて自然気胸の患者さんに**診療情報を書き込んだカード**を渡し情報の共有化を図っています。

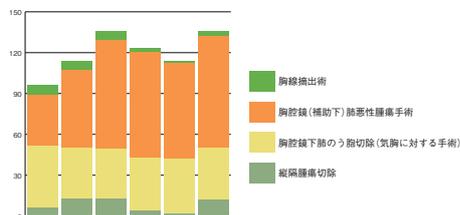
■縦隔腫瘍に対する治療

前縦隔腫瘍の手術では術中の視野を最大限確保するため**二酸化炭素送気**を併用した**胸腔鏡手術**を実施しています。進行した胸腺腫では大血管に浸潤する例が多く、心臓血管外科と連携して手術を行っています。各領域にスペシャリストが揃い、連携して診療にあたることは昭和大学病院の強みです。

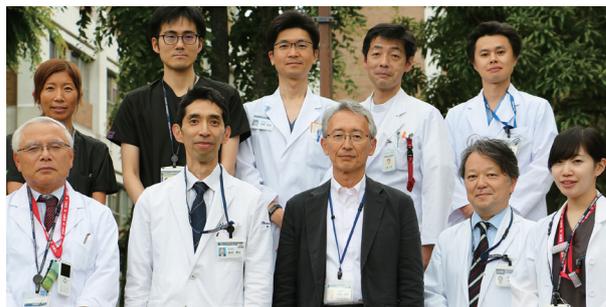
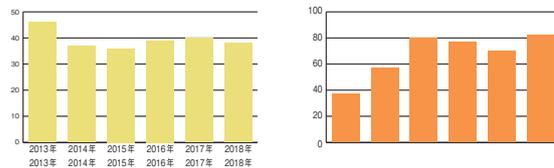
2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....3,847人
- ② 入院患者数(実数).....211人
- ③ 手術の実績

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
縦隔腫瘍切除	6	13	13	4	2	12
胸腔鏡下肺のう胞切除 (気胸に対する手術)	46	37	36	39	40	38
胸腔鏡(補助下) 肺悪性腫瘍手術	37	57	80	77	70	82
胸腔鏡摘出術	7	7	7	3	2	4



- ④ 胸腔鏡下肺のう胞切除 / 胸腔鏡(補助下)肺悪性腫瘍手術



概要

呼吸器外科

各センター案内

昭和大学病院附属東病院 診療科案内

昭和大学所属医師一覧

消化器内科

診療科長



吉田 仁
Hitoshi Yoshida

専門：膵・胆道疾患（膵炎・膵癌・胆道炎・胆道癌）

対象疾患：B型/C型ウイルス性肝炎、自己免疫性肝炎、劇症肝炎、肝癌、重症急性性肺炎、膵癌、胆道癌、胆石/膵石結石症、門脈圧亢進症、食道/胃/十二指腸潰瘍の腫瘍、潰瘍性腸炎、クローン病、大腸腫瘍、消化管機能異常 など

専門外来：

■膵臓専門外来(吉田 仁教授)：患者さんに診療予約時間にお待たせせずに受診していただけるよう、厚生労働大臣の定める特定療養費にかかる「予約に基づく診察に関する基準」に沿って、特別の料金をお支払いいただき、予約した時刻に一定時間以上の診察を受けられる、完全予約制の特別診療です。

※ご予約は、医療連携室へお電話ください。

1 特徴的な診療領域

■**肝臓：**B型およびC型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法。非アルコール性脂肪肝炎、自己免疫性肝炎を含め各種肝疾患の診断・治療。肝腫瘍の総合画像診断。肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術(RFA)、肝動脈化学塞栓術(TACE)。難治性腹水、食道・胃静脈瘤などの門脈圧亢進症の治療(腹腔静脈shunt、EVL・EIS・B-RTO)

●**ラジオ波焼灼術(RFA)**

肝臓癌に対するラジオ波治療は、超音波画像下で癌に直径1.5ミリの電極針を挿入し、ラジオ波を流して癌細胞を焼灼、破壊します。全身麻酔や開腹手術の必要がなく、肝機能が悪い場合や高齢者でも治療が可能です。肝臓癌は再発が多い癌ですが、再発が見つかってラジオ波治療は侵襲(身体の負担)が少ないため繰り返し治療を行なうことが可能です。

●**食道・胃静脈瘤(門脈圧亢進症)の治療**

門脈圧亢進とは、本来肝臓を経由して心臓に戻る門脈血流が肝硬変のため門脈圧が亢進し、食道や胃の周囲など他の血管(側副血行路)を介して心臓に戻る状態です。問題は食道や胃に静脈瘤を形成し破裂して出血をすることで命にかかわる状態になる危険があるため、静脈瘤を認めた方は定期的な上部消化管内視鏡検査、造影CT検査が必要です。当院ではさらに超音波内視鏡を用いて静脈瘤の状態を把握し、**内視鏡的静脈瘤硬化療法(EIS)**、**内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)**および、**バルーン下逆行性経静脈的塞栓術(B-RTO)**などを用い、日本門脈圧亢進症学会技術認定医のもと適切な治療法の選択を行っております。

■**膵・胆道：**膵胆道の悪性腫瘍に対する早期診断と治療。膵腫瘍および消化管粘膜下腫瘍の確定診断としての**超音波内視鏡ガイド下針生検(EUS-FNA)**。重症急性性肺炎に対する集中治療。胆道感染症、良・悪性胆道狭窄に伴う閉塞性黄疸に対する**内視鏡的胆道減圧治療(EST・EPBD/EBD=EBS・ENBD/EMS)**・胆道結石症に対する**載石術(EPLBDを含む)**。自己免疫性膵炎やIgG4関連硬化性胆管炎をはじめとするIgG4関連疾患の診断と治療を実施しています。

■**消化管：**上・下部消化管出血に対する内視鏡的止血療法、ポリープ、腫瘍に対するEMR・内視鏡的粘膜下層化剥離術(ESD)。進行悪性腫瘍に対する化学治療。潰瘍性大腸炎やクローン病の炎症性腸疾患の診断、治療を行っております。

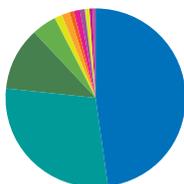
●**ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)**

早期癌に対して内視鏡的に一括切除を行う治療です。消化管の構造(胃、大腸)は粘膜、粘膜筋板、粘膜下層、固有筋層、漿膜の5層構造になっており、癌の進行が粘膜下層までに留まっている場合は、内視鏡的に粘膜下層を筋層より剥離し切除します。当院では食道、胃、大腸に対して幅広くESDを施行しています。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....51,857人
- ② 入院患者数(実数).....2,329人
- ③ 診療の実績



■ 上部消化管内視鏡	4,393件
■ 下部消化管内視鏡検査	2,645件
■ 内視鏡的大腸腫瘍粘膜切除(EMR)	1,032件
■ ERCP/経皮的胆道ドレーナージ術(PTCD/PTGBD)	409件
■ 内視鏡的止血術(上部/下部)	138件
■ 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	109件
■ 肝癌ラジオ波焼灼療法	95件
■ 内視鏡的大腸腫瘍粘膜剥離術(ESD)	91件
■ 血管造影(IVR)下肝臓治療	73件
■ 食道胃静脈瘤の内視鏡的治療(EIS/EVL)	71件
■ 内視鏡的胃腫瘍粘膜剥離術(ESD)	70件
■ 内視鏡的食道腫瘍粘膜剥離術(ESD)	29件



消化器・一般外科

診療科長



准教授

青木 武士
Takeshi Aoki

専門：肝・胆・膵の外科

対象疾患：胃癌、十二指腸癌、大腸癌、肝臓癌（肝細胞癌、肝内胆管癌、転移性肝癌）、胆道癌（胆管癌、胆嚢癌）、膵癌などの悪性腫瘍、胃粘膜下腫瘍、十二指腸腫瘍、胆嚢ポリープ、膵嚢胞性腫瘍などの良性腫瘍、外科的治療を要する胆石症、鼠径ヘルニア、慢性腎不全、急性虫垂炎などの腹部救急疾患など

専門外来：

■肝胆膵外科外来：肝胆膵疾患の外科的治療・腹腔鏡手術、肝胆膵悪性腫瘍の外科切除に化学療法・放射線療法を併用した集学的治療を受ける方の診療。

■移植・腎不全外来：腎移植を希望している方、過去に腎移植を行い現在継続的に診察を受けている方、献腎登録をしたい方・されている方のための診療を行う。

1 特徴的な診療領域

患者さんに負担の少ない低侵襲手術を教室のテーマとして取り組んでいます。専門領域（胃・大腸・肝胆膵外科・腎不全外科）から鼠径ヘルニア、急性虫垂炎などの救急疾患まで幅広く対応し、いずれの領域でも腹腔鏡手術が標準術式として確立されています。

当院ではチーム医療を基本としています。患者さんに最適な治療を提供するために、消化器内科・腫瘍内科・放射線科と連携し、病気の早期診断から手術、化学療法、放射線治療を含めた集学的治療に取り組んでいます。また、複数の医師および看護師、薬剤師など手術に関わる医療スタッフが1つのチームとなって患者さんを担当し、24時間体制で安全で根治性の高い治療をご提供できるよう心がけています。

■胃癌：胃切除術・胃全摘術ともに腹腔鏡手術を標準手術としており、早期癌だけではなく進行癌においても積極的にを行っています。食道胃接合部癌においては食道外科と連携し、胸腔鏡手術も行っています。さらに次世代の手術として**ロボット支援腹腔鏡下手術**を導入し、更なる手術の質の向上・合併症の低下を目指し、安全かつ確実な低侵襲手術を提供しております。

■大腸癌：結腸癌、直腸癌ともに腹腔鏡手術を標準手術としております。病変部位や治療対象となるリンパ節の正確な同定、吻合腸管の血流確認に**ICG蛍光法**を導入し、より安全かつ確実な手術を心がけております。

■肝臓癌：**腹腔鏡下肝切除術**は近年急速に普及し施行数は増加傾向にありますが、その歴史は未だ浅く高難度手術に位置づけられています。当科では、**3D画像解析を駆使した術前シミュレーション**・

ICG蛍光法をはじめとした**術中ナビゲーション**を手術支援に応用する先駆的施設として、安全で精緻な腹腔鏡手術をご提供します。癌の局在や適切な切除範囲・手術アプローチを手術前に詳細にシミュレーションし、手術中にナビゲーション技術を駆使し切除を行うことで、安全性と根治性の確保・残存臓器の機能維持に努めています。癌の部位によって胸腔鏡手術や最小限の開腹創を加える腹腔鏡補助下手術を選択し、個々の患者さんに応じた低侵襲手術を提供しています。

■膵臓癌：膵切除術は肝切除術と同様に高侵襲手術と位置づけられていますが、**3D画像解析による手術支援**を駆使し、良性腫瘍や低悪性度腫瘍、膵体尾癌を中心に腹腔鏡手術を積極的にを行っています。高度進行癌に対して、血管合併切除を含めた根治性を獲得する外科切除とともに手術前・手術後の化学療法・放射線療法等の集学的治療を、消化器センターの専門多職種との横断的なチーム医療体制のもと行い、適切な計画に基づいた治療を提供します。

■消化器外科救急診療
地域医療機関（開業医）の先生方との開業医ホットライン：03-6426-3325により、救急患者を受け入れます。



2 診療実績集（2018年度実績）

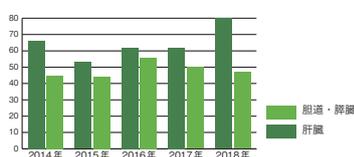
- ① 外来患者数（延数）……………14,619人
- ② 入院患者数（実数）……………1,423人
- ③ 手術の実績

- ・胆石症（118例）：腹腔鏡下率96.6%、合併症率（CD3以上）1.6%、SSI 1.6%
- ・急性虫垂炎（52例）：腹腔鏡下率100%、遺残膿瘍0%、SSI 0%
- ・鼠径ヘルニア（145例）：腹腔鏡下TAPP手術55.9%

※いずれの領域でも保険適応内での腹腔鏡手術が標準術式として確立されています。

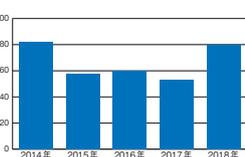
肝胆膵癌 総手術数

・肝胆膵癌（118例）：肝胆膵外科高度技能専門医
修練施設A、
胆汁嚢3.3%、膵液嚢12.2%、SSI 0%



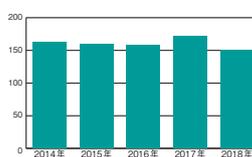
胃癌 総手術数

・胃癌（80例）：腹腔鏡下率88%、
縫合不全0.9%、膵液嚢0%、SSI 0%



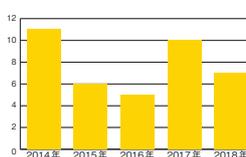
大腸癌 総手術件数

・大腸癌（150例）：腹腔鏡下率86.7%、
縫合不全3.3%、術後イレウス1.3%、
SSI 4.6%



腎移植 総手術数

・腎シャント術（173例）



食道外科

診療科長



村上 雅彦

Masahiko Murakami

専門：食道・胃の外科、腹腔鏡・胸腔鏡外科手術

対象疾患：食道がん、食道胃接合部がんを中心とした食道関連疾患

専門外来：

■特別予約診療(村上教授)：患者さんに診療予約時間にお待たせせずに受診していただけるよう、厚生労働大臣の定める特定療養費にかかる「予約に基づく診察に関する基準」に沿って、特別の料金をお支払いいただき、予約した時刻に一定時間以上の診察を受けられる、完全予約制の特別診療です。

※ご予約は、医療連携室へお電話ください。

1 特徴的な診療領域

■食道外科の食道がん治療の最大の特徴は、低侵襲で、合併症が少ない、胸腔鏡と腹腔鏡を用いた食道がん手術です。食道がん治療は1996年より手術侵襲(ダメージ)の軽減を目的に**胸腔内操作を日本で最初に完全鏡視下で行い**、腹部操作にも腹腔鏡を用いた**胸腔鏡腹腔鏡併用食道がん根治術(VATS-E)**を導入し、現在までに1,100例を越す症例数を経験しています。



『手術数でわかるいい病院2019』で
全国ランキング3位(関東ランキング2位)
手術件数139例(2017年度)
～胸腔鏡下手術率100% 全国ランキング1位～

■手術：平均手術時間5～6時間、出血量100g以下。胸部操作は、5か所の穴(5ミリの穴が3つと12ミリの穴が2つ)だけで胸腔鏡下に行い、腹部操作は、5ミリの3か所の穴と、上腹部に7～8cmの横切開下で、助手補助腹腔鏡補助下に行います。胸腔鏡という拡大視効果を最大に活用し、顕微鏡レベルでのリンパ節郭清を実現しています。手術時間を短縮することで、患者さんの身体的侵襲も極端に軽減され、手術翌日よりの早期離床・歩行が可能となりました。

■術後合併症ゼロを、目指した『食道癌治療チーム』が構築されています。反回神経麻痺、肺炎、縫合不全の合併症については、いずれも他施設よりは低率で、特に**縫合不全は、この4年間で0.7%**(全国的には14～27%)となっております。

■食道がんに対する**ダヴィンチ手術**が2018年4月の診療報酬改定で保険適用になり、当科でもすでに開始しております。食道専門医としては、日本内視鏡外科学会食道癌技術認定医3名、食道科認定医5名、食道外科専門医2名、食道学会評議員3名が常勤です。

■月～土まで常時食道外科専門医が外来待機しています。

- ・食道外科専門医外来
- 月～水曜日：医局員
- 木曜日 午前：村上教授・大塚講師
午後：五藤講師
- 金曜日 午前：村上教授
- 土曜日 午前：有吉講師・山下講師
(1・3・5週) (2・4週)

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数)……………2,381人(2018年11月～)
- ② 入院患者数(実数)……………245人(2018年11月～)
- ③ 手術の実績

食道癌(128例)	腔鏡下率……………100%
	縫合不全……………3.9%
	反回神経麻痺……………6.2%
	肺炎……………9.3%

《消化器・一般外科、食道外科》



循環器内科

診療科長



新家 俊郎

Toshiro Shinke

専門：心血管カテーテル治療、虚血性心疾患、弁膜症、心不全、肺高血圧症、成人先天性心疾患

対象疾患：急性心筋梗塞、狭心症、不整脈、失神、弁膜症、心筋症、心不全、肺高血圧症、成人先天性心疾患、睡眠時無呼吸症候群、脂質異常症、家族性高コレステロール血症、高血圧症、閉塞性動脈硬化症

専門外来：

- 虚血性心疾患外来：胸痛、狭心症、心筋梗塞が疑われる方
- 不整脈外来：動悸・失神・めまい症状など不整脈疾患を疑う方
- TAVI外来：大動脈弁狭窄症で手術リスクが高い方を対象
- ASO・肺高血圧外来：閉塞性動脈硬化症、肺高血圧症の方
- 生活習慣病外来：高血圧や脂質異常症などの生活習慣病の方、家族性高コレステロール血症や脂質低下薬治療でお困りの方

1 特徴的な診療領域

■循環器疾患救急診療：救急隊や消防庁からのCCUネットワーク、地域医療機関（開業医）の先生方との開業医ホットライン（ハートラインシステム：03-3784-8180）により、24時間、365日救急患者を受け入れます。

■虚血性心疾患治療：急性心筋梗塞、重症冠動脈硬化症。慢性完全閉塞病変を含む複雑冠動脈病変に対する**難易度の高い経皮的冠動脈インターベンション(PCI)**

●高速回転冠動脈アブレーション（ロータブレーター）を用いた高難度病変の治療：

ロータブレーターによる治療は通常の経皮的冠動脈形成術（バルーン拡張など）では治療が困難とされている高度石灰化病変に対して行われる治療方法です。高度の石灰化病変は特に透析の患者さんに多く認められ、石灰化によりバルーンでは拡張ができないような病変では、比較的難易度の高い手技であるロータブレーターを、当院では積極的に施行しており良好な成績を残しています。

●血管内超音波法、光干渉断層映像法ガイドによるPCIの成績向上：血管内画像診断を用いてより詳細に病態を把握し、PCI治療で冠動脈を理想的な状態に回復させます。

■不整脈疾患、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症、心室頻拍や頻発性心室期外収縮に対するカテーテル心筋焼灼術。従来のペースメーカー植込術、植込型除細動器および両心室ペーシング機能付き植込み型除細動器移植術に加え、リードレスペースメーカー、ペースメーカーリード除去術。致死性不整脈、遺伝性不整脈の遺伝学的検査を含めた診断と治療。ペースメーカー外来では、定期的なチェックを行います。

■失神の診断と治療、Head-up-tilt testや植込型心電計を用いて原因不明の失神の正確な診断

●アブレーションによる3Dマッピングシステム：頻脈性不整脈の発生源部位や頻拍の原因となる副伝導路などを探し出し、

高周波エネルギーをカテーテル電極に通電して心筋の一部を焼灼するという不整脈の根治治療法です。3Dマッピングでは、CT写真から3D画像（立体画像）を構築したうえでモニターに表示し、その上にリアルタイムにカテーテルの動きを表示させることができ、複雑な心臓内でのカテーテルの位置関係の把握が容易になります。また、心臓内の電位情報も同時に表示できるため、複雑な不整脈でも、頻拍回路や起源の同定が可能となり、通電部位の決定の一助になります。

■弁膜症、高齢者の重症大動脈弁狭窄症に対する**経カテーテル大動脈弁留置術 (TAVI)**。循環器センターチームで低侵襲な治療を行います。

■心不全、重症心不全に対する和温療法を含む積極的治療

■心筋症などの難病疾患の診断には、画像診断に加えてカテーテルによる**心筋生検**を行い病理組織学的に正確な診断を行って適切な治療を行うように努めています。

■閉塞性動脈硬化症：病状に応じた積極的な血行再建により、跛行症状の改善と創傷治癒を目指します

■**心大血管リハビリテーション**：心筋梗塞、心不全、閉塞性動脈硬化症、心大血管術後の患者さんに積極的な患者教育と運動療法を含むトータルケアを行っています。

■肺循環障害、肺高血圧症：慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する**バルーン肺動脈形成術**

■先天性心疾患：**心房中隔欠損症、動脈管開存症に対する経カテーテル閉鎖術**

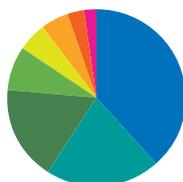
■睡眠時無呼吸の診断として**終夜睡眠ポリグラフィ**。血管内皮機能検査、心肺運動負荷試験、運動負荷心エコー検査など非侵襲的生理機能検査。

■各種心臓画像診断：心臓核医学検査、冠動脈および心臓CT、経胸壁・経食道心エコー検査、心臓MRIなど画像診断による心疾患の詳細な診断。

■動脈硬化性疾患の高リスク状態の高血圧、特に治療抵抗性高血圧や脂質異常症、特に**家族性高コレステロール血症**

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....40,281人
- ② 入院患者数(実数).....2,079人
- ③ 入院疾患別の実績



■狭心症、慢性虚血性心疾患	736人
■頻脈性不整脈	395人
■心不全	330人
■閉塞性動脈疾患	152人
■徐脈性不整脈	100人
■急性心筋梗塞	99人
■弁膜症	56人
■肺塞栓症	40人



心臓血管外科

診療科長



青木 淳

Atsushi Aoki

専門：成人心疾患、血管内治療

対象疾患：虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)、心臓弁膜症(大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁閉鎖不全症など)、大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、急性・慢性大動脈解離)、末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症)などの成人心臓血管外科領域

専門外来

- 下肢静脈瘤外来：下肢静脈瘤、静脈疾患の診療を行う。
- TAVI外来(循環器内科)：循環器センターチームで治療を行う。

1 特徴的な診療領域

当科では、開胸や開腹を要する手術であっても、可能な限り身体に負担の少ない手術を選択し、更に高齢や合併疾患のため、通常の手術が出来ない方々に対しては、血管の中から治療する血管内治療を積極的に行っています。

通常的心臓に対する手術に関して、狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈バイパス術は、脳梗塞や出血の危険が少ない、心臓が拍動した状態で行う**心拍動下冠動脈バイパス手術**が98%を占めます。僧帽弁弁膜症に対しては、ご自分の弁を温存して修復する**僧帽弁形成術**を第一選択とし、僧帽弁閉鎖不全の方では、97%で**僧帽弁形成術**を行っています。また、心房細動を伴っている方に対しては、積極的に心房細動を止める**メイズ手術**を行い、術後、ワーファリンによる抗凝固療法が不要となる手術に努めています。

大動脈瘤に対しては、従来の手術に比べると身体への負担がきわめて少ない、開胸や開腹を行わない**ステントグラフト治療**を積極的に行っています。体表からアクセス可能な血管に対するバイパス手術とステントグラフト治療を組み合わせた**ハイブリッドステントグラフト治療**により血管内治療の適応は拡大でき、実際に、この血管内治療を積極的に導入してから、胸部大動脈瘤に対する手術成績は改善しました。実際に、ステントグラフト治療であれば、85歳以上の方でも、安全に手術を受けられる事が可能で、術後1週間程度で退院することが可能です。

最近の心臓血管外科領域で話題となっている新しい治療として、ヨーロッパを中心に行われてきた、大動脈弁狭窄症に対するカ

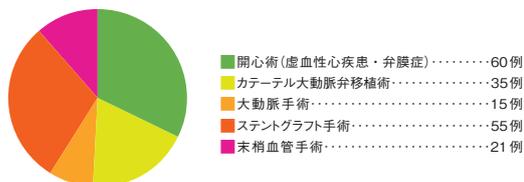
テーテルを用いた大動脈弁移植術があります。日本でも、2014年にこの新しい治療が導入されましたが、この治療を行うには、固定型血管造影装置を備えた手術室である**ハイブリッド手術室**が必要であり、昭和大学では、2014年からこの新しい治療法の導入の準備を開始し、2015年12月から**経カテーテル大動脈弁移植術**を開始して以来、近隣の先生方から多くの患者様をご紹介して頂いています。現在までに、100名以上の方に治療を行いました。治療については循環器内科、心臓血管外科を中心に、麻酔科医、臨床工学技士、放射線技師、看護師、リハビリスタッフなど、担当する診療科の垣根を越え、チーム医療としてスタッフ一同協力して治療を行っています。最近では90歳以上の方々に手術を行っていますが、手術翌日からの歩行、食事ができるなど、身体への負担が随分軽くなりました。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....2,100人
- ② 入院患者数(実数).....159人

③ 手術の実績



小児循環器・成人先天性心疾患センター (小児循環器内科、 小児心臓血管外科)

センター長・小児循環器内科診療科長



富田 英

Hideshi Tomita

専門：小児循環器学、先天性心疾患のカテーテル治療、成人先天性心疾患

小児心臓血管外科診療科長



宮原 義典

Yoshinori Miyahara

専門：小児心臓外科

対象疾患：

- ・先天性心疾患：心室中隔欠損、心房中隔欠損、動脈管開存、房室中隔欠損、ファロー四徴、大血管転位、両大血管右室起始、総肺静脈還流異常、単心室、左心低形成症候群、総動脈幹、大動脈縮窄、大動脈弁狭窄、肺動脈弁狭窄、エプスタイン病
- ・冠動脈瘤などの心血管障害を合併した川崎病、小児の肺高血圧、心筋炎、心筋症
- ・小児および先天性心疾患にともなう不整脈：心房細動、心房粗動、上室頻拍、心室頻拍、ペースメーカー
- ・子供の時期に心臓病の手術を受け成人された、または成人まで未治療で経過されている成人先天性心疾患
- ・胎児の心臓病

専門外来■胎児心エコー：胎児期からの心疾患管理を行う。

1 特徴的な診療領域

2018年1月1日より、昭和大学病院小児循環器・成人先天性心疾患センターが開設されました。

小児循環器内科は富田英を診療科長として、胎児エコーによる胎児期からの心疾患管理、新生児期から成人までの内科治療やカテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーションやデバイス治療を行います。

小児心臓血管外科は宮原義典を診療科長として、新生児から成人まであらゆる年齢層の先天性心疾患に対する外科治療を行います。**カリフォルニア大学サンフランシスコ校の佐野俊二教授が特任教授として数ヶ月に1回来院し執刀します。**

当院は、子供の時に心臓病の手術をして成人された、または成人まで未治療で経過されている等の**成人先天性心疾患の専門医総合修練施設として認定**され、専門医が診療しています。

■「心雑音が聞こえた」、「チアノーゼがある」、「川崎病後の後遺症が心配」、「学校心電図検診で異常を指摘された」、「子供の頃心臓病の手術を受けたけれどもその後検査を受けていない」、「ご家族に心臓病の方がたくさんいて心配」、「お腹の中の赤ちゃんの心臓病が心配」、このような患者さんがいらっしゃいましたら年齢を問わず、**富田、藤井、柿本、**

清水の外來にご紹介ください。

■動脈管開存や心房中隔欠損を開胸せずに治療したいとご希望の患者さんがいらっしゃいましたら、**富田、藤井**の外來にご紹介ください。

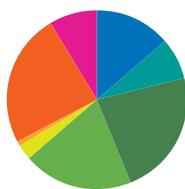
■日本胎児心臓病学会の胎児心臓超音波専門施設として認定を受けており、胎児心臓超音波検査は当院産婦人科と連携して診療に当たっています。**胎児期に心臓病と診断された、あるいは疑われた患者さんはまず当院産婦人科にご紹介ください。**当センタースタッフによる精密検査を行った上で、総合周産期母子医療センター(産婦人科、小児科、小児外科)と連携して出生前の管理から、出生後の心臓手術、フォローアップを含む治療を包括的に行うことができます。

■子供の時に心臓病の手術をして成人された患者さん、小児から先天性心疾患にともなう不整脈でお困りの患者さんは**藤井、富田、藤井**の外來にご紹介ください。

***佐野教授のセカンドオピニオンを受けることができます。不定期ですが、日本国内で佐野教授の手術やセカンドオピニオンを受けることができるのは当センターのみです。**

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....3,174人
- ② 入院患者数(実数).....251人
- ③ 診療の実績



■心臓血管外科手術(人工心臓使用).....54件
■心臓血管外科手術(人工心臓非使用).....30件
■先天性心疾患心臓カテーテル検査.....90件
■先天性心疾患カテーテル治療.....78件
■カテーテルアブレーション.....11件
■デバイス治療.....3件
■心臓CT.....96件
■心臓MRI.....33件



産婦人科

診療科長



関沢 明彦
Akihiko Sekizawa

専門：出生前検査・ハイリスク妊娠

対象疾患：

- ・周産期分野：出生前遺伝学的検査、胎児形態異常評価、胎児治療、ハイリスク妊娠・分娩管理
- ・婦人科分野：悪性腫瘍、良性腫瘍、性器脱、生殖補助医療（主に体外受精）
- ・女性医学：思春期、更年期医学、女性心身

1 特徴的な診療領域

産科病棟は東京都が認定する**母体救命対応型総合周産期母子医療センター**であり、入院棟5階にはMFICU(母体の集中治療室)が9床、LDRが6床(分娩はすべてLDRです)、6階には一般産科38床と20床の新生児室があります。婦人科病棟は、中央棟8階Bの**女性病棟**に27床あります。

■**産科**：超音波専門医の下で、最新の超音波機器による精密な胎児形態評価を妊娠初期と中期の2回行っています。この2回の検査による胎児形態異常の**診断精度は国内でトップクラス**にあります。健診で十分なリスク評価を行うことで、母子ともに安全な周産期管理が可能になると考えています。当院では妊娠11～13週の妊婦さんを対象にした「胎児ドック」を実施しています。また、母体救命対応型総合周産期母子医療センター(スーパー周産期センター)として都内全域の母体緊急に対応しています。

今年度より**無痛分娩**をスタートさせました。常勤の周産期麻酔科医師を配置し、総合周産期母子医療センターの特長を活かし、ハイリスクからローリスク妊婦まで、ハイクオリティかつ安全な無痛分娩を提供しています。

■**婦人科**：腹腔鏡技術認定医の指導の下、婦人科良性腫瘍の手術のほとんどが腹腔鏡下で行われており、**腹腔鏡下手術数においても都内屈指**を誇っています。また、新しい子宮脱手術として腹腔鏡下仙骨腔固定術も数多く行っています。先進医療として広汎子宮全摘術、また保険診療として初期子宮体がん、良性婦人科疾患に対する**ロボット支援**

下手術を行っています。婦人科悪性腫瘍に対しては、経験豊かな婦人科腫瘍専門医を中心に、低侵襲で、個別化した治療を行っています。

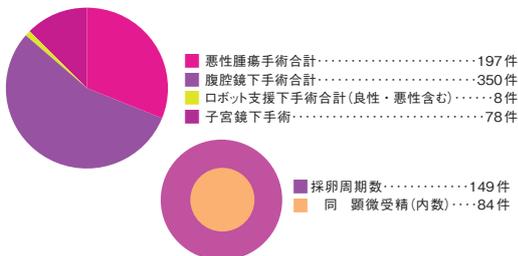
■**生殖医療**：合併症を持つ女性や繰り返して実施した不妊治療で妊娠できない女性に対して**体外受精などの先進的な生殖補助医療**を行っています。また、近年「がん・生殖医療」が注目されています。婦人科がんに限らず、乳がんなどいろいろな臓器のがん治療によって生殖能力が低下すること備えた医療として、希望者に**がん治療前に卵子や受精卵(胚)の凍結保存**を行っています。

■**遺伝医療**：周産期や遺伝性腫瘍に関連した遺伝カウンセリングを臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラーが十分な時間をかけて行っています。具体例として**母体血胎児染色体検査(NIPT)**など、出生前検査に関連する遺伝カウンセリングを行っています。また、出生前検査全般についてセミナー形式で解説する「出生前検査教室」も行っています。家族性腫瘍専門外来においては乳がんや卵巣がんの患者でBRCA1/2遺伝子検査やその結果を踏まえたカウンセリングを行っています。また、変異陽性者への予防的卵管卵巣切除などにも対応しています。

NIPTのご予約については、[昭和大学病院ホームページ](#)→診療科紹介「産婦人科」→「産婦人科学教室」からWEB予約のみで対応させていただきます。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....46,278人
- ② 入院患者数(実数).....2,741人
- ③ 手術の実績



小児科

診療科長



水野 克己
Katsumi Mizuno

専門：新生児疾患・母乳育児支援

対象疾患：新生児疾患、神経疾患、重症心身障害児、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、川崎病、低身長、急性期感染症、尿路感染症、ネフローゼ症候群、起立性調節障害など

専門外来：

- 神経外来：てんかん、発達遅滞、神経・筋疾患、神経皮膚症候群の診療
- アレルギー外来：気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎の診療
- 内分泌外来：低身長、甲状腺疾患・生活習慣病の診療
- 腎臓外来：血尿、ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、尿路感染症、夜尿の診療
- 母乳と薬外来：授乳中のお母さんの服用薬の相談
- 乳児摂食外来：摂食嚥下障害の診療
- 起立性調節障害外来：不登校、朝起きられない、午前中気分優れない等の症状をお持ちの方の診療

1 特徴的な診療領域

当科では、大学病院としての専門性の高い医療を提供するとともに、地域の高次医療機関としての急性期疾患の診療を行っております。特に、神経疾患では、遺伝子解析から、画像診断、治療と包括的に診療しております。また、アレルギー疾患では、小児のアレルギー疾患を幅広く診療しております。**アレルギー外来では国内最大規模で食物経口負荷試験を年間1,500件を超える件数を実施**し、緩徐経口免疫療法も行っております。食物アレルギーばかりではなく、難治喘息、重症アトピー性皮膚炎等、小児アレルギー疾患の全般に高度な診療を提供しております。

平日夜間は、品川区初期救急準夜間診療事業委託により、当院小児科外来を利用し『品川区こども夜間救急室』を開設しております。

小さなお子さんの夜間の急な発熱等の症状でご心配な時の受診相談窓口
受付時間 20:00～22:30 / (土曜日(第2・4):17:00～21:30)

病棟では保育士もおり、入院している子供たちを担当しております。また、当院では**院内学級(さいかち学級)**が開設されており、学童期以上の子供たちの教育をサポートしております。

先天性心疾患は「小児循環器・成人先天性心疾患センター」と、白血病やその他の血液疾患は「昭和大学藤が丘病院小児科」と連携しております。

予防接種は基礎疾患のある患者さんのみ対応させていただきます。

り、かかりつけ医での接種をお勧めしております。

当施設は東京都より**総合周産期母子医療センターの指定**を受けております。NICUでは、早産児や低出生体重児だけでなく、様々な合併症をもつハイリスク新生児の診療を行っております。また、2009年からは**母体救命対応型総合周産期母子医療センター(スーパー周産期センター)**として、東京都全域から母体ならびに新生児搬送を積極的に受け入れております。

産科はもちろんのこと、小児外科や循環器、腎、遺伝など各専門分野の診療グループとも連携し、幅広い疾患に対応しております。また、急性期の治療だけでなく、産前訪問(プレネイタルビジット)や、NICUでの入院生活を経て退院した後にご家族が安心して育児に取り組める環境の調整など、赤ちゃんをご家庭に迎えるご家族にも配慮した診療を心がけております。

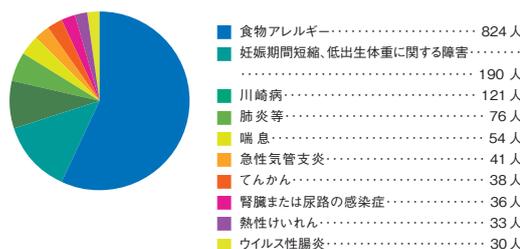


2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....25,935人
- ② 入院患者数(実数).....1,817人



③ 入院疾患別の実績



概要

小児科

各センター案内

昭和大学病院附属東病院

診療科案内

昭和大学所属医師一覧

小児外科

診療科長



渡井 有

Yu Watarai

専門：新生児外科、小児内視鏡外科（胸腔鏡・腹腔鏡）手術、ヒルシュブルグ病、ヒルシュブルグ病類縁疾患

対象疾患：脳神経、心臓、骨格以外の小児外科疾患に対し、広く対応している。

- ・呼吸器疾患（嚢胞性肺疾患、横隔膜ヘルニア、肺分画症など）
- ・消化管疾患（壊死性腸炎、食道閉鎖症、腸閉鎖症、直腸肛門疾患、ヒルシュブルグ病、腸回転異常症、肥厚性幽門狭窄症など）
- ・体表疾患（鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、臍帯ヘルニア、リンパ管腫、血管腫など）
- ・肝・胆道疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症など）
- ・泌尿器疾患（腎盂尿管移行部狭窄症、膀胱尿管逆流症など）
- ・固形腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、奇形腫など）
- ・乳児痔瘻、腸重積症、急性虫垂炎、異物誤嚥、誤飲、胸腹部外傷
- ・便秘

1 特徴的な診療領域

小児外科は、昭和大学の3つの病院（昭和大学病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院）があり、これらの病院が常に横の連携を重視し、まとまった1つの小児外科診療グループとして患者さんに対応しています。また、スタッフ全員で患者さんを把握して診ていくという方針で診療に当たり、24時間体制で診療に従事しています。従って、いつでも病状に対応することが可能で、患者さんには安心して治療に専念できる環境を提供しています。当院の小児外科でも腹腔鏡手術を導入し手技も確立され安全で整容性の高い手術が可能になっています。

小児外科は生まれて成長するまでのすべての外科領域を受け持っています。新生児、乳児、学童それぞれに年齢特有の疾患があります。例えば、新生児では先天性疾患、学童では後天性疾患などです。それらの疾患に対して、専門的な知識で診療を行っています。自然治癒もしくは保存的療法で治癒が期待できる疾患に対しては積極的に保存療法を行う方針としています。例えば、臍ヘルニア、包茎などはほとんど手術を必要としません。さらに、慢性的便秘に対する**排便コントロール**も外来で対応しています。

また、我々の診療に対する理念は、いかに**患児および家族のニーズに応えられるか**を追及することであり、外科的侵襲を最小限にとどめた治療を目指しています。また、小児にとってハンディーキャップとなる手術創は整容性に十分配慮する必要があることを強調してきました。今

後もこのスタンスを変えることなく診療に当たりたいと考えています。

■小児胸腔腹腔鏡下手術

鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、胸部疾患、腹部疾患、横隔膜疾患、付属器疾患など小児外科疾患の多くに腹腔鏡下手術、navigation手術を取り入れています。低侵襲で整容性の高い機能を温存した手術を行っています。

■新生児外科疾患

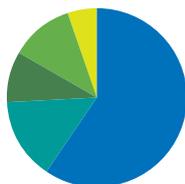
現在では多くのお子さんが胎児期に病気がわかるようになってきました。小児外科では産婦人科・新生児科と連携し安全に低侵襲な手術を行っています。術創はおへそを使用することで傷が目立たなくかつ侵襲の少ない手術を行います。

■血管腫・リンパ管腫

血管腫・リンパ管腫に対しては手術療法のみならず硬化療法、漢方薬を含む内科療法も行っています。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....4,875人
- ② 入院患者数(実数).....269人
- ③ 手術の実績



- 鼠径ヘルニア根治術(うち腹腔鏡手術72件).....118件
- 停留精巣手術.....29件
- 臍ヘルニア根治術.....18件
- 急性虫垂炎(うち腹腔鏡手術23例).....23件
- 新生児手術数(十二指腸閉鎖、直腸肛門奇形、消化管穿孔、横隔膜ヘルニア、食道閉鎖症など).....10件

※鏡視下手術95件(鏡視下手術率42%)



脳神経外科

診療科長



水谷 徹
Toru Mizutani

専門：脳血管障害、脳動脈瘤クリッピング術、頸部頸動脈内膜剥離術、バイパス術、解離性脳動脈瘤、脳血管病理、良性腫瘍（聴神経腫瘍、髄膜腫ほか）

対象疾患：脳動脈瘤、頸部頸動脈狭窄、脳動脈静脈奇形（AVM）、脳血管障害、脳腫瘍、顔面けいれん、くも膜下出血、脳出血、急性期脳梗塞、正常圧水頭症

専門外来：

- 顔面けいれん、三叉神経痛：これらは500円玉程度の開窓から行う鍵穴手術（微小血管減圧術）で劇的に治癒する病態です。清水が名手で全国からの紹介を集めています。
- てんかん外科：佐藤洋輔助教が中心になり難治性てんかんに対する外科的治療を行う。てんかん治療センターは東京でも数か所しかなく、地域のニーズに応えたいと思います。
- 下垂体：神経内視鏡を用いた低侵襲な下垂体腫瘍の摘出術を行っています。谷岡が名手です。

1 特徴的な診療領域

科長の水谷は2012年4月より昭和大学医学部脳神経外科学講座を担当させていただいています。

1984年に東京大学を卒業後、東京都多摩地区での20数年間を経て特に脳血管障害の手術治療、良性脳腫瘍の手術を中心に取り組んできました。科長となった前任地の東京都立多摩総合医療センターから昭和大学での2001年7月から2018年の期間にわたって主導した脳神経外科手術件数が9,461件でした。中でも脳動脈瘤クリッピング術1,839件、頸部頸動脈内膜剥離術851件、脳血管バイパス術470件、脳腫瘍摘出術1,094件と日本有数の規模の手術にかかわってきました。脳動脈瘤の中でも、特に**解離性脳動脈瘤治療経験数は400例を超え、恐らく世界一と自負**しています。また**脳動脈静脈奇形（AVM）の手術経験も100件**を超えています。

■脳血管障害の治療

2018年の昭和大学での手術件数は578件（うち血管内治療152件）でした。脳動脈瘤開頭術75件、脳動脈瘤血管内治療47件、頸部頸動脈内膜剥離術42件、頸部頸動脈ステント24件、バイパス術12件でした。特に脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術は全国有数です。

科長の水谷は、手術難易度が高いと言われる巨大動脈瘤、解離性動脈瘤、脳動脈静脈奇形、頭蓋底髄膜腫や聴神経腫瘍などの治療経験が豊富です。巨大脳動脈瘤は、破裂率が通常のサイズの動脈瘤の何倍も高く、治

療難度も高い動脈瘤です。治療は開頭手術が主体になりますが、動脈瘤自体にクリップをかけることが困難な場合には、動脈瘤が発生している動脈を閉塞させ、代わりにバイパスを作成する「脳動脈バイパス術」やカテーテルを用いた「脳動脈瘤塞栓術」との複合治療など、患者さんの脳動脈瘤に適した手術方法を提案しています。それぞれの疾患解説や担当スタッフ、治療成績については昭和大学脳神経外科ホームページをご参照ください。

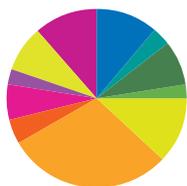
■脳腫瘍（良性）・頭蓋底腫瘍手術

新たな神経症状を出さないことをモットーに、血管や脳神経、脳幹部との癒着が強い場合には意図的に皮一枚腫瘍を残し臨機応変にガンマナイフ、サイバーナイフ治療等の補助治療と組み合わせた集学的な治療を行います。また、脳原発の腫瘍以外の耳鼻科や眼科領域の頭蓋底腫瘍に対しても、耳鼻科・眼科・形成外科と連携して治療を行います。聴神経腫瘍やその他難易度の高い頭蓋底腫瘍などに対しても、モニタリング・ナビゲーションを常用し、経験豊富な水谷、清水が頭蓋底外科手技を駆使した安全確実な手術を行っています。下垂体内視鏡手術は経験豊富な谷岡が専門です。

■頸部頸動脈狭窄：多数の経験を生かした内膜剥離術（CEA）、頸動脈ステント（CAS）の治療適応の判断、循環器内科と連携し治療しています。

2 診療実績集（2018年度実績）

- ① 外来患者数（延数）……………8,322人
- ② 入院患者数（実数）……………902人
- ③ 手術の実績……………総手術数：578件



■主な術式

脳動脈瘤クリッピング術	未破裂脳動脈瘤	58件
同	破裂脳動脈瘤	17件
頸動脈内膜剥離術（CEA）		42件
脳動脈バイパス術		12件
脳腫瘍摘出術・生検術		63件
脳血管内手術		152件
頸動脈ステント留置術（CAS）		24件
脳動脈瘤コイル塞栓術	未破裂脳動脈瘤	33件
同	破裂脳動脈瘤	14件
急性期再開通		43件
脳神経減圧術（顔面けいれん、三叉神経痛）		58件



救命救急科

診療科長



土肥 謙二

Kenji Dohi

専門：救急・集中治療、神経救急（神経集中治療）、
脳神経外科、災害医療

対象疾患：

- ・救急専門医が主に診療：来院時心肺停止、ショック、原因不明の意識障害、敗血症、DIC、多臓器不全、中毒、溺水、熱中症など
- ・救急専門医と複数科専門医によるチーム診療：多発外傷、喘息重積、痙攣重積、大動脈破裂、劇症肝炎、高血糖性昏迷など
- ・各科派遣医、各科専門医による診療：脳卒中、心筋梗塞、消化管穿孔、消化管出血、四肢骨折など

1 特徴的な診療領域

救命救急科は主に救命救急センターにて24時間体制で東京消防庁指令センターからのホットラインによって傷病者を受入れています。また他の医療機関で対応が困難な重症患者や、当救急医療センターに搬送された2次救急患者のうち重症なケースに対応いたしております。現在の救急車の応需率は95%程度で年間1,250例程度の重症症例の診療にあたっています。救命救急センターでは救急隊や医師により重症と判断された救急患者にのみ対応しているために、患者さんやそのご家族が直接、救命救急科による診療を希望しても受診することはできません。その場合には初診受付あるいは救急医療センターで対応したうえでトリアージ(重症度と緊急度によって分類)を行い適切な部署で対応いたします。

救命救急センターの診療チームは多くの多職種の医療スタッフにより構成されています。病院前診療から退院まで包括的な医療を提供するために、救急隊員や救急救命士、薬剤師、管理栄養士、診療録管理士、ソーシャルワーカーなど多職種がチーム医療の長所を生かした高度かつ安全な医療を提供しています。患者の救命を第一目的に緊急度、重症度を早急に判断し、呼吸・循環・中枢神経系の異常の一次的検索とその正常化を、迅速に行います。当院は大学病院併設の救命救急センターという特徴を生かして救急専門医と複数科専門医、各科派遣医および各科専門医各科と協働し患者さんの診

療にあたります。救命から集中治療を経て患者さんの状態に一定の目処が立ったあとは、最終的には各診療科の専門医が診療の主体になります。

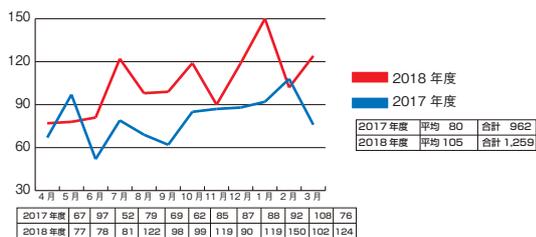
また、救急医療の専門医にとって重要な仕事の一つに“災害医療への取り組み”があります。2017年より昭和大救急医学講座は救急・災害医学講座へと名称変更し、災害医学、災害医療に注力しています。昭和大病院は東京DMAT (disaster medical assistance team) 日本DMATを有しており、地域災害から広域災害の現場で日々活動しています。

また、特定機能病院の救命救急センターとして当センターでは高気圧酸素治療装置を用いた急性期治療、先進医療として心肺蘇生後の脳障害に対する水素吸入療法・低体温療法を行っています。

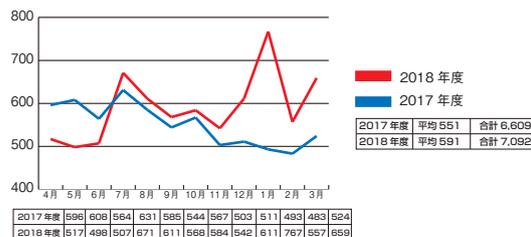


2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....918人
- ② 入院患者数(実数).....788人
- ③ 救急車搬送患者数(3次救急)



- ④ 救急車搬送患者数 (全体)



リウマチ・膠原病内科

2020.7～変更、現在は昭和大学病院附属東病院で外来を行っています。



准教授
矢嶋 宣幸
Nobuyuki Yajima

専門：リウマチ膠原病疾患全般

対象疾患：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、急性あるいは慢性的な関節、筋症状（疼痛や腫脹など）や発熱、多発性筋炎/皮膚筋炎、成人ステイル病、パーチエット病、血管炎症候群、膠原病類縁疾患、好酸球増多疾患、原因不明熱等の鑑別診断など

専門外来：

- リウマチ膠原病母性外来：妊娠を考える、出産予定の患者さんのリウマチ膠原病疾患の診療を行う。
- SLE 専門外来：全身性エリテマトーデス（SLE）の専門的診療を行う。

1 特徴的な診療領域

リウマチ・膠原病分野においては、東京城南地区から川崎、横浜まで網羅し、都内でも屈指のハイボリュームセンターとして、経験豊富なスタッフが診療に当たっております。

■ 関節リウマチ

MTX（メトトレキサート）を中心とした抗リウマチ薬を使用するのみならず、インフリキシマブ、エタネルセプト、トシリズマブ、サリルマブ、アダリムマブ、アバタセプト、ゴリムマブ、セルトリズマブ ペゴルなどの生物学的製剤、トファチニブ、バリシニブなどの低分子化合物を比較的早期から積極的に投与しており、多くの患者さんが寛解に至っております。また、骨粗鬆症の治療や骨びらの進行抑制を目的にデノスマブ治療も併行して行っております。

■ 膠原病（自己免疫性疾患）

標準的なステロイド治療に加えて免疫抑制剤（シクロフォスファミド、シクロスポリン、アザチオプリン、タクロリムス、ミコフェノレートモフェチル）、ヒドロキシクロロキン、生物学的製剤（ベリムマブ、リツキシマブ、イクセキズマブ、プロダルマブ、ウステキヌマブ、セクキヌマブ、メボリズマブなど）も併用し、また必要に応じて大量ガンマグロブリン療法や血漿交換療法を併用するなどの集学的診療を行っており、治療成績の改善や入院期間の短縮化が得られています。

■ 難治性ANCA関連血管炎に対するリツキシマブ療法

ステロイドや免疫抑制剤に治療抵抗性のANCA 関連血管炎に対してリツキシマブ療法を行っております。リツキシマブの膠原病領域での適応は今後拡大していくものと思われ、今後必要な症例には積極的な使用を考慮していきます。

■ リウマチ膠原病内科母性内科外来

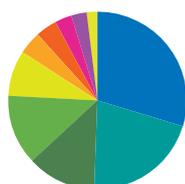
関節リウマチや膠原病の若い患者さんにとって妊娠・出産といったライフイベントと治療の両立は非常に大切なテーマです。より安全な妊娠・出産をサポートするためには妊娠に伴う生理的な変化を理解し、産婦人科との連携が必要です。週2回の専門外来を通じて妊娠を希望する患者さんに寄り添った最善の医療を提供できるよう日々取り組んでいます。

■ SLE 専門外来

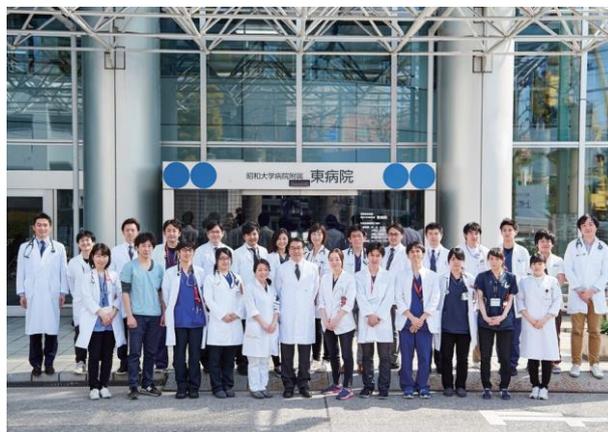
2017年5月より全身性エリテマトーデス(SLE)の患者さんのための専門外来を開始いたしました。当科ではSLEを注力する疾患の一つと位置付け、日々診療および研究にあたっております。患者さんと共に病気に立ち向かい、大小さまざまな不安な点を解決できる外来を目指します。

2 診療実績集（2018年度実績）

- ① 外来患者数（延数）……………20,442人
- ② 入院患者数（実数）……………385人
- ③ 入院疾患別の実績（上位10位）



■ ANCA 関連血管炎……………	78人
■ 関節リウマチ……………	54人
■ 全身性エリテマトーデス……………	33人
■ 炎症性筋炎（皮膚筋炎、多発性筋炎など）……………	33人
■ 全身性強皮症……………	22人
■ 結晶性関節炎……………	11人
■ 巨細胞性動脈炎……………	10人
■ 血清反応陰性関節炎……………	8人
■ 結節性多発動脈炎……………	7人
■ 成人発症ステイル病……………	5人



腎臓内科

診療科長



本田 浩一

Hirokazu Honda

専門：腎疾患全般、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、血液浄化医学

対象疾患：蛋白尿・血尿、IgA腎症などの腎炎やネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、高血圧性腎障害、ループス腎炎などの膠原病の腎障害、半月体形成性腎炎、多発性嚢胞腎・ファブリー病などの遺伝性腎疾患、急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(保存期、血液透析・腹膜透析・腎臓移植などの腎代替療法が必要な末期腎不全、透析関連合併症)、水・電解質異常、アフェレシス療法を必要とする疾患全般、痛風

専門外来

- 腹膜透析外来：腹膜透析の管理を行う。
- 腎不全外来：進行した慢性腎不全に対する腎代替療法(透析療法や腎移植)の選択や指導、相談を行う。
- バスキュラーアクセス外来：内シャントなどのバスキュラーアクセスの定期的管理、VAのトラブル時、血管内治療を行う。
- 透析合併症外来：透析に関連した合併症に対し、様々な検査を用いて病態を評価し、適切な治療方針の決定を行う。

1 特徴的な診療領域

腎炎、ネフローゼの診療では、腎生検により腎疾患の病理診断および組織学的重症度の評価を行い、臨床的な重症度も考慮して治療を行っています。また、薬物治療で十分な効果が得られない膠原病、神経免疫疾患、血液疾患、閉塞性動脈硬化症、一部の皮膚疾患、潰瘍性大腸炎などの疾患に対し**アフェレシス療法**を施行しています。これは、患者さんの血液から病気の原因と関連する物質を直接取り出して除去する治療法です。さらに重症感染症や心不全などが原因の多臓器不全に対し**急性血液浄化療法**を行っています。これらの疾患では、適切なタイミングで血液浄化療法を提案・実施し、各担当の診療科と密接に協力して治療にあたります。

また、糖尿病や高齢者に特徴的な腎疾患などが原因となる慢性腎臓病(CKD)の対策が重要な課題となっています。CKDは末期腎不全や透析に至る疾患であると同時に、心筋梗塞や脳梗塞などの心血管病発症の危険因子となります。CKDの進行抑制には早期の介入が重要ですが、自覚症状に乏しく、治療が遅れることが問題となります。**持続する蛋白尿や血尿、腎機能障害を有する患者さん**がいらっしゃいましたら、当科にご紹介ください。

■腎代替療法の導入と管理

血液透析に必要なバスキュラーアクセスの作成や腹膜透析カテーテルの挿入、腎移植の術前/術後管理、外来管理は腎臓内科が消化

器・一般外科と共同で行っています。

■急性血液浄化療法

急性腎不全、肝不全、自己免疫疾患、高脂血症、潰瘍性大腸炎、敗血症、多臓器不全等の疾患に対しエンドトキシン吸着(PMX)、血漿交換、LDL吸着などの血液吸着や血漿吸着療法、白血球や顆粒球除去療法(LCAPやGCAP)、持続緩徐式血液濾過(CHDF)などの治療が可能です。

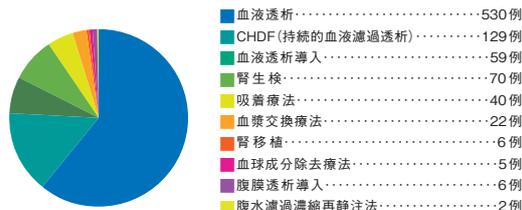
■特定の血液、神経、消化器、皮膚などの免疫疾患に対するアフェレシス療法

専用の装置や回路を用いて、血液を体外へ取り出し、病気の原因となる物質を、血液中から『分離』して取り除く治療です。アフェレシスの方法として、「単純血漿交換法」、「二重膜濾過血漿交換法」、「吸着式血球成分除去療法」、「血漿吸着療法」などの方法があり、他科と連携し積極的に導入しています。アフェレシス療法は薬物療法と比較して副作用の少ない治療で、アフェレシス療法を行うことで、ステロイドや免疫抑制剤などの薬減量が可能です。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....14,899人
- ② 入院患者数(実数).....452人

③ 診療の実績



概要

腎臓内科

各センター案内

昭和大学病院附属東病院 診療科案内

昭和大学所属医師一覧

血液内科

診療科長



中牧 剛

Tsuyoshi Nakamaki

専門：造血器腫瘍、HIV

対象疾患：難治性貧血、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患、血液データ異常、造血幹細胞移植、HIV感染症

1 特徴的な診療領域

日本内科学会指導医、日本血液学会専門医・指導医、がん治療認定医などの資格を有する専門医を始め、7人の医師が常勤医として診療を担当します。これら血液疾患に関し知識・経験が豊富な専門医が診断・治療計画を立案し診療にあたっています。さらに、安全な医療ができるように病棟に薬剤師が常駐し、抗がん剤の投与量、レジメンに従った治療計画であるか、配合禁忌のチェック、患者の服薬指導などを行っています。看護師も患者さんのメンタルケアを含めたがん看護に精通しており、医師・薬剤師とチームを作り診療科全体で患者さんが病気に打ち勝てるような支援ができる体制となっています。

また、当科は、**日本血液学会認定施設、骨髄・末梢血幹細胞採取・移植認定施設および臍帯血バンク登録移植施設に認定**され、病床数は50床(無菌室12床)で運営しています。診療内容は難治性貧血、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患を始め、血液検査データ異常がみられる疾患です。外来での薬物療法が可能な疾患から、造血幹細胞移植が必要とされる疾患まで、専門的な診断・治療が必要とされる血液異常を担当しています。また、HIV感染症については当科にご紹介ください。

●同種造血幹細胞移植

造血幹細胞移植には3種類の治療方法があり、①**骨髄移植(血縁、骨**

髄バンク)では、提供者に全身麻酔をして骨盤を形成する大きな骨＝腸骨(腰の骨)から採取した骨髄液を、患者さんの静脈へ点滴で注入します。②**末梢血幹細胞移植(血縁、骨髄バンク)**では、提供者に白血球を増やす薬(G-CSF)を3～4日間、連続注射し、末梢血中の造血幹細胞が増えたところで血液成分分離装置で造血幹細胞を採取し、骨髄移植と同様に患者さんへ移植します。③**臍帯血移植(臍帯血バンク)**では、臍帯血は、お母さんと赤ちゃんを結ぶ臍帯と、胎盤の中に含まれる血液です。その血液中には造血幹細胞がたくさん含まれているため、臍帯血バンクでは臍帯血を保存し、移植の必要な患者さんに提供し移植します。

●分子標的治療

白血病に対して、分子標的薬剤を使用した標準的な治療を行うとともに、難治例に対しては造血幹細胞移植を積極的に取り組んでいます。多発性骨髄腫に対してもボルテゾミブや、レナリドマイド(免疫調整薬)など新規薬剤も使用し、良好な治療効果が得られています。



概要

血液内科

各センター案内

昭和大学病院附属東病院

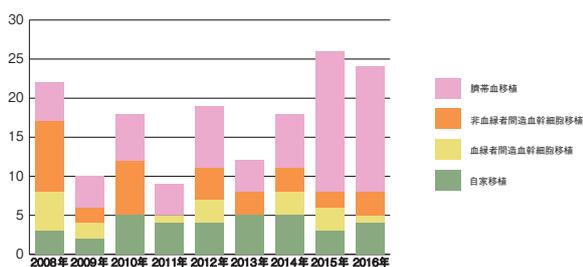
診療科案内

昭和大学所属医師一覧

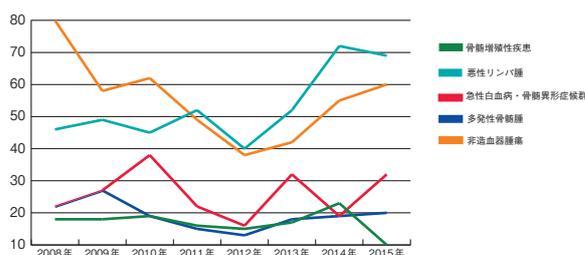
2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....12,296人
- ② 入院患者数(実数).....501人
- ③ 診療の実績

造血幹細胞移植症例数



④ 初診疾患別患者の実績



腫瘍内科

診療科長



角田 卓也
Takuya Tsunoda
専門：腫瘍免疫学

対象疾患

- ・食道がん、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、婦人科がんをはじめとする固形がん全般を対象にがん薬物療法を行う。
- ・軟部肉腫などの希少がん、原発不明がんに対してのがん薬物療法も行う。(白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの血液腫瘍は血液内科が担当します)

1 特徴的な診療領域

■「総合がん診療科」としての腫瘍内科

まず、**「がんであれば「疑い」**の段階でもご紹介ください。医療連携室(03-3784-8400)へお電話で腫瘍内科を予約していただければ、腫瘍内科からそれぞれの専門の診療科に紹介させていただきます。検診などでがんが疑われた場合、**「どの診療科に紹介をするのか迷われると思いますが、私たち腫瘍内科にご紹介いただき、私たちよりそれぞれの専門の診療科にシームレスに紹介します。」**昭和大学病院腫瘍内科は、「疑い」も含め、がん全般の受け皿となる「総合がん診療科」でもあります。

■「カンサーボード」での治療方針決定

手術も含めて治療法に苦慮するがん患者さんに対しては、昭和大学病院ではそれぞれの関連臓器ごとにカンサーボードが毎週開催されており、それぞれの専門家が患者さんに最適な治療法を議論し決定します。この中で、腫瘍内科はがんに対する薬物を用いた治療を専門として担当します。

■がん薬物療法を中心とした診療

近年のがんに対する薬物療法は、たとえ進行がんでも長期生存が期待できるまでに進歩しています。現在のがん薬物療法は、従来の殺細胞性抗がん薬に加え分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬と様々な薬物療法を用いることにより治療効果は飛躍的に進歩してい

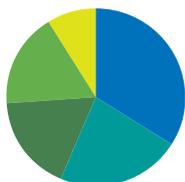
ます。それとともに副作用のマネージメントも複雑になり専門的知識が必要となってきています。これらの薬物療法を用いて高い臨床効果を得るためには高度な専門性が求められます。がん薬物療法の先進国である欧米諸国と同様に、私たちは臓器横断的にあらゆる固形がんに対しての診療体制を構築しています。がん薬物療法の専門家によって行われるがん免疫療法や分子標的治療は、副作用を最小限に留めながら、最高の治療効果をもたらします。私たちはわが国で**「最高レベルのがん薬物療法」**を提供します。

また、既存の治療法で効果が乏しい場合には、新しい治療法の可能性についても提案させていただきます。がんに伴う症状の緩和については、緩和医療科や放射線治療科と協力して症状の改善に努めております。

また、がん免疫療法や分子標的薬などの専門家によるセカンドオピニオンも受け賜っておりますので、遠慮なく医療連携室(03-3784-8400)までご連絡ください。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....10,408人
- ② 入院患者数(実数).....617人
- ③ 診療の実績



- 結腸・直腸がん.....101件
- 非小細胞肺癌.....66件
- 胃がん.....52件
- 食道がん.....51件
- 小細胞肺癌.....26件



感染症内科

診療科長

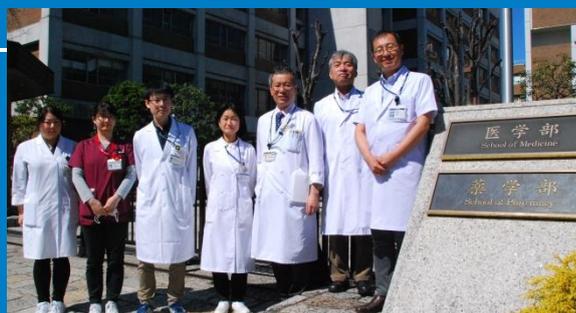


准教授

時松 一成

Issei Tokimatsu

専門：呼吸器感染症、真菌感染症、抗菌薬適正使用



1 特徴的な診療領域

当科は感染症に専門的に取り組む診療部門です。感染症の的確な診断と確実な治療、効果的な予防法などの普及に取り組んでおり、院内感染症の発生防止なども大切な業務です。

感染症の診断法は日進月歩です。当科では最新の診断法を幾つか研究しており、それらを用いて診断に迫ることが可能な疾患があります。また、最新の治療薬の臨床試験にも参加しており、それらに応用することも可能です。また、全ての血液培養陽性患者はグラム染色判明時点で診療状況を確認し、必要に応じて診療補助を行っています。さらに、カルバペネム系薬やタゾバクタム・ピペラシリンなど広域抗菌薬使用時に状況を確認し、診療補助を行っています。

感染症は1つの臓器に留まらず、あらゆる臓器に引き起こされるので、

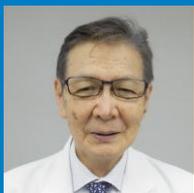
全ての診療科に密接に関係しています。外来は、当該領域にご紹介いただきますと当科でコンサルテーションさせていただきます。また、当科は独自の病床を持ちませんので、ご入院の場合は当該領域の診療科へご入院いただき、当科が併診させていただきます。

セカンドオピニオンのご要望にも応じています。

2 診療実績集 (2018年度実績)

院内依頼患者 (血液培養陽性患者を除く) ……………	67 例
血液培養陽性患者 ……………	909 例
耐性菌・抗菌薬長期など ……………	35 例

東洋医学科



客員教授

石野 尚吾

Shogo Ishino

診療科長代行 昭和大学病院長

相良 博典



1 特徴的な診療領域

西洋医学が得意とする疾患・病態がある一方で、不定愁訴・慢性化した症状・多くの病態・症状の重複などは漢方医学が力量を発揮しやすい分野です。当科は、「現代医療の診療を尊重し、その上で漢方医学の利点を生かした治療を行うことをモットーとしています。すなわち現代医療のなかで漢方治療の効果をよりよく生かす」という基本姿勢で診療に励んでいます。漢方の特徴は、人間の身体を一つの有機体とみなして治療することです。近年、疾病構造の変化、すなわち人間を苦しめる疾患に変化が生じています。感染症が日本の死因の大部分を占めていた時代から、数種類の疾患を合わせ持つ高齢者の増加、生活習慣病、ストレスが心身に及ぼす影響による疾患・症状の増加が特徴といえる時代になりました。そこで人間を部分的に分析的に見る西洋医学だけでは治療に難渋をきたすようになってきました。このような理由などから我が国における漢方治療の位置づけは大いに見直されてきています。

また、漢方治療は西洋医学的な病名に対して薬を出すのではなく体質、体型、病気に対する抵抗力、自覚症状などを目標(証)に処方決定します。

漢方は特に次のような方々の治療に適しています。

- ・ 一人で複数の疾患を抱える高齢者
- ・ 生活習慣病の方
- ・ 西洋医学的治療に反応が乏しい例
- ・ 西洋薬で副作用を現した例
- ・ 検査上は正常であるが愁訴のある例
- ・ 不定愁訴を訴え心身症傾向の強い例
- ・ 機能的疾患が主な例
- ・ 体力が低下した人のQOL向上を目指す例

などで、守備範囲は大変に広いといえます。

漢方医学は日本の伝統医学です。米国食品薬品管理局 (FDA) は、伝統医学には独自の文化的バックグラウンドがあり、人間そのものの治療能力を重視した独特な治療方法を確立し、実践的な体系を持っている、として評価しています。

2 診療実績集 (2018年度実績)

外来患者数 (延数) ……………	1,174 人
------------------	---------

緩和医療科

診療科長



岡本 健一郎
Kenichiro Okamoto
専門：緩和医療

対象疾患：緩和医療

基本的には各種がん患者さんで、治療早期(がんの診断時)から終末期まで全ての患者さんが対象。がんが原因となる疼痛などの諸症状はもちろん、がん以外の原因で患者さんやご家族のQOLを低下させるような諸症状(疼痛・嘔気・便秘・不眠・不安など)や良好でない療養体制(介護者の問題など)などにも多職種で対応している。

専門外来：

■がん性疼痛外来(完全予約制：水曜日午前)：疼痛管理に関することなどに関して、近隣の先生方のご紹介にも対応しています。

1 特徴的な診療領域

2002年緩和ケアチーム活動を開始し、2009年には診療科として独立し、緩和医療科となりました。

入院しているがん患者さんを中心に、がんと診断された早期から終末期まで、がん治療に伴うものやがんそのものから生じるさまざまな身体的苦痛や精神的苦痛などの苦痛を緩和するために“いつでも、どこでも、切れ目のない緩和ケア”を提供しています。

緩和ケアチームとしては**多職種(身体症状担当医師、精神症状担当医師、緩和ケア認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、管理栄養士、総合相談センタースタッフ等)の目で早期から正確にアセスメントし、解決することにより、苦痛の予防と軽減を図り、生活の質(QOL: Quality of life)を向上させること**を目標に活動しています。

特にがん患者さんの疼痛に対しては、身体症状担当医師や看護師、薬剤師がそれぞれ緩和医療に関わる専門資格を持っており、薬物療法として医療用麻薬のみならず鎮痛補助薬も積極的に使用し、必要に応じて神経ブロック療法も施行することが一つの特色です。がん治療、療養に伴う様々な精神的苦痛、不眠、不安、抑うつなどの精神症状に対しては精神科医師による薬物療法、精神療法を行っております。また、入院中の栄養管理についても重要な要素ですので、管理栄養士がさまざまな相談にのっています。

緩和ケアチームはコンサルテーションスタイルで、多職種チームの

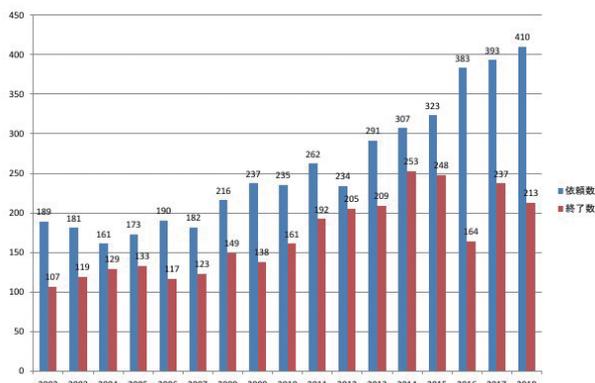
特色を活かしつつ、様々な形で依頼科医療チームのサポートにあたっています。患者さんやご家族から緩和医療チーム介入の要望を主治医に伝えて頂き、主治医を初めとする関係医療者から依頼があった時点で緩和医療チームが苦痛緩和に関わっていきます。また、チームが一般病棟に関わったケースに関しては、退院後に主治医の依頼に応じ、外来フォローも行っています。チームの関与が必要と判断される患者さんやご家族への対応が主体となり、緩和ケアチームおよび総合相談センターの退院調整看護師、MSWと協働し症状管理から療養体制の調整、社会資源の導入など療養全般に対応しています。

疼痛管理に関することなどに関しては、近隣の先生方のご紹介にも完全予約制ではありませんが対応させていただきます。

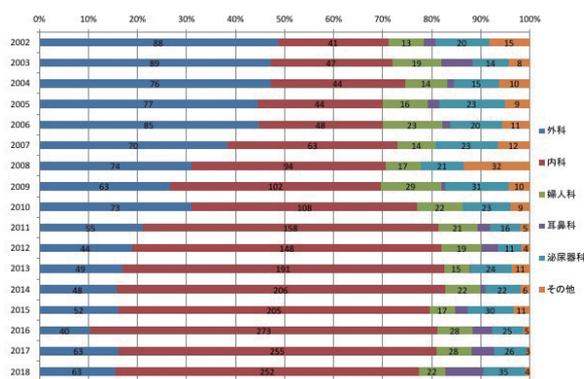


2 診療実績集(2018年度実績)

① 緩和医療科 依頼数・終了数の推移



② 緩和ケアセンター依頼科の内訳



乳腺外科

診療科長



中村 清吾
Seigo Nakamura

専門：乳がん・乳腺良性疾患（線維腺腫・葉状腫瘍・乳管内乳頭腫など）

対象疾患：乳がん、乳腺良性疾患（線維腺腫、葉状腫瘍、乳管内乳頭腫など）

専門外来：

■遺伝相談外来：遺伝性乳がんを疑う患者さんやご家族のカウンセリング、治療・サーベイランスについての相談を行う。

1 特徴的な診療領域

■プレストセンター内で検査・診察が完結

当センターには、マンモグラフィ2台、超音波検査装置3台、骨塩量測定装置が設置され、専用の検査衣に着替えた後、一連の検査及び診察を効率よく受けることが可能です。

■早期及び進行再発乳がんの精査・加療

2018年の原発性乳癌に対する手術は533件でした。乳房温存療法は200例(37.5%)で、形成外科と合同で129例に一期的再建を施行しております。また、放射線照射期間の短縮が可能となるSAVI(Strut Adjusted Volume Implant)を用いた乳房温存療法を13例に施行しております。再発乳癌の治療は腫瘍内科と共同して行っております。

■SAVIを用いた乳房温存治療

乳房を部分的に切除してがんを取り除いた後、乳房内再発を防止する目的で乳房の中から直接、放射線を照射します。SAVIを用いた「加速乳房部分照射」では放射線治療の期間をわずか5日間へと大幅に短縮でき、17日間の入院で手術から放射線治療まで施行できます。ピンポイントで照射線量を調節できるため「全乳房照射」と比べて正常な組織の被ばくを軽減することが可能となります。

■乳房再建

乳房は女性として大切なものです。「自分らしさ」を取り戻すために乳腺外科と形成外科がチームで行っています。

1) 自家組織による再建

ご自分の体の組織(背中や腹部の皮膚や脂肪、筋肉)を使って乳房を作ります。

2) 人工物による再建

乳房切除と同時に、エキスパンダー(組織拡張器)を挿入します。その後インプラントというシリコンでできた人工乳房を挿入します。

■遺伝カウンセリング

近年の遺伝医学の進歩により多くの遺伝性疾患でその原因が明らかにされ、遺伝子レベルの正確な診断ができるようになってきました。家族性、遺伝性の乳がんについても遺伝に関する情報を正しく得ることで、予防や適切な対策が可能になります。当センターでは遺伝カウンセラーによるカウンセリングと遺伝学的検査を受けることができます。遺伝相談外来を行っております。

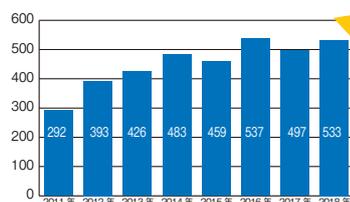
■リボンズハウス

NPO法人キャンサーリボンズと提携し、患者さん自身が病気や治療に関する情報を得て、少しでも自分らしくより快適な生活を送れるようにサポート施設「リボンズハウス」を併設しています。治療中の生活に役立つ様々な資料をご覧頂けます。治療のことや副作用とのつきあい方など、相談したいことがあれば、看護師の免許をもつ専任のスタッフがご相談にのります。

また、医療スタッフや専門家による治療と生活に役立つサポートプログラムも開催しています。

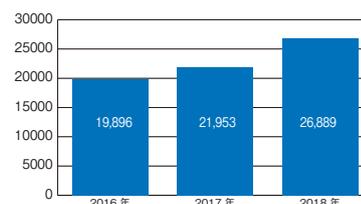
2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....27,291人
- ② 入院患者数(実数).....747人
- ③ 総手術件数



★
『手術数でわかる いい病院2019』で
全国ランキング9位
(関東ランキング6位)
手術件数 497件(2017年度)
(再建術 153件中 同時再建術 149件)

④ 来院患者数



脊椎外科センター

センター長



豊根 知明

Tomoaki Toyone

専門：脊椎脊髄外科

対象疾患：腰椎椎間板ヘルニア、腰部椎管狭窄症、頸髄症、後縦靱帯骨化症、側弯症、骨粗鬆症性脊椎椎体骨折、成人脊柱変形（腰曲がり、首下がり）、脊椎・脊髄損傷、脊髄腫瘍

専門外来：

■脊椎診

■側弯症外来：小児から成人の側弯症の診断、保存治療（コルセット）、手術治療

1 特徴的な診療領域

2018年11月より整形外科より独立し、脊椎外科センターを開設いたしました。

6名の脊椎外科専門医が常勤しており、手術経験豊富な専門医師によるチーム医療の提供が出来、全国でも引けを取らないと申し上げても過言ではありません。

比較的頻度の高い腰椎椎間板ヘルニアや腰部椎管狭窄症に対する内視鏡下手術や腰椎すべり症に対する経皮的椎弓根スクリューを用いた低侵襲脊椎固定術(MIS)など、正確な診断のもとに極力低侵襲な治療を行っております。昭和大学病院では2014年より全国に先駆けハイブリッド手術室が設置され、手術中にあらゆる方向・角度のCT様画像を確認することが可能となり、安全かつ正確な最小侵襲手術を行い術後早期の回復に努めています。

■成人の脊柱変形に対する矯正手術

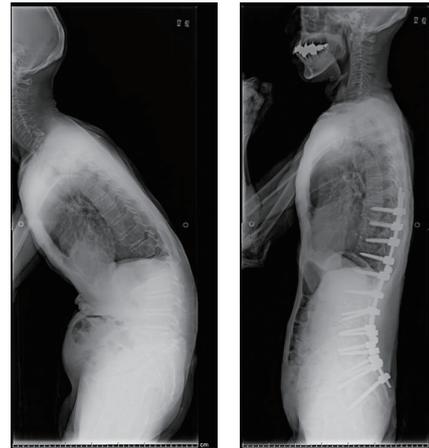
脊柱変形、特に重度の後弯症や側弯症などのいわゆる「腰曲がり」に対して各種骨切り術や側方進入椎体間固定術(LLIF)を用いた低侵襲な矯正固定術を組み合わせ、背骨の変形からくる痛みや立位・歩行障害を解決すべく日々治療にあたっております。また、高齢者にしばしばみられる前を見にくくなる「首下がり」に対する手術治療を積極的にやっている数少ない施設であります。「腰曲がり」「首下がり」ともに患者一人一人の病態を正確に診断し、適した治療法を極力低

侵襲に行うことを基本とし治療を行っております。

《まっすぐな背骨をとりもどし、痛みをやわらげます》

◎76歳女性 脊椎変形(後)弯症

手術：低侵襲側方固定術+後方手術



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数)……1,456人(2018年11月～)
- ② 入院患者数(実数)……86人(2018年11月～)

脊柱変形矯正手術は年間290例行っており、国内でも高く評価されています。



※整形外科は、昭和大学病院附属東病院で行っています。

リハビリテーション科

診療科長



准教授

笠井 史人

Fumihito Kasai

専門：脳卒中全般、脊髄損傷、呼吸器リハビリテーション

対象疾患：脳卒中後遺症、脊髄損傷、四肢切断、変形性関節症等の運動器疾患、神経筋疾患、呼吸循環器疾患、脳性麻痺や小児発達障害など。

専門外来：

■専門医による障害評価・治療、補装具作製、摂食嚥下治療、ボツリヌス療法

■補装具、環境整備、身体障害手帳、各種制度の利用などリハビリテーション全般に関するご相談があればご紹介ください。

1 特徴的な診療領域

主として、昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院に入院している患者さんのリハビリテーション治療要請に対応し、急性期病院における早期リハビリテーションの充実に努めています。リハビリテーション科専有の入院病床はありませんので入院でのリハビリテーションの継続が必要な方には昭和大学藤が丘リハビリテーション病院をはじめとした適切な施設を紹介しています。

また、外来通院での理学療法・作業療法・言語療法などの機能訓練は行っておりませんが、自宅へ復帰する患者さんへの支援、退院後における障害のフォローアップやリハビリテーションに係る各種の相談なども地域連携に基づいて実施しています。

入院中にリハビリテーションが必要とされる患者さんに対して、リハビリテーション科医師が診察、障害評価や検査を行います。早期離床を図るべく、ベッドサイドからでも速やかにリハビリテーションが開始できる体制をとっています。必要に応じて社会復帰、継続治療目的の転院に向けての対応も行っています。また、高度急性期医療の一環として救命救急センターや集中治療室をはじめとした各診療科から依頼を受け、脳血管疾患・運動器・呼吸器・がんリハビリテーションを行っています。

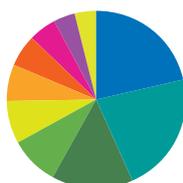
■**脳血管疾患**は発症初期から在宅に至る様々な障害に対して薬物療法、ボツリヌス・神経ブロック療法、装具療法、理学療法、作業療法、言語療法、家屋評価や住宅改修アドバイス、介護保険・身体障害者手帳申請など多面的なアプローチを行っています。

■**摂食嚥下リハビリテーション**では嚥下内視鏡検査・嚥下造影を施行し、患者さんの状態に合わせた摂食指導や嚥下訓練を行っています。

■急性期リハビリテーションから回復期リハビリテーションへの移行が必要な場合は昭和大学藤が丘リハビリテーション病院や近隣の回復期リハビリテーション病院との連携により対応しています。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....1,288人
- ② 他科入院中にリハ依頼された患者数の実績上位



■ 脳神経内科.....	394件
■ 呼吸器アレルギー内科.....	401件
■ 脳神経外科.....	271件
■ 血液内科.....	166件
■ 消化器内科.....	142件
■ 腎臓内科.....	118件
■ 救急医学科.....	108件
■ リウマチ膠原病内科.....	92件
■ 循環器内科.....	72件
■ 消化器一般外科.....	69件



形成外科

診療科長



准教授
黒木 知明
Tomoaki Kuroki

専門：Microsurgery、組織移植、乳房再建、顔面外傷、その他形成外科全般

対象疾患：

- ・顔面外傷（顔面骨折および顔面軟部組織損傷）、体表面の先天的形態異常、母斑（いわゆるホクロやアザ）、悪性・良性腫瘍およびそれらに関する再建、乳房再建、癬痕、癬痕拘縮、ケロイド、褥瘡、難治性潰瘍、新鮮熱傷、凍傷、化学熱傷
 - ・その他（眼瞼下垂、眼瞼外反、兔眼、睫毛内反、陥入爪、腋臭症、顔面神経麻痺、顔面痙攣、陥没乳頭など）
- ※2017年10月の診療体制の変更に伴い、現在、唇顎口蓋裂診療、レーザー治療、美容外科は行っておりません。

1 特徴的な診療領域

形成外科は、先天性、あるいは後天性に生じた身体組織の形態異常や欠損などに対して、治療を行う外科系の専門領域です。言い換えれば、体表面のほとんど全ての機能的、審美的障害を担当する科であるといえ、頭部、顔面、口腔から体幹、外陰部、四肢末端に至るからだ全体を治療対象とし、縫合法や顕微鏡手術をはじめとする形成外科特有の手術手技を用いて組織の修復、移植、再建を行います。その取扱い領域は多岐にわたりますが、顔面外傷、熱傷などの救急診療や、悪性腫瘍や外傷などに対して移植による再建手術を数多く行っていること、またこれらに**Microsurgery（顕微鏡を用いた手術）**を積極的に運用していることが、私どもの特色といえます。

Microsurgeryとは、手術用ルーペや手術用顕微鏡を用いて微細な手術を行う技術です。顕微鏡で患部を拡大することにより、従来困難であった、1mm未満から数mm程度の神経や血管、リンパ管の修復や吻合、移植などが可能となります。私どもはこの技術を非常に重視しており、悪性腫瘍により喪失した組織（骨、神経、血管、軟部組織、皮膚など）に対する組織移植や、虚血肢の血行再建などに適用することはもちろん、顔面外傷などにも積極的に適用することで、従来、見逃されがちだった**神経損傷の発見、修復、眼窩壁再建の安全性や術後成績の向上**などに役立っています。

こうしたMicrosurgeryを含む形成外科の手術手技は、他の診療科と

連携した**再建手術**で特に有用であり、頭蓋を含む頭頸部再建、胸腹壁再建、乳房再建、外陰部再建、四肢再建、皮膚・軟部悪性腫瘍再建、など数多くの実績があります。中でも、乳腺外科と連携した**乳房インプラントや自家組織移植による乳房再建の手術件数は、日本でも上位**に入っています。

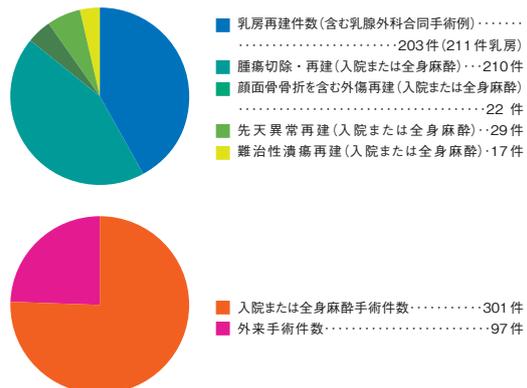
また当科は、海外での医療支援事業にも積極的に参加しており、2011年以来、毎年行っているマダガスカル共和国口唇口蓋裂医療協力をはじめ、アジア各国、中近東等で多数の手術を行っています。



2 診療実績集（2018年度実績）

- ① 外来患者数（延数）……………5,883人
② 入院患者数（実数）……………184人

③ 手術の実績



耳鼻咽喉科

診療科長



小林 一女
Hitome Kobayashi
専門：耳科学、聴覚医学

対象疾患：慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、好酸球性中耳炎、耳硬化症、突発性難聴、小児難聴、老人性難聴、耳鳴、めまい、メニエール病、顔面神経麻痺、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、嗅覚障害、頭蓋底疾患、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ、味覚障害、睡眠時無呼吸など
■唾液腺疾患、甲状腺疾患、頭頸部腫瘍は当院頭頸部腫瘍センターと合同で診断、治療にあたっています。

1 特徴的な診療領域

- 慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎(専門外来：金曜日午後)
全身麻酔下の鼓室形成術などの手術治療を行っております。穿孔の小さな慢性中耳炎は外来での鼓膜穿孔閉鎖術も行っております。手術は顕微鏡、内視鏡の併用手術を行っております。耳硬化症に対するアブミ骨手術、耳小骨奇形に対する鼓室形成術も行っております。
- 小児難聴・難聴補聴器外来(専門外来：月曜日午後)
小児難聴は新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査を言語聴覚士が行います。難聴の程度により早期の補聴器装着指導を行い、近隣の療育機関と連携致します。小児難聴に滲出性中耳炎が関与している場合、チューブ留置術を行います。老人性難聴、耳鳴症には難聴、耳鳴の原因精査を行い、適応があれば補聴器の選択・調節、耳鳴症には音響療法を勧めております。突発性難聴には副腎皮質ステロイドホルモンの点滴、内服加療を行います。糖尿病など合併症のある症例は入院し、内科併診のうえ加療致します。副腎皮質ステロイドホルモンの鼓室内投与なども対応可能です。
- アレルギー性鼻炎(専門外来：木曜日午後)
小児から成人までのアレルギー性鼻炎に対して、薬物治療を中心にスギ・ダニ抗原に対する舌下免疫療法などを行なっています。保存的療法に抵抗性の症例には、外科的治療としてレーザーによる鼻粘膜焼灼術や内視鏡下鼻甲介手術、内視鏡下後鼻神経切断術を組み合わせた患者さんのニーズにあった治療を行っています。
- 鼻副鼻腔疾患(専門外来：木曜日午後)
鼻中隔彎曲症などの鼻腔形態不良による鼻閉症状を有する症例に対しては、内視鏡下鼻中隔手術などの鼻腔形態改善手術を行なっています。細菌感染やアレルギーによる慢性副鼻腔炎から、指定難病として認可されて

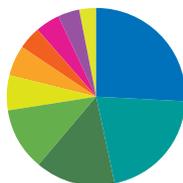
いる好酸球性副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍といった疾患を中心に、ナビゲーションやパワードインストゥルメントなどの先端医療機器を用いて、安全な内視鏡下鼻副鼻腔手術(Endoscopic sinus surgery: ESS)を積極的に行っており、近年重篤な合併症は発生していません。難治性・易再発性の特徴を有する好酸球性副鼻腔炎は気管支喘息の合併を高率に有します。長期間の管理が必要で、上気道のみならず下気道へも目を向けた包括的治療が重要とされますので、必要時には当院呼吸器・アレルギー内科と積極的な連携を行っています。嗅覚障害は各種嗅覚検査(T&Tオルファクトメーター、アリナミンテスト)を行い、保存的治療と適応例には積極的に手術をお勧めします。

■頭蓋底疾患(専門外来：木曜日午後)
鼻副鼻腔腫瘍の発育が進行し頭蓋底や眼窩内への浸潤が疑われる症例や、鼻腔内への進展が認められる脳腫瘍などの疾患に対して、脳神経外科と合同での経鼻内視鏡手術、または経鼻内視鏡手術と開頭手術を同時に行うコンバインド・アプローチを行っています。鼻副鼻腔腫瘍に対し、根治性を維持しながらも、なるべく低侵襲で鼻の正常な機能を残せる手術をコンセプトにしています。

■研究
滲出性中耳炎の病態に関する臨床研究、機能性難聴の診断法の研究を行っています。さらに慢性副鼻腔炎をはじめとした気道炎症性疾患の病態解明、バイオマーカー探索などの基礎研究や臨床研究を行っています。アレルギー疾患に焦点を当てた院内研究会を当院の小児科、皮膚科、呼吸器・アレルギー内科と共同で定期的に開催しています。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数)・・・29,890人(耳鼻咽喉科+頭頸部腫瘍センター)
- ② 入院患者数(実数)・・・680人(耳鼻咽喉科のみ)
- ③ 手術の実績



■ 口蓋扁桃摘出術	300件
■ 下鼻甲介手術	241件
■ 内視鏡下鼻副鼻腔手術	168件
■ 鼻中隔矯正術	130件
■ 鼓膜チューブ留置術	74件
■ 頭部郭清術	63件
■ 鼓膜、鼓室形成、アブミ骨手術	50件
■ 舌・口腔腫瘍切除術	49件
■ アデノイド切除術	47件
■ 耳下腺腫瘍切除術	33件



頭頸部腫瘍センター

センター長



嶋根 俊和

Toshikazu Shimane

専門：頭頸部癌・腫瘍、頭頸部外科、頸部神経鞘腫

対象疾患：上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌、口腔癌などの頭頸部癌、甲状腺腫瘍、甲状腺癌、バセドウ病、頸部神経鞘腫などの頭頸部腫瘍など

専門外来：

■頭頸部腫瘍外来：

頭頸部腫瘍専門の医師が、治療方針は画像検査などの結果だけではなく、患者さんの状況に合わせて頭頸部カンファレンスや頭頸部カンサーボードで決定を行う。

■口腔リハ外来：

手術や(化学)放射線療法前から専門歯科医師、歯科衛生士と合同で周術期口腔機能管理を行う。術前から手術による欠損を想定したシーネ、顎義歯の作成を行う。術前の口腔機能を評価し、術後のリハビリテーションを行う。摂食嚥下機能評価、訓練を行う。

1 特徴的な診療領域

- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師だけではなく、歯科口腔外科医師、口腔リハビリテーション歯科医師、歯科衛生士が合同で診療しております。
- 口腔癌に対しては術前から術後の機能を想定したリハビリテーションや顎義歯、装具の作成を行っております。
- 術後の嚥下、咀嚼、構音のリハビリテーションを行っております。
- 手術や化学放射線療法時における周術期の口腔ケアが当センター内で可能です。
- 頭頸部再建手術も当センター医師が一貫として行っております。
- 耳鼻咽喉科と歯科口腔外科の境界領域の腫瘍、例えば口蓋から鼻に進展した腫瘍なども鼻科用内視鏡、ナビゲーションシステムを用いて低侵襲で安全に手術が可能です。

■頭頸部癌治療では、頭頸部カンファレンス、頭頸部カンサーボードで患者さんの状況にあった治療法を決定し、手術、再建手術、化学療法、(化学)放射線療法などを行っています。

特に口腔癌治療では**頭頸部癌専門の医師と口腔癌専門の歯科医師**が合同で診療にあたり両者の利点を融合しています。治療中の口腔ケアも当センターの歯科医師、歯科衛生士が患者さんの状況に合わせて行っています。

ニボルマブ、レンバチニブなど適応にある新規薬剤による治療も当センターで行っています。

■**良性腫瘍**の診療、手術も積極的に行っており、**耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、正中頸嚢胞、側頸嚢胞**などの手術も当センターの得意分野ですので多くの症例があります。

■**頸部神経鞘腫**の手術に関しては日本一の症例を経験しています。他の大学病院からの紹介だけではなく、東京、神奈川はもちろん京都、大阪、神戸、愛知、静岡、長野、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉など遠方からも手術治療に来院しています。頸部神経鞘腫の研究も積極的に行っており、術後の神経機能温存を目指した被膜間摘出術の研究、模型を利用した被膜間摘出術の解明だけではなく、NBIを応用した手術法を当センターで開発し、全国に広め多くの施設で行われるようになりました。

2 診療実績集(2018年度実績)

- 入院患者数(実数).....302人
- 手術の実績

頸部郭清術	49例	副甲状腺腫瘍	8例	顎下腺癌	2例
耳下腺良性腫瘍	27例	喉頭微細手術	8例	副咽頭間隙腫瘍	2例
気管切開術	22例	顎下腺良性腫瘍	7例	喉頭全摘出術	2例
甲状腺癌	20例	上顎歯肉癌	6例	顔面神経再建術	2例
舌癌	17例	甲状舌管嚢胞	6例	副鼻腔癌	1例
頭頸部再建術	15例	頬粘膜良性腫瘍	5例	口腔底癌	1例
甲状腺腫瘍・バセドウ病	13例	中咽頭癌	4例	頬粘膜癌	1例
ELPS	12例	喉頭部分切除術	4例	咽喉食摘出術	1例
皮弁修正・植皮術	11例	耳下腺癌	3例	側頸嚢胞	1例
頸部神経鞘腫	11例	舌下腺全摘出術	3例	その他	6例
下顎歯肉癌	10例	口蓋癌	2例		



皮膚科

診療科長



末木 博彦

Hirohiko Sueki

専門：全身と皮膚・重症薬疹・乾癬

対象疾患：重症薬疹、尋常性乾癬、皮膚良性・悪性腫瘍、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、糖尿病による皮膚病変、細菌感染（尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、重症皮膚軟部感染症）、ウイルス感染（帯状疱疹、単純疱疹、水痘、麻疹、風疹）、真菌感染（足白癬、皮膚カンジダ症、深在性真菌症）、接触皮膚炎、脱毛症、陥入爪・巻き爪など

専門外来：

- 真菌外来：起因真菌の同定、深在性真菌症の治療を行う。
- 光線外来：アトピー性皮膚炎、乾癬、尋常性白斑などに対して全身型narrow band UVB、エキシマライトの治療を行う。
- ニキビ外来：重症例に対しケミカルピーリングによる治療を行う。
- 乾癬外来：重症例に対する生物学的製剤を含む治療を行う。
- アトピー外来：重症例に対して生物学的製剤を含む治療を行う。
- レーザー外来：色素斑に対するQスイッチ・ルビーレーザー治療を行う。

1 特徴的な診療領域

全ての皮膚疾患の診断と治療を行っています。皮膚良性・悪性腫瘍の手術やレーザー治療・化学療法、蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症、一般的な湿疹・皮膚炎群、糖尿病による皮膚病変、足白癬をはじめとする真菌感染症、巻き爪の治療、接触皮膚炎の原因検索としてパッチテストなど幅広く対応しております。

円形脱毛症に対する局所免疫療法（SADBE 自費）や、重症の乾癬・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎では生物学的治療の導入、難治性の皮膚潰瘍では手術療法と局所陰圧閉鎖療法などを併用して行っています。

特に、Stevens-Johnson 症候群、toxic epidermal necrolysis (TEN)、薬剤性過敏症候群(DIHS)などの重症薬疹の早期診断、集学的治療に力を入れております。

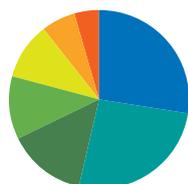
「Stevens-Johnson 症候群」とは、最も重症な薬疹として知られている病気で、38℃以上の発熱、全身に広がるさまざまな形の紅斑（赤みを帯びたまだら状の皮疹）とともに、皮膚と粘膜の境目（口唇・陰部・眼の粘膜など）がただれる症状がでます。重症化して皮膚のただれが拡大すると中毒性表皮壊死症(TEN)と診断されます。当科では入院のうえで原因と疑われるすべての薬剤を中止し、早期のステロイド剤の全身投与（内服もしくは注射）、免疫グロブリン大量静注療

法、血漿交換療法などを組み合わせた集学的治療を行います。抗結核薬など代替薬のない薬剤による薬疹では、他科や薬剤部と協力して、減感作療法にも取り組んでいます。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....36,002人
- ② 入院患者数(実数).....347人
- ③ 入院疾患別の実績



膿皮症	75人
帯状疱疹	71人
皮膚の良性新生物	38人
皮膚の悪性新生物	31人
水疱症	28人
薬疹、中毒疹	16人
湿疹、皮膚炎群	12人



泌尿器科

診療科長



小川 良雄

Yoshio Ogawa

専門：泌尿器癌、排尿障害、慢性腎疾患

対象疾患：前立腺癌、腎癌、尿路上皮癌(膀胱癌、尿管癌、腎盂癌)、精巣腫瘍などの泌尿器科癌、尿路感染症、腎後性腎不全、尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿失禁、神経因性膀胱、女性泌尿器、尿路先天異常など

専門外来：

- 前立腺外来：前立腺癌の診療
- 治療相談外来：泌尿器科癌に対する専門外来
- ウロダイナミクス：膀胱内圧測定

1 特徴的な診療領域

めざましく進歩する泌尿器科疾患の診断、治療に対し、外科、内科の両面から幅広く挑み続け、「真心を持って、温かみのある診療」を常に提供しています。

■**前立腺癌**：各種手術療法、各種放射線療法と全ての治療法に対応している施設です。手術療法に関しては、毎週月曜日に一日2件の**ダ・ヴィンチによるロボット支援手術**を施行しています。ダ・ヴィンチ手術は視野を10倍以上に拡大し、3D立体画像で見ながら震えない細かい確実な操作を可能にすることにより、腹部の傷が小さく痛みも少なく、出血が極めて少ないなどのメリットがあります。制癌効果、尿禁制、性機能保持とも良好な成績を取っています。また、放射線療法に関しては、**密封小線源療法**を関連の江東豊洲病院との協力体制で施行しております。同様に外照射療法に関してはIMRTをいち早く導入しており、最近では**高線量療法(HDR)**も導入しています。

■**腎癌**：最近では腎機能温存の観点から可能な限りダ・ヴィンチでの腎部分切除術による腎温存手術を心がけています。また、全摘でも腹腔鏡やミニマム創を中心とする低侵襲治療としています。転移性腎癌に対しては、分子標的治療薬、新規免疫療法、手術療法など専門医が集学的治療に取り組んでいます。

■**膀胱癌(尿路上皮癌)**：表在性癌に対する膀胱注入療法は、臨床研

究も含め数多くの診療実績があります。また、進行性浸潤性癌に対しても化学療法、手術療法、温存療法を含め、疾患のステージに合わせた総合的治療に取り組んでいます。

■**尿路結石症**：自然排石困難な症例に対しては体外衝撃波結石破砕術(ESWL)のみならず、経尿道的尿管結石砕石術(TUL)や軟性尿管鏡を使用するf-TUL、経皮的腎結石破砕術(PNL)、さらにはECIRSといったコンビネーション治療も含め症例に応じながら施行しており、**内視鏡治療は日本有数**です。

■**排尿障害、女性泌尿器科**：ウロダイナミクス検査(膀胱内圧測定)など様々な検査を通して、症例に応じた内科的治療、外科的治療に努めています。

■**その他**：大学病院の特性を生かし、あらゆる泌尿器科疾患に対する診断治療に精通しています。

■**研究**：腎癌、前立腺癌などのCTC(末梢血循環がん細胞)の同定や解析を臨床応用に生かせるシステムの開発、研究をしております。



2 診療実績集(2018年度実績)

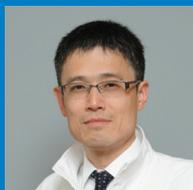
- ① 外来患者数(延数)……………25,056人
- ② 入院患者数(実数)……………805人
- ③ 診療の実績

尿路性器悪性・良性腫瘍手術(開放)	38件
尿路性器悪性・良性腫瘍手術(腹腔鏡)	58件
尿路性器悪性・良性腫瘍手術(内視鏡)	142件
ロボット支援下前立腺全摘除術(ダヴィンチ手術)	76件
ロボット支援下腎部分切除術(ダヴィンチ手術)	11件
前立腺癌密封小線源療法、HDR	5件
前立腺癌外照射療法(IMRT)	54件
尿路結石手術(内視鏡；TUL、PNL)	61件
尿路結石手術(ESWL)	41件
尿管ステント留置、交換術	216件
陰嚢内容手術	23件
陰茎手術	8件
女性尿失禁・性器脱手術	23件
前立腺針生検	291件



放射線科

診療科長



扇谷 芳光
Yoshimitsu Ogiya

■他施設から「検査のみ依頼」お受けしています

放射線科の診断・核医学部門では、他施設からのCT、MRI、RI検査依頼に対して、検査を施行し、報告書を作成しております。報告書は、翌診療日まで作成し、翌々診療日に検査結果と発送するように努めております。

1 特徴的な診療領域

主な画像診断装置としてX線透視装置(3台)、マンモグラフィ装置(2台)、X線CT(4台のうち1台は192列Dual-EnergyCT)、MRI(4台のうち1台は3T MRI)、血管造影・DSA(4台のうち2台は最新のFPD搭載で、回転DSA・コンビームCTが撮影可能)、核医学シンチカメラ(4台のうち1台はSPECT CT)、超音波装置(2台)を有しています。これらの最新の画像診断装置を最大限に有効利用して診療を行っています。

血管造影・IVR(Interventional Radiology)部門では、他施設からの血管造影・IVRの依頼を直接受け付けてはおりませんが、他の診療科からの依頼により、以下のIVRを行っています。

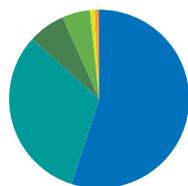
- ・肝細胞癌の肝動脈化学塞栓療法(Transcatheter Arterial Chemoembolization:TACE)
- ・肝動脈動注化学療法(Transcatheter Arterial Infusion:TAI)
- ・門脈圧亢進症による脾腫の脾動脈塞栓術(Transcatheter Arterial Embolization:TAE)
- ・胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性静脈塞栓術(Balloon Occluded Retrograde Obliteration:BRTO)
- ・難治性腹水に対するデンバーシャント増設術
- ・透析シャント閉塞に対する経皮的血管形成術(Percutaneous Transluminal Angioplasty:PTA)

- ・腎臓の血管奇形や腫瘍のTAE、各臓器や腹部、胸部の膿瘍ドレナージ
- ・中心静脈用ポート留置術
- ・MRガイド下の乳腺生検を含む画像ガイド下の生検

当院では、ほぼ毎日血管造影・IVRを行っており、内科・外科をはじめとする臨床各科と連携しながら年間約700件の検査・治療を行っています。治療方針に関しては週2回依頼科を交えてカンファレンスで議論し、IVR治療後の経過、結果なども同カンファレンス内で共有することを心がけています。また、外傷後の出血、産科出血などに対する塞栓術をはじめ、救急IVRは24時間オンコール体制で対応しています。治療は基本的に2人体制(IVR専門医+放射線科医)で行っており、手技の難易度を考慮し、専門医取得まで徐々に技術、知識などをステップアップできるような体制をとっており、IVR専門医師を数多く育てる努力をしています。

2 診療実績集(2018年度実績)

① 診療の実績



CT検査	39,441件
MRI検査	22,655件
核医学検査	3,506件
マンモグラフィ	4,747件
IVR	582件
上部消化管造影	380件
排泄性尿路造影・逆行性尿路造影	196件



放射線治療科

診療科長



伊藤 芳紀

Yoshinori Ito

専門：高精度放射線治療、消化器癌の放射線治療

■当科は完全紹介予約制です。

ご紹介いただけます先生方には診療情報提供書と画像CD-Rのご準備をお願いいたします。ご予約時に資料のご送付をお願いいたします。
放射線治療のみの場合、ほとんどの方は外来通院で行うことができます。

1 特徴的な診療領域

治療適応の判断、治療計画、治療期間中および治療後の患者さんの経過観察を外来診療として行っています。ほとんどの悪性腫瘍がその状況に応じて、根治あるいは症状緩和を目的とする放射線治療の適応となり得ます。通常の外部照射に加え、適応のある場合には高精度放射線治療や小線源治療などを行っています。前立腺がん骨転移に対してはラジウム223(ゾーフィゴ)治療も行っています。良性疾患としては術後ケロイド予防も対象にしています。治療機器は外部照射装置(リニアック)(1台)、高線量率小線源治療装置(RALS)(1台)があり治療計画用CT(2台：1台は小線源治療対応)、治療計画装置を備え強度変調放射線治療、定位放射線照射など高精度放射線治療を多くの患者さんに行っています。**2019年10月からは高精度放射線治療対応リニアックのトモセラピーが稼働し、リニアック2台体制になります。**

■強度変調放射線治療 (IMRT)

通常の放射線治療では正常組織にも放射線がある程度照射されてしまう問題があります。これに対して強度変調放射線治療は腫瘍の形状や周囲の正常臓器を考慮して様々な方向から放射線を、照射したいところに照射し、照射したくないところにはあまり照射されないようにする技術です。これにより放射線による副作用を減らすこと

が可能になると同時に、腫瘍への治療効果が高まることが考えられています。

■定位放射線治療

通常の放射線治療は数十回にわたって行うことで抗腫瘍効果を生み出します。これに対して定位放射線治療は、腫瘍に対して弱い放射線を何方向からも照射します。これにより放射線が集中しているところには強い力を与え、逆にその周囲の正常組織にはあまり放射線が当たらないようにすることができます。腫瘍の種類や状態にもよりますが、1回から4回ほどの照射で治療可能となり、脳転移の他、肺がん、肝がんなどを対象にしています。

■小線源治療

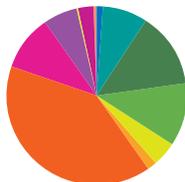
対象は主に子宮頸がん、前立腺がん、乳がんです。前立腺がんに対しては高線量率組織内照射を泌尿器科と連携して行っています。乳がんに対しては新しい小線源用アプリケーション(SAVI)を用いた加速乳房部分照射を乳腺外科と連携して行っています。

2 診療実績集(2018年度実績)

① 診療の実績

外部照射	684人
強度変調放射線治療 (IMRT)	109人
定位照射	28人
全身照射	6人
小線源治療	45人
遠隔操作密封小線源治療 (RALS)	28人 (91件)
前立腺高線量率小線源治療	6人
SAVI	11人

② 原発臓器別治療患者数



■ 脳・脊髄	7例
■ 頭頸部	50例
■ 肺・気管・縦隔	83例
■ 食道	70例
■ 胃・十二指腸・小腸・大腸・肛門	27例
■ 肝・胆・膵	10例
■ 乳腺	243例
■ 泌尿器	62例
■ 婦人科	37例
■ 骨・軟部・皮膚	2例
■ 造血器・リンパ系	17例
■ 良性疾患	2例



臨床病理診断科

診療科長



矢持 淑子

Toshiko Yamochi



1 診療体制 / 特徴的な診療領域

【診療体制】

当科には病理診断と臨床検査の2つの部門があります。病理診断は、検査・手術で摘出した病変から作製した標本を、病理専門医・細胞診専門医が顕微鏡で観察し診断を下します。病理診断は診療における最終診断と位置づけられ、治療方針の決定に大きな役割を担っています。

臨床検査は的確な診療に必須な臨床検査の信頼性を保つために、臨床検査専門医が精度管理や、新規の検査項目や検査法の導入に際し検討を行っています。

私たちは患者さんに直接はお会いすることはありませんが、昭和大学病院における質の高い診療の根幹を支えています。

■病理診断：各分野に専門性を持つ病理専門医5名が担当し、病理医による二重チェックによって診断精度の向上を目指しています。細胞診は、細胞診断士の資格を持つ臨床検査技師のスクリーニングを細胞診専門医の資格を持つ病理医5名が監督します。死因究明のために行う病理解剖は死体解剖資格を持つ病理医が行い、解剖結果を検討するCPCを毎月開催しています。

■臨床検査：臨床検査専門医3名、臨床検査管理医3名の指導のもと、正確・精密な検査結果を病院情報システムと連結することにより迅速に各診療科に報告しています。

【特徴的な診療領域】

■病理診断：組織形態診断に加え、免疫染色、電子顕微鏡、分子病理診断を駆使し、あらゆる疾患の診断に対応しています。特に造血器病理、消化器病理、婦人科病理などに関しては、他施設から依頼される診断コンサルテーションにも対応しており、高度な病理診断を目指しています。

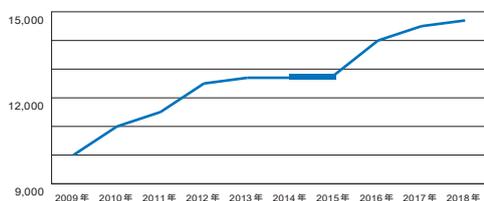
■臨床検査：微生物検査で病院全体の細菌の検出状況とそれらの薬剤感受性の把握が可能であり、アウトブレイクが疑われた際には、薬剤耐性遺伝子や毒素耐性遺伝子解析とパルスフィールド電気泳動によるゲノム型解析を用い、感染経路や拡大状況の解析を行っています。また、患者さんを昭和大学病院の各診療科にご紹介いただいた場合、担当臨床医より紹介元の先生方に、当該患者の既往の病理組織標本、細胞診標本の貸出をお願いすることがございます。その際にはお手数ですが、精確で迅速な病理診断に基づく診療を行うために、病理標本の貸出にご協力いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2 診療実績集 (2018年度実績)

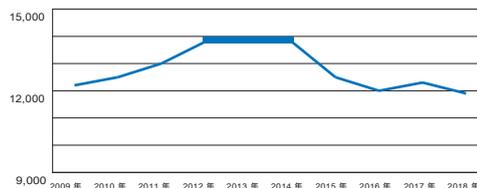
① 診療の実績

組織診断……………14,730件(うち迅速診断888件)
細胞診断……………11,822件
病理解剖……………83件
骨髓像判読……………517件
免疫電気泳動判読/尿……………187件
同 / 血液……………425件
院内感染防御のための臨床分離細菌の分子疫学解析・200件

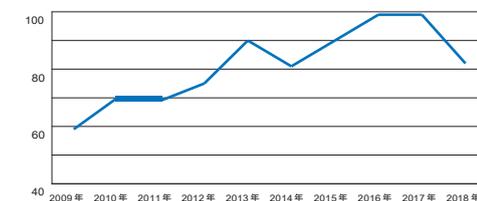
② 組織診断数



③ 細胞診断数



④ 病理解剖数



歯科・口腔外科



講師
山口 麻子
Asako Yamaguchi



1 診療体制／特徴的な診療内容

【診療体制】

当科は昭和大学病院中央棟7階にあり、歯科医師3名、歯科衛生士2名の体制で、歯科ユニット4台の歯科診療室と病棟を医療の場として診療を行っています。原則、予約制であり、昭和大学病院、附属東病院の医科診療科の担当医より歯科依頼を受けた入院患者さんを対象としています。

退院後も継続した口腔衛生管理および口腔機能管理(リハビリテーションを含む歯科治療)が必要な場合は、医療連携室と連携を取り、かかりつけ歯科医院あるいは地域の歯科医院へご紹介させていただきます。より専門的な歯科治療が必要と診断、あるいはご希望された場合は、昭和大学歯科病院の専門科へ紹介させていただくこともあります。

当院の診療科に通院されているが入院予定のない患者さんのご紹介は、昭和大学歯科病院へお願い申し上げます。

【特徴的な診療内容】

医科診療科と連携した診療が特徴的です。有病者の歯科医療は全身状態の把握が重要となるため、医科診療科と綿密な連携を取り、安全・安心な入院生活の一助となるべく歯科診療を行っています。近年、全身麻酔手術や抗がん剤、放射線治療の周術期(術前・術中・

術後)における口腔機能管理のニーズが高くなっています。患者さんの口腔内細菌による肺炎や心内膜炎の予防、挿管・抜管時の歯の脱落や破折などの偶発症の予防、栄養管理を目的として、歯科診療室、診療科病棟、ICU、無菌室、救命救急センターにて口腔のスクリーニング・アセスメントおよび口腔衛生管理・口腔機能管理に努めています。また、血液内科の移植症例の移植前および顎骨壊死の副反応が問題とされるビスフォスフォネート製剤やデノスマブ与薬予定症例の与薬前の口腔のスクリーニング・アセスメントも行ってまいります。さらに、**多職種チーム医療による院内回診の「摂食嚥下回診」、「口腔ケア回診」**に積極的に参画しています。

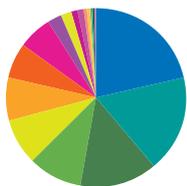
■研究

歯学部各講座・部門と共同で以下の研究を行っています。

- (1) 移植治療における口腔粘膜疾患の予防としての口腔衛生管理の役割と取り組み
- (2) 口腔内細菌と循環器疾患(特に狭心症や頸動脈狭窄症)との関連性の研究
- (3) 心臓血管外科疾患と歯周病との関連性の研究
- (4) 膠原病と歯周病との関連性の研究

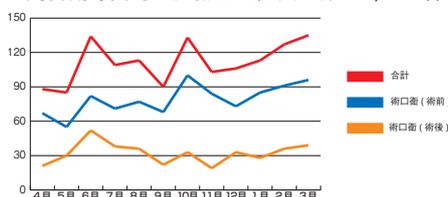
2 診療実績集(2018年度実績)

① 周術期口腔機能管理の実績

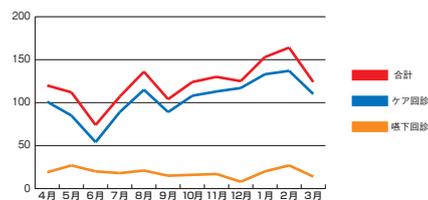


■ 乳腺外科	272件	■ 腎臓内科	15件
■ 消化器・一般外科	223件	■ 耳鼻科	14件
■ 頭頸部腫瘍	176件	■ 呼吸器内科	8件
■ 整形外科	123件	■ 形成外科	5件
■ 心臓血管外科	104件	■ 小児循環器外科	5件
■ 脳神経外科	99件	■ 眼科	3件
■ 泌尿器科	83件	■ 腫瘍内科	2件
■ 呼吸器外科	77件	■ 消化器内科	2件
■ 産婦人科	30件	■ 小児科	1件
■ 血液内科	25件	■ 合計	1,267件

② 周術期専門的口腔衛生処置実施数 1,336件



③ 総回診件数 1,473件



呼吸器センター

センター長
相良 博典

特色 呼吸器センターでは、呼吸器疾患を専門とする内科ならびに外科が共に隣接した外来ブースや同じ病棟で診療にあたり、内科・外科それぞれに偏った治療ではなく、双方が意見を交換しながら最適な治療方針を選択できる体制を整えています。また、日本呼吸器学会や日本呼吸器内視鏡学会における専門医や気管支鏡指導医によって**年間約400件を超える診断的気管支鏡検査**を施行しています。そのうち、超音波内視鏡（EBUS）症例も多く含まれています。レーザー治療や高周波治療、気道ステント挿入、**気道異物除去などの治療的気管支鏡や、全身麻酔下胸腔鏡検査、呼吸器外科手術における気道観察なども年間200件以上**行っています。診断的気管支鏡検査は外来通院で局所麻酔・透視下で行っています。卒前教育は勿論の事、気管支鏡専門医や呼吸器専門医呼吸器外科専門医の育成に向けた卒業教育を充実させています。

呼吸器センターで扱う疾患（肺癌・肺炎・気胸・気管支喘息ほか）の外来患者数は約6,200名で、年間入院数は約900名です。対応時間は外来へ紹介受診されたのち、いかに迅速な診断で適切な治療方針を決定できるかが重要であり、効率的な診断・治療方針の決定を心掛けております。

気管支喘息に加え、COPDに対する診療は、我が国の先駆けとなった吸入療法のみならず、最近では生物学的製剤の治療も多く、日本をリードする成績を上げています。さらに、研究面においても喘息重症化の病態解明、COPDの薬物療法およびフレイル予防からのアプローチなど幅広く行っています。また、呼吸器系悪性疾患に対するカンサーボード（症例検討会）は毎週開催され呼吸器センター、腫瘍内科、放射線科、さらに各診療科に関連するメディカルスタッフが参加し、外科治療や集学的治療の円滑な導入が行われています。さらに、低肺機能患者に対する在宅酸素療法や、睡眠時無呼吸症候群患者に対するNIPPV療法も充実させるとともに、近年患者数の増加傾向が著しい禁煙治療にも積極的に取り組んでいます。COPDや間質性肺炎の患者には急性期の治療だけでなく、リハビリテーションを積極的に導入することによって身体活動性の向上に良好な治療成績を得ています。昭和大学病院附属東病院に併設されている呼吸ケアセンターと連動して、さらにリハビリの体制を充実させていきます。

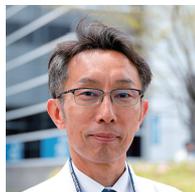
消化器センター

センター長
村上 雅彦

特色 消化器センターは、消化器内科・消化器外科（消化器・一般外科、食道外科）・内視鏡センターが一体化して消化器疾患の治療を進めるべく設立されたもので、腫瘍内科・放射線科とも連携し、患者が最良な治療を最短期間で受けられる事を目的としています。消化器内科・消化器外科・腫瘍内科のいずれの診療科に受診されても、消化器疾患であれば、診療科の枠を越えて消化器センターとして情報を共有し、最善の治療が提供できるシステムとなっています。同様に内視鏡センター初診の患者さんも、異常所見が認められた時点で早急に担当診療科に適切に依頼が行われます。

外来受診・入院精査後、手術適応のある患者さんの情報は、週1回の消化器外科術前カンファレンスに供覧され、悪性疾患で手術以外の治療が適応となる場合は週1回のCancer Boardにて腫瘍内科・放射線科とも共有され治療方針が決定されます。また、チーム医療の一環として、**患者さんに最良の医療を、最短期間で提供することが目的**のセンター化でもあり、代表的疾患は消化器センターとしての患者対応マニュアルによって、カンファレンスを待たなくとも迅速に主治療科を決定し治療開始できるようなシステムが構築されています。特に悪性疾患の患者さんは、消化器内科→消化器外科→腫瘍内科という形で担当科が入院中に迅速に変更され、一貫した患者さん中心の治療を提供しています。また同様に、昨年より食道癌患者に特化した食道癌治療チームが構築され、毎週食道癌Boardにおいて症例提示がなされ、周術期管理を含めた治療ガイドが構築されています。

循環器センター



センター長
新家 俊郎

特色 昭和大学病院の循環器センターでは内科系や外科系に関わらず、循環器領域全般(虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心不全、肺高血圧症、成人先天性心疾患、末梢動脈疾患、静脈系疾患など)を対象としています。循環器内科と心臓血管外科の各々の専門医が緊密に連絡を取りながら急性期・慢性期疾患の診断と治療を幅広く行っています。診療の軸として、地域医療機関との連携を重要視しています。

救急患者の受け入れは昼夜を問わず積極的に行っており、搬送されてくる患者さんに対して日中では4-5名、夜間でも3-4名の循環器内科および心臓血管外科専門医が協力しながら迅速に救急診療を行っています。重症の患者さんはCCUやICUに入室していただき厳重に管理いたします。

2016年1月より、循環器内科、心臓血管外科協同のハートチームを充実させ、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を実施し、弁膜症治療が必要な患者さんを広くTAVI専門外来にて受け入れています。また、2018年3月より、循環器内科、小児循環器内科協同で成人先天性心疾患に対するカテーテル治療(心房中隔欠損、動脈管閉鎖)を行っています。肺高血圧診療も拡充し、プロスタグランジン製剤の持続静注療法や慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術は安定した成績をおさめています。

循環器センターはその専門性から、緊急対応が必要な患者さんが多いため、**患者さんの要請には救急隊や消防庁からのCCUネットワークだけでなく、地域医療機関の先生方との開業医ホットライン(ハートラインシステム)を運用**しています。これにより受け入れ時間は大幅に短縮し、迅速な診療ができています。また、入院された患者さんは、退院時には紹介元医療機関の先生方へお戻ししています。

開業医ホットライン(ハートラインシステム)：03-3784-8180

総合周産期母子医療センター



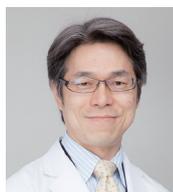
センター長
水野 克己

特色 総合周産期母子医療センターは、産科、小児科(新生児部門)、小児外科の各部門の密接な連携のもと、妊娠中の母体合併症や妊娠高血圧症候群や多胎妊娠、胎児疾患、前期破水、早産などの管理、出生後のハイリスク新生児の治療やケアを一貫して総合的に行います。2009年度からは、母体救命対応型総合周産期母子医療センターにも指定されております。

周産期専門医(母体・胎児および新生児)をはじめ、専攻医、研修医、助産師、看護師、遺伝カウンセラーおよび臨床心理士からなる医療チームで診療にあたります。**母体・胎児集中治療室(MFICU)9床と新生児集中治療室(NICU)15床**でハイリスク分娩やハイリスク新生児に対応し、胎児や母体が緊急状態の場合は麻酔科の協力の下、24時間365日体制で帝王切開決定から30分以内(平均およそ15分)で児の娩出が可能です。また、すべてのハイリスク分娩時には新生児科医が立ち会い、出生後直ちに初療に当たります。

ハイリスク分娩のみならず、当院および他院で出生した病的新生児に対しても、NICUにて管理を行います。妊娠中から胎児疾患が判明している場合や早産で分娩となることが明らか場合には、出生前に新生児科医や必要に応じて小児外科医などが出生後の状態や病気についての詳しい説明を行っています。さらに、当院では、小児循環器・成人先天性心疾患センターを有しており、出生後直ちに治療が必要な心臓病がある胎児を妊娠されている場合には、出生前を含め小児循環器科の医師が新生児科医と協力し診療にあたります。周産期に生じる母親およびその家族のあらゆる悩みの相談に応じているとともに、NICUに入院した患児については退院後も母子ともども長期フォローを行っています。NICUでの必要な管理が終わったあとも体重や哺乳・体温管理がしっかりできるようにならないと自宅に帰れません。この期間は**27床あるGCU(growing care unit)**で自宅にかえる準備をしながら成長を待ちます。

小児医療センター



センター長
今井 孝成

特色 小児医療センターではこども憲章を守り、また則った医療提供を行っています。

診療は小児内科、小児循環器科、小児外科を中心として、小児に関わる診療科(耳鼻咽喉科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科等)との連携を強固に診療体制の構築に取り組んでいます。また**病院保育士や心理士を配置、さらに院内学級も設置しており、短期から中長期の療育環境を支えています。**

こどもの疾病に関連する各科および部署が一致協力して、ひとりひとりの患者(児)さんを個別に支え、ご家族と一緒に病気に立ち向かえるように、ベストの医療を提供するチーム医療を実現しています。

血液浄化センター

センター長
小谷 透

特色 血液浄化センターは1964年に開設されました。日本透析医学会、日本アフェリシス学会の認定施設で、多くの専門医、指導医が勤務しています。また、日本腎臓財団主催の透析療法従事職員研修の実習指定病院として、多数の実習生を受け入れています。

センターには13床のベッドを有し、血液浄化療法を行うあらゆる診療科の患者さんを受け入れています。血液浄化の実施においては、看護師、臨床工学技士、腎臓内科医師が協働して業務を担当します。看護師は、在宅透析である腹膜透析患者さんの外来管理や慢性腎臓病保存期の患者さんに対して腎代替療法の情報提供や生活指導、透析手技の指導を行っています。また、病棟や多職種と連携して双方の教育支援や情報共有をはかり継続したケア提供に努めています。

2018年度の新規導入は血液透析が56名、腹膜透析が6名でした。血液透析に限ると年間症例数は年々増加しています。ICUなどユニットで実施される持続血液濾過透析療法は年間100例を超えました。血漿交換、血漿吸着などの特殊な治療も増加の一途をたどっています。血液浄化法を安全に正しく実施するために、定期的に院内セミナーを開催し、理解を深めていただくとともに啓発活動も行っています。

2018年度実績

血液(濾過)透析	530症例/5444件
ポータブル血液浄化総数	1239件
CAPD(腹膜透析)外来	22症例/530件
CHDF(持続的血液濾過透析)	129症例/922件
PE(単純血漿交換)	22症例/128件
DFPP(二重膜濾過血漿分離交換法)	5症例/16件
血漿吸着法 LDL吸着	3症例/22件
免疫吸着	2症例/16件
直接血液吸着 エントキシン吸着	34症例/62件
DHP	1症例/1件
吸着式血球成分除去 GCAP(顆粒球除去療法)	4症例/28件
LCAP(白血球除去療法)	1症例/5件
CART(腹水濾過濃縮再静注法)	2症例/4件
腎移植	6件
腎不全外来	31症例

救命救急センター (3次救急)

センター長
土肥 謙二

特色 品川区唯一の救命救急センターとして救急隊によって3次救急と判断された救急患者と地域医療機関から紹介された重症患者を中心に高度な救急集中治療を提供しております。当センターは救命救急科、救急診療科、院内の各診療科から派遣された医師で構成されて診療にあたっています。地域で発生した全ての重症病態や緊急病態に対して各専門診療科と協力して対応しております。

近年では、AEDの普及による心肺蘇生法の進歩に伴い心拍の再開する症例が増え、蘇生後脳症に対する脳低温療法や、心拍が再開しない症例でもPCPS(経皮的心肺補助装置)を用いた蘇生、一酸化炭素中毒への高気圧酸素療法など、高度な治療を行いつつ超早期からの多職種による総合的なりハビリテーションと社会復帰に向けて多職種と連携してチーム医療を展開しています。特に脳保護療法、特に脳温管理法については神経外傷や蘇生後脳症を中心に先進的な治療を行っています。**2018年における救急車の搬送台数は年間1,200台以上(2次救急を除く)で応需率は95%を超えています。**

また、当院は地域の災害拠点病院に指定されており大規模災害や多数傷病者の発生した事故に対し、訓練された医師、看護師、事務官から成るDMAT(Disaster Medical Assistance Team)を保有しています。DMATは事故や火災などの地域の小規模災害、広域災害に出動し現場で“瓦礫の下の医療”による救命医療にあたっています。地域医療機関で対応困難な重症症例に対しては救急医療センターと連携して積極的に対応しておりますのでご連絡ください。

救急診療センター (1次・2次救急)

センター長
土肥 謙二

特色 救急診療センターは、救命救急科の医師と救急診療科の医師を中心に院内の各診療科から派遣された医師とともに診療科横断的に救急患者の診療を行っています。特に当センターでは診療時間内においては中等症救急患者、夜間休日では軽症から中等症の救急患者の初療を行い入院の適否や専門診療の必要性を判断して院内の専門診療科、地域の他の医療機関への連携を行います。疾患の内訳は内科系急性疾患と外傷の診療を中心に行っています。**直近の地域の救急車応需率は95%(二次救急のみ)を超えています。**地域医療機関からの中等症以上の急患については救命救急センターと連携して24時間体制で積極的に受け入れています(軽症あるいは専門性の高いと判断した場合には外来にて対応致します)。

ICU



責任者
小谷 透

特色 ICU(Intensive Care Unit、集中治療室)は、ベッド数14床(個室10床・オープンフロア4床)を有し、病状が重症、あるいは、重症化しそうな状態で集中的な監視と治療が必要な方を、院内院外・年齢を問わず広く受け入れています。昭和大学病院では2018年4月から集中治療科が設立され日本集中治療医学会認定専門医を中心に専従医師がユニット内に常駐して診療しています。また、ベッド2床につき専属の看護師1名以上が配置されています。最新の複合臨床モニターを用い24時間密接に見守ります。特に重症呼吸不全治療ではECMOや特殊な人工呼吸療法を含め国内有数の治療体制を備えています。

全14床のうち10床を占める個室はプライバシーを保つだけでなく、部屋を陰圧や陽圧にする設備によって感染症や免疫不全状態にある患者さんに対しても最適な環境での治療が提供できるよう配慮されています。

これらの充実したハードに加え、前述の集中治療専門医、感染症科・リハビリテーション科医師、専門・認定看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士などの重症治療に特化した資格を持った医療スタッフが、診療科や部門を超えてチーム医療を提供していることも大きな特色です。様々な理由から入院治療が必要となり精神的・肉体的負担を抱えた患者さんが1日も早く元どおりの生活に戻っていただくために、これらスタッフがサポートし、早期リハビリテーションなど身体機能を維持するための介入と精神的支援を積極的に実施しています。

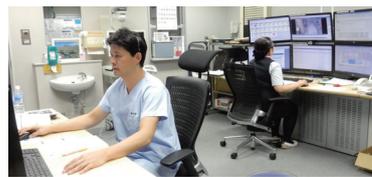
さらに、昭和大学では**遠隔集中支援システム tele-ICU をアジアで初めて導入**し、2018年4月から運用を開始しました。15km離れた江東豊洲病院とも接続されており全49のICUベッドの治療をサポートしています。サポートセンターには重症ケア認定看護師と集中治療専門医各1名が配備され、多忙な現場スタッフを支援するために連携して治療を行っています。Tele-ICUでは最先端の病態解析システムを用いて病状の変化を予測し問題点をいち早く見つけ出すことにより、重要臓器の機能保護に努めています。

eICU

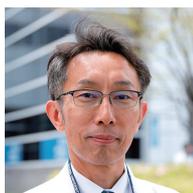


責任者
大嶽 浩司

特色 昭和大学は2018年4月に日本で初めて、遠隔医療を集中治療分野に導入しました。この**遠隔集中治療システム**を英語ではTelemedicine-ICUと言い、本学では略してeICUと呼んでいます。重症な患者のケアが常に充分にできるようベッド2床につき専属の看護師1名以上が配置されている複数の重症病棟を、ネットワークとビデオ通話システムでつなぎ、**全患者の病状変化が一目でわかるような監視解析システムが設置され、医師の治療方針決定を支援**しています。サポートセンターにいる認定看護師と集中治療の専門医はこの仕組みを使って、昭和大学病院内の3つの重症病棟(ICU、CCU、救命センター)と15km離れた昭和大学江東豊洲病院の2つの重症病棟に入室した50名の患者の病状を継続的に観察し、それぞれの患者さんに合った最適な医療が常時実施できるように主治医や病棟看護師と連携して治療を行っています。eICUの導入により、病棟の枠を超えた重症患者の最適な配置や、患者の変化に即時に対応した急変を未然に防ぐ治療が行われ、さらなる治療成績の向上が期待されています。また、アジア初の先端技術であるため、世界中から昭和大学の集中治療に視線が注がれています。



CCU



責任者
新家 俊郎

特色 重症の循環器疾患に対応するため、循環器内科の集中治療室であるCCUを入院棟2階に設置し、専属の担当医を5名配置しています。循環器内科専用の病床10床(個室4床、オープン6床)を運用し、緊急入院を受け入れています。大動脈バルーンポンピング(IABP)や経皮的な心肺補助(PCPS)などの補助循環装置や人工呼吸器が常備されており、適応症例に速やかに導入できる体制が整っています。患者さん受け入れに関しましては、救急隊や消防庁からのCCUネットワークだけではなく、**地域医療機関(開業医)の先生方と重症患者に関して直接連携が取れるように開業医ホットライン(ハートラインシステム)も運用**しています。

CCUでは、急性冠症候群、重症心不全、重症不整脈、肺血栓症等の重症循環器疾患の集中治療を行っており、2018年には、重症急性心不全115例、急性心筋梗塞91例、不安定狭心症55例、重症不整脈33例、肺塞栓、心筋炎、心筋症等を受け入れてまいりました。冠動脈疾患に対するインターベンション、不整脈に対するカテーテル治療、肺動脈血栓症に対する血栓吸引療法などのカテーテル治療は24時間実施可能な体制が整っており、必要な症例に対しては時期を逸することなく治療を実施することが可能です。

開業医ホットライン(ハートラインシステム)：03-3784-8180

HCU

責任者
小谷 透

特色 HCU (High Care Unit) はベッド数16床を有する高度治療室です。概念的には、集中治療室(ICU)と一般病棟の中間に位置する準集中治療室であり、監視装置などはICUと同様に設置されています。ICUは患者さん2名に対し看護師1名という看護体制ですがHCUは患者さん4名に対し看護師1名となっています。昨年は26診療科、2,007名の重症患者を収容しました。最近の集中治療のゴールは救命だけではなく社会復帰です。ICUでの治療によって病状が回復すれば、自宅退院のためのリハビリがICU滞在中から開始されます。ICUからHCUへと少ない看護体制に移ることで患者の自立性を高め、一般病棟に戻る準備ができていないか治療の継続性を維持し評価していきます。また、ICUほどの重症管理を必要とはしませんが、数日間集中監視が必要な患者さんを受け入れています。ICUとHCUが密接に連携することで、集中治療が必要な患者さんにその重症度に応じて直ちに治療機会が提供できるようになります。HCUの運営にも集中治療科が主体的に関わっています。

SCU

責任者
水谷 徹

特色 SCU (Stroke Care Unit) は脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)急性期の患者さんを、専門医療スタッフがチームを組んで集中的に診療を行う病床のことです。

SCUでは脳卒中の専門知識を持つ経験豊富な脳卒中専門医師、看護師、リハビリテーション療法士らの専門チームにより、脳卒中を発症早期から24時間体制で集中的に治療しています。

血管の閉塞による脳梗塞では、血栓を溶かすt-PA静注療法等の内科的治療、血管にカテーテルを通して血管拡張や血栓除去を行う血栓回収術等の血管内治療、血腫除去術等の外科的治療を患者さんの状態に合わせた治療を提供しています。

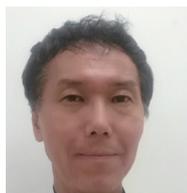
一方、治療過程の判断がとても複雑であることに加え、このような高度医療は超急性期の限られた時間内に行う必要があり、脳卒中の治療は時間との闘いでもあります。このため、救急隊からのスムーズな受け入れを実現すべく、脳卒中ホットラインを設置しています。脳卒中超急性期治療の提供、地域における救急医療への一層の貢献を目指してまいります。

東京都では発症24時間以内の脳卒中は、脳卒中Aとして救急隊が対応し、治療可能な施設へ搬送するシステム(※東京都脳卒中救急搬送体制)になっています。救急隊はよくトレーニングされています。昭和大病院は24時間、365日脳卒中Aを受け入れる体制になっていますので、まずは、**脳卒中を疑ったら救急隊に連絡して判断していただくことがよいと思います。**

※東京都脳卒中救急搬送体制の概要

脳卒中発症後の救命や後遺症の軽減を図るため及び速やかに適切な急性期医療機関に救急搬送するために構築されたものであり、119番通報後救急隊が重症度を判断し、発症24時間以内の場合は「脳卒中A」、24時間を過ぎた場合は「脳卒中B」の現在治療可能な施設へ搬送するシステム。

リハビリテーションセンター

センター長
笠井 史人

特色 リハビリテーションセンターでは救命救急センターや集中治療室と連携するなど高度急性期病院における早期リハビリテーションの充実に努めています。脳血管障害は発症初期から在宅生活を念頭に入れて理学療法、作業療法、言語療法など多面的なアプローチを行っています。心大血管疾患に関しては専従の理学療法士が循環器内科の指示のもと急性期から外来通院リハビリテーションまで対応しています。その他、術後早期の整形外科疾患患者さんのもとより、人工呼吸器管理下の重症呼吸器疾患患者さん、白血病に対する造血幹細胞移植患者、新生児集中治療室でのリハビリテーションなど、特定機能病院ならではの様々な疾患に対するアプローチを行っています。附属東病院にも専用のリハビリテーション室が開設されており、理学療法、作業療法を行っています。

中央手術室



責任者
村上 雅彦

特色 中央手術室は、中央棟6階に12室の手術室、中央棟5階に2室の小手術室を完備しております。主に6階は全身麻酔、5階は局所麻酔下手術等の小手術に利用されています。緊急産科分娩・緊急手術対応を常時1室確保しつつ、稼働率90%以上を達成しており、2018年の全手術件数は10,490件(全身麻酔6,706件)でした。このうち胸腔鏡・腹腔鏡による内視鏡外科手術は1,655件(25%)実施されており、泌尿器科、産婦人科、食道外科、消化器・一般外科においては**積極的なロボット手術(87件)が導入**されており、今後は呼吸器外科領域にも適応を拡大する予定です。特定機能病院・癌拠点病院への位置付けとして、これら高度先進・先端手術の導入とともに、悪性疾患に特化した手術の増加を目指しています。

手術待機患者さんを減少させるべく、Fast pass制度を導入し、土曜日にも定期手術枠を設け、患者サービスの向上並びに、手術数増加に向けた手術室管理改革を進めています。また、設備面では、大学病院という特殊性を踏まえた先端医療を提供すべく、最新の内視鏡外科専用手術室、手術用ロボット(ダヴィンチ)、心臓血管外科・脳神経外科・整形外科分野等の血管内治療・放射線透視下治療に対応すべく高性能な透視装置と手術寝台を組み合わせたハイブリッド型手術室を1室導入し、高難度手術に取り組んでいます。さらに、安全で質の高い手術を提供すべく、3D・4K内視鏡外科手術ユニット、生体イメージング(IVI)としてICG近赤外線蛍光内視鏡システム・共焦点レーザー内視鏡、手術画像シミュレーションシステム、GPS搭載超音波によるvolume Navigationシステムを完備し、手術に応用しています。



ハイブリッド手術室



ダヴィンチサージカルシステム

緩和ケアセンター



センター長
岡本 健一郎

特色 2002年4月緩和ケアセンターの設置に伴い、緩和ケアチームが配置されました。当初は年間約200名程でしたが、現在は約500名程の依頼を受け、常に40余名の入院患者を担当しています。

緩和ケアチームメンバーは、

- ①緩和医療科医師—薬物療法・神経ブロック療法を中心に身体症状緩和を担当
- ②精神科医—薬物療法・精神療法を中心に精神症状緩和を担当
- ③緩和ケア認定看護師—患者さんやご家族の療養上の相談や情報提供、病状などの説明をお受けになった後のサポート、生活に即した症状緩和方法の検討、院内外の医療サポートチームとの連携などを担当。
- ④がん薬物療法認定薬剤師—薬物療法に関する薬剤の作用、副作用、相互作用、保管方法などの服薬指導および専門的な薬剤管理や情報提供を担当。
- ⑤管理栄養士—患者さんの栄養状態を把握し、食事療法を中心とした栄養治療管理、さらに状況に合わせ、QOL・ADLの維持と向上を目指し、患者さんごとの嗜好・病状などを考慮した食事の提供を担当。

また、総合相談センタースタッフ(退院調整看護師・MSW)と協働し、療養先への連携や経済的問題や両立支援などに関する社会的問題への介入など早期に対応させて頂いております。

褥瘡ケアセンター



センター長
五藤 哲

特色 褥瘡ケアセンターでは、全入院患者を対象に、各病棟・関連部署が褥瘡発生予防対策と褥瘡保有者の悪化予防・治癒促進に向け、適切なケアが実施されるように各専門分野の知識・技術によるサポートを行っています。褥瘡保有者に対し、患者さんの同意に基づき担当医師または看護師から依頼を受け、褥瘡ケアチームによる週1回の褥瘡回診を行い、また、随時対応し、再発・悪化予防に努めています。

褥瘡回診では、褥瘡の状態評価と局所治療の他、ケア方法・管理指導・予防対策等、看護師をはじめとする医療者へ指導をしています。また患者さんの状態、在宅移行時や転院時も含め状況に応じたスキンケア・栄養管理など指導及び評価を行います。

褥瘡ケアセンターは、2002年、中央部門の一つとして設立され、2007年より褥瘡ハイリスク患者ケア加算の導入に伴い、専従の褥瘡管理者が配置されています。

診療の主体である褥瘡ケアチームは、専任医師(皮膚科)、専従・専任看護師(皮膚・排泄ケア認定看護師)、薬剤師、栄養士、臨床検査技師によって構成されており、褥瘡対策・治療に関わる主な職種が褥瘡ケアチームとして協働した活動を行っています。それぞれの専門的な知識・技術を活用し、褥瘡予防・悪化防止対策としてセミナーの開催等、教育・研究を推進しています。また、褥瘡予防及び褥瘡悪化防止のみならず脆弱な皮膚(スキン-ケア)に対する治療・治癒環境の整備に努めています。

腫瘍センター

センター長
角田 卓也

特色 近年、がん薬物療法の主体は、入院から外来へと大きく変化しております。昭和大学病院は地域がん診療連携拠点病院に指定された医療機関であり、東京城南地区のがん治療の拠点となっています。当センターでは各学会指導医、専門医、がん薬物療法専門医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、がん薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師、がん化学療法認定看護師がチームを作り、抗がん剤投与計画を立案し実行しております。保険適応外治療、研究的治療、治験薬についても倫理委員会の承諾のもと実施しております。がん薬物療法の実施にあたっては、安全な薬物療法とその後の管理が最も重要です。昭和大学病院腫瘍センターでは、抗がん剤の調整はセンター内で専門薬剤師が、患者さんへの投与および経過観察は看護師が実施し、業務内容を完全に分けております。また、常時がん薬物療法の専門家である腫瘍内科医や血液内科医が常駐し、抗がん剤投与時のアナフィラキシーを始めとする急性副作用に対しても迅速に対応しております。緩和医療科とも連携をとり、肉体的、精神的なケアを実施し、外来での抗がん剤治療を患者さんが安心して受けられるようにハード、ソフト両面からサポートできるセンターとなっております。毎週、**腫瘍センターチーム関係者全員によるカンファレンス**を開催しております。そこで副作用情報や運営状況を報告し、副作用情報の共有、効率的な運用を議論し、患者さんに寄り添う腫瘍センターとなるよう努めております。

【2018年度 外来薬物治療実績数(延数)】：7,565人

ブレストセンター

センター長
中村 清吾

特色 ブレストセンターは、医系総合大学としてのメリットを最大限に活用し、関連各科と密接に連携した患者中心の医療を提供しています。検診で乳がんが疑われた場合の鑑別診断、手術を中心とする初期治療、再発乳がんの治療を、腫瘍センター、緩和ケアセンターなどとの連携により「患者中心の医療」の理念に基づいて提供しています。ブレストセンター内には、マンモグラフィ 2台、超音波検査装置3台(カラードップラー、エラストグラフィ対応)、骨塩量測定装置が設置され、専用の検査衣に着替えた後、**一連の検査及び診察を効率よく受けることができ**、必要に応じて、マンモトームの画像を元にした乳房吸引式組織生検も、センター内で行うことが可能です。予約制にてセカンドオピニオンや遺伝カウンセリングもお受けしています。また、毎週土曜日は日本対がん協会検診を実施しています。



臨床遺伝医療センター

センター長
関沢 明彦

特色 臨床遺伝医療センターは、遺伝性疾患に対する診療および遺伝カウンセリング、遺伝子検査などを行っており、現在対応可能な領域は、主に産婦人科、小児科、乳腺外科です。診療では、関連する各診療科とも連携して診療にあたっています。具体的な対象疾患は以下のとおりです。

- 産婦人科：出生前検査・診断、遺伝性婦人科腫瘍、各種遺伝性疾患など
- 乳腺外科：遺伝性乳がん卵巣がん症候群、その他の遺伝性腫瘍
- 小児科：先天異常症、染色体異常症、各種遺伝性疾患

産婦人科では、赤ちゃんに伝わる可能性のある様々な遺伝性疾患の相談や、高年妊娠、遺伝性の婦人科腫瘍などの遺伝カウンセリングに積極的に対応しています。さらに、羊水染色体検査、絨毛染色体検査、母体血胎児染色体検査、母体血清マーカー検査、各種遺伝子検査などに対応しています。さらに、産婦人科では臨床遺伝医療センターとの協力のもと、相談者の希望に応じて「胎児ドック」外来で赤ちゃんの形態的評価と遺伝学的評価を行っています。

乳腺外科では、遺伝性乳がん卵巣がん症候群などの遺伝性腫瘍についての遺伝カウンセリングや遺伝子検査に対応しています。

小児科では、出生前診断された胎児疾患に対する相談を受け付けるとともに、その後の子育てなどもサポートしています。また、遺伝的な疾患のあるお子さんの医学的な支援を行っています。

遺伝カウンセリングの相談者には正しい情報を提供し、疾患や検査についての理解をサポートするとともに、相談者が主体となつての意思決定することを支援します。

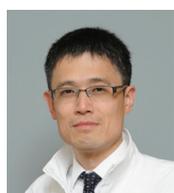
輸血センター



センター長
中牧 剛

特色 年間およそ1,500症例の輸血(赤血球製剤約13,000単位、血小板製剤約35,000単位、新鮮凍結血漿製剤約6,700単位)の輸血治療に対する輸血関連検査の実施や輸血用血液製剤の保管・管理を実施しています。中央診療部門として、専用採血室で各診療科医師の下、看護師と共に安心して安全な自己血採血を行い、血液内科医師の下では、造血幹細胞移植関連の業務にも携わっています。また、輸血製剤、アルブミン製剤の適正な輸血管理が行われているか第三者機関の日本輸血・細胞治療学会I&A委員会によるI&A施設認定を受け、常に安全で有効な輸血療法が実施されるよう努めています。

超音波センター



センター長
扇谷 芳光

特色 当センターでは、内科、外科をはじめとする各診療科の医師、臨床検査技師が多領域に渡る超音波検査に携わっています。検査件数は年々増加しており、スクリーニング検査や術前・術後検査のほかに、超音波を用いた組織生検や治療も積極的に行っています。甲状腺、肝臓、前立腺など様々な領域において組織生検採取を安全に施行し、確実に組織・細胞を得るために超音波ガイド下による生検を行っています。循環器領域では不整脈患者のカテーテル心筋焼灼術を安全に施行するために術前経食道心エコーによる血栓評価、3D経食道心エコーを用いた弁膜疾患の詳細な評価、運動負荷心エコーを施行しています。消化器領域ではラジオ波焼灼療法を用いた肝細胞癌の治療、超音波造影剤を使用した肝腫瘍の質的診断や肝細胞癌の治療効果の判定を行っています。

内視鏡センター



センター長
山村 冬彦

特色 消化器領域では、2015年1月に高画質拡大内視鏡(290シリーズ)を導入し、高画質かつ操作性のよい内視鏡は患者さんの苦痛が軽減され、さらに精密な診断を行うことができます。経鼻内視鏡も癌などの狭窄症例で使用しております。また大腸内視鏡で癒着により挿入が困難な場合はPCF-PQ260L(Φ9.2mm)を使用し、肥満など腸が長い症例には、2018年1月より導入したPCF-H290L(ロング長)を使用しております。状況に応じて内視鏡を使い分け、苦痛軽減に努めております。また、高画質拡大内視鏡を使い、従来では発見しにくい微小な早期癌を見つけ、**EMR(内視鏡的粘膜切除術)やESD(内視鏡的粘膜下剥離術)を食道・胃・大腸で積極的に行っております。**

その他にも、救急医療の中核病院として出血性消化性潰瘍、悪性腫瘍からの出血、食道・胃静脈瘤破裂などの消化管出血、異物誤飲に対しても24時間対応可能な内視鏡体制を整えております。小腸疾患の診断に有用なカプセル内視鏡は、2016年8月に最新式のPillcam SB3(コヴィディエンス)にし、画質の向上が図られた**カプセル内視鏡**で診断し、小腸内視鏡で精査・加療も可能となっております。

膵胆道疾患では、内視鏡的逆行性胆膵造影、超音波内視鏡を用いた穿刺術(FNA)を行っております。閉塞性黄疸に対する胆道ドレナージ、ステント留置術などを施行し、膵嚢胞に対するドレナージなどの治療も積極的に行っております。胆嚢炎、胆管炎、総胆管結石陥頓など緊急性の高い疾患に対しても**治療内視鏡(EST・EPLPD)が24時間対応できる体制を整えております。**胆膵領域の検査数は都内トップクラスを誇っております。

呼吸器領域では、気管支内視鏡を用いて、気管支内の組織や細胞を採取し、呼吸器疾患、特に肺癌の診断を行っております。2016年8月にBF-P290を導入し、径が細くなり、患者さんの苦痛が軽減されるのみならず、画質も非常に改善、これにより診断能が格段にアップいたしました。また、**EBUS(気管支腔内超音波断層法)**も導入しており、従来の気管支内視鏡検査では診断が困難な末梢病変に対して超音波ガイドシース法:EBUS(気管支腔内超音波断層法)を用いることによって診断率が向上いたしました。また、コンベックスタイプの気管支鏡を用いた超音波ガイド下針生検はリアルタイムに血管の走行を確認しながらに安全に縦隔リンパ節生検を行うことができ、肺癌のリンパ節転移の有無を確認し病期決定に役立ちます。その他、サルコイドーシス、悪性リンパ腫などの縦隔リンパ節が腫大する疾患を診断する上でも有効です。

また、食道外科、消化器内科、消化器・一般外科と共に、城南消化器内視鏡研究会を継続して行っております。この他、若手ドクターのスキルアップのために豚の胃を使ったハンズオンセミナーを企業の施設で行っております。これらの研究会を通して近隣の先生方と情報交換をしつつ、更なるレベルアップを図りたいと思います。

てんかん診療センター

センター長
加藤 光広

特色 てんかんの有病率は人口の0.6-1%といわれ、国内では100万人前後の患者さんがいると推定される普通みられる疾患です。新しい薬の登場、外科治療の進歩、遺伝的な原因の解明、新たな行政施策、診断分類の変更など、てんかんを取りまく環境はこの10年間で大きく変化しました。認知症や脳卒中を背景とした高齢者のてんかん患者さんも増えています。てんかんの診療にはくわしい問診や脳波検査、画像検査が欠かせず、専門的な知識と経験が必要です。また、患者さんによってはてんかん以外の併存症を持つ場合も多く、診療科の垣根を越えた連携が大切です。てんかん診療センターは、小児科、脳神経内科、脳神経外科、精神神経科を主体に、関連部署が協同して新生児から成人までのてんかんとてんかんが疑わしい発作症状を持つ患者さんの診療を行います。長時間ビデオ脳波同時記録による発作の捕捉や、術中脳波記録、てんかん外科治療、てんかんの遺伝相談、セカンドオピニオンなど、確かな知識と技術に基づいた先端的な医療を提供し、患者さんと御家族の抱える問題に真摯に対応します。

なお、患者様のご紹介に際しては、**小児(中学生以下)はすべて小児科へ、初発の成人の方は脳神経内科へ、難治もしくは手術適応と考えられる方は脳神経外科のてんかん外科外来へ、精神的問題を抱える方は精神神経科**にご紹介いただきますようお願いいたします。

総合サポートセンター・がん相談支援センター

センター長
角田 卓也

特色 当院の相談窓口である「総合サポートセンター」についてご紹介します。総合サポートセンターでは専門の担当者が、患者さん・ご家族が安心して療養生活を送れるよう一緒に問題を考えていきます。また、総合サポートセンターではがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの役割を担っています。

- 病気や怪我をすると、健康なときには無かった様々な生活上の問題が出てきます。
- ・診療についての相談、がんの診療に関する相談
- ・当院にかかっている困っていることがある
- ・医療費・生活費に困っている
- ・退院後の生活、介護のことについての心配
- ・食事のことがわからない
- ・薬のことを教えてほしい
- ・使える制度について知りたい
- ・何科に相談したらいいかわからない
- ・医療安全に関すること
- 相談をご希望の場合
- ・入院中の方：医師または看護師にお申し出いただくか、事前に下記までご連絡ください。
- ・外来の方：直接来室していただくか、事前に下記までご連絡ください。

電話：03-3784-8775(直通)
受付時間：月曜～土曜 8:30～17:00

※相談内容についてのプライバシーはお守りいたします。どなたでもご利用いただけます。



呼吸ケアセンター

センター長
相良 博典

特色 呼吸ケアセンターは、2018年4月に、睡眠医療センターと共に昭和大学病院附属東病院に新たに開設されました。近年、慢性閉塞性肺疾患(COPD)や間質性肺炎など慢性呼吸器疾患の患者さんが増え、感染などを契機に入院する症例が増加しております。また、高齢者を中心に肺炎の入院も依然として多い状況にあります。これらの患者さんは、入院後の急性期を脱しても、全身の筋力低下や嚥下機能低下などによってADL(日常生活動作)が低下し、しばしば入院が遷延します。このような背景の中、呼吸ケアセンターが開設されました。当センターの主な対象疾患は、急性期を脱した慢性呼吸器疾患や肺炎患者です。急性期を脱したのち、社会生活に復帰するためのリハビリや慢性管理の調整などを行います。また、慢性呼吸器疾患の集中リハビリや教育入院および在宅酸素導入にあたっての教育入院なども実施いたします。特に最近フレイル、サルコペニアに関する問題も数多く抱えており、薬物療法ならびに理学療法を充実させることが急務です。

実際の診療は、呼吸器内科医師が中心となり、昭和大学病院の呼吸器センター、病棟看護師、リハビリスタッフ(PT:理学療法士、OT:作業療法士)と情報を共有し密な連携を取りながら進めていきます。薬物療法とリハビリを中心とした非薬物療法が診療の二本柱となります。また、入院中の患者さんの状況に併せて、医療連携スタッフと協力し退院後のプランを決定します。

まだ開設より日が浅く、実績もない部署ではございますが、現代の医療ニーズに応えるべくきめ細かい医療を展開して行きたいと思っております。

臨床試験支援センター

センター長
小林 真一

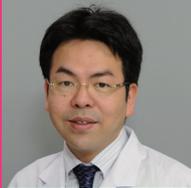
特色 臨床試験支援センターは昭和大学附属8病院と臨床薬理研究所(烏山病院内)との連携を図り、早期探索的臨床試験(第I相試験から初期第II相試験)をシームレスに実施し、同一プロトコルの複数病院での実施を行えるよう体制整備しております。さらに昭和大学8附属病院(3,200床)のスケールメリット、各診療科の特長を生かして、昭和大学でしか出来ない治験・臨床試験の実施を支援しています。

治験依頼者からの症例調査は、昭和大学附属病院臨床試験支援室協力のもと、臨床試験支援センターが中心となり調査を行うことで迅速・正確に回答を行っております。これらスムーズな治験受け入れ体制を整備することにより昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院では2018年度は19件の新規治験を受託し、昭和大学の附属病院全体では44件の新規治験を受託いたしました。また、定期的に昭和大学附属8病院の臨床試験支援センター・支援室で治験合同会議を行い、治験・臨床試験の実施に関する手順の統一や各病院の治験実施率状況を報告・検討を行うことで、高い治験実施率を維持しています。(昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院の被験者登録終了した治験の実施率は2019年3月現在81.7%)

2019年4月に新設された昭和大学統括研究推進センターとの連携により臨床研究法への対応やそれに関連した倫理教育への取り組みも行ってまいります。医系総合大学として、これらの治験・臨床試験を通し優れた医薬品・医療機器と優れた医療人を世に送り出すことが社会的使命と考えています。

脳神経内科

診療科長



小野 賢二郎

Kenjiro Ono

専門：認知症、パーキンソン病

対象疾患：認知症疾患(アルツハイマー病、レビー小体型認知症など)、変性疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症など)、脳血管障害(脳梗塞、脳内出血など)、神経感染症(髄膜炎・脳炎など)、機能的疾患(てんかん、頭痛など)、末梢神経・筋・神経筋接合部疾患(ギラン・バレー症候群、筋炎、重症筋無力症など)

専門外来：

■**物忘れ外来：**物忘れを主訴に受診される方に対して、問診、診察、神経心理学的検査、画像検査、血液検査、各種バイオマーカーを用いた的確な診断をし、薬物治療や生活・療養指導を行う。

■**頭痛外来：**片頭痛や緊張型頭痛などの慢性頭痛の専門的な薬物治療や生活指導を行う。また危険な2次性頭痛を見逃さないため、必要に応じて検査を施行する。

■**電気生理検査外来：**末梢神経伝導検査、針筋電図検査を行い、末梢神経、筋、神経筋接合部疾患の診断を行う。

1 特徴的な診療領域

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院の脳神経内科は認知症と脳卒中を診療の柱としています。

1) 脳卒中診療

救急医療センターに脳卒中診療に特化した**Stroke care unit (SCU)**を持ち、脳神経内科・脳神経外科の協力体制のもと、脳卒中に対応する専属医師を配置し、24時間体制で脳卒中の急性期診療を行っています。超急性期脳梗塞に対して遺伝子組み換え組織プラスミノゲンアクチベーター(rt-PA)静脈内投与や血管内治療などの急性期再開通療法を駆使して治療に行っており、昭和大学病院、ひいては城南地区での脳卒中診療の中軸となれるよう日々努力しています。時間外診療でも発症24時間以内の超急性期脳梗塞に該当する脳卒中患者さんなど、早急に治療の必要な患者さんのご紹介をお願い致します。また昭和大学病院は24時間、365日脳卒中Aを受け入れる体制になっていますので、まずは、脳卒中を疑ったら救急隊に連絡してください。(※東京都脳卒中救急搬送体制)

2) 認知症診療

もの忘れ外来を開設し、脳脊髄液バイオマーカー、遺伝子検査、MRI・核医学検査などの画像検査を積極的に活用した精度の高い認知症の診断を行っています。また、臨床心理士の協力のもとで行う神経心理学的検査や高次脳機能検査を用いて、的確な認知機能評価心がけています。認知症は早期の診断や治療介入が重要ですので、認

知機能の低下が疑われる患者さんは早期から積極的にご紹介いただければと思います。さらに、2017年度から厚生労働省が掲げる「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」の一施策として、認知症の患者さん、ご家族、専門家、地域住民が集い、交流や情報交換を主な目的とした「認知症カフェ」を昭和大学病院附属東病院で月1回第4月曜日に開催しています。認知症患者が増加することが懸念される中、非常に重要な取り組みとして認知症カフェは注目されています。ご興味のある患者さんやご家族の参加をお待ちしております。

■神経変性疾患

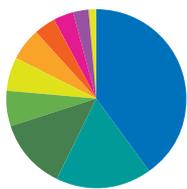
パーキンソン病やアルツハイマー病などの神経変性疾患の診断治療に力をいれています。頭部MRIや脳血流シンチグラフィなどの画像・核医学検査に加え、ApoE、アミロイドβやシヌクレインなどの各種脳脊髄液バイオマーカーを積極的に活用しています。また、専門の臨床心理士による神経心理学的検査を行い質の高い診断を行い、治療に繋げています。

※東京都脳卒中救急搬送体制の概要

脳卒中発症後の救命や後遺症の軽減を図るため及び速やかに適切な急性期医療機関に救急搬送するために構築されたものであり、119番通報後救急隊が重症度を判断し、発症24時間以内の場合は「脳卒中A」、24時間を過ぎた場合は「脳卒中B」の現在治療可能な施設へ搬送するシステム。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....17,336人
- ② 入院患者数(実数).....1,001人
- ③ 入院疾患別の実績



■ 脳血管障害(脳梗塞、脳出血など).....	267人
■ 変性疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症など).....	114人
■ 発作性・機能的疾患(てんかん、頭痛など).....	84人
■ 感染性疾患(髄膜炎、脳炎など).....	43人
■ 認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症など).....	40人
■ 末梢神経障害(ギラン・バレー症候群など).....	40人
■ 脱髄・炎症・肉芽種性疾患.....	25人
■ 筋疾患.....	25人
■ 運動ニューロン疾患.....	17人
■ 腫瘍性疾患.....	9人



2020.7～変更、現在は昭和大学病院で
外来を行っています。

糖尿病・代謝・内分泌内科

診療科長



山岸 昌一

Sho-ichi Yamagishi

専門：内科学全般、特に糖尿病や生活習慣病の管理・治療、糖尿病学、循環器病学、内分泌代謝学、老年病学、栄養学

対象疾患：代謝疾患（1型・2型糖尿病、妊娠糖尿病、ステロイドや降性等の二次性糖尿病、脂質異常症、メタボリック・シンドローム）、内分泌疾患（先端巨大症、尿崩症などの下垂体疾患、バセドウ病、橋本病などの甲状腺疾患、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの副腎疾患）、その他老年病

専門外来：

- 妊娠糖尿病外来：妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠に対して専門的に診療を行う妊娠糖尿病外来を開設し、産科と連携をとり血糖管理、出産後のフォローアップを行う。
- 1型糖尿病外来：1型糖尿病に対してFlash Glucose Monitoring (FGM) や Sensor Augmented Pump 療法 (SAP 療法) を行い詳細に血糖変動を把握することを指導するとともに、管理栄養士と共にカーボカウントの指導をすることでより質の高い治療の実践を行う。
- 内分泌外来：バセドウ病、橋本病などの甲状腺疾患や下垂体・副腎疾患、副甲状腺疾患などの内分泌疾患の診断・治療を行う。

1 特徴的な診療領域

- 老化物質AGEsの測定による包括的な老年病の管理・治療
- エビデンスに基づいた食事・生活習慣指導
- 1型糖尿病の患者さんとそのご家族を対象とした患者会(青空の会)を介した勉強会や交流会などの開催
- 糖尿病教室の開催(毎月1回水曜日の午後): 医師、認定看護師、管理栄養士が講義をそれぞれ担当しており、糖尿病による合併症や日常生活や食事療法の注意点などについて講義を行っています。
- 近隣開業医の先生方に受診している生活習慣病患者さんの食事指導を目的に、昭和大学病院ヘルシースクールの開催しております。患者さんをFAXで紹介していただき、患者さんは病院の受付をせずに管理栄養士の講演を無料で受講可能となっております。
- 内分泌疾患に関しては、原発性アルドステロン症に対する副腎静脈サンプリングや難治性バセドウ病に対するアイソトープ治療を実施しております。
- インスリン治療が必要と判断されても入院することが出来ない患者さんへは外来でのインスリンやGLP-1製剤の導入を実践しております。
- クリニカルパスを用いた教育入院や手術前の血糖コントロールを目的とした入院
- 各種内分泌疾患の確定診断を行うための入院

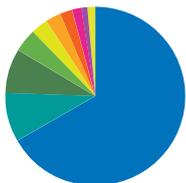
■ 当科においては以下の最先端の検査・治療が可能です。

- ・ AGEs測定による老化度のチェック
約1分ほどで、体内に蓄積された老化物質AGEsを測定でき、老化度チェックとともに、日頃の生活習慣の見直しに応用可能な検査です。
- ・ 持続血糖モニター Continuous Glucose Monitor (CGM)
血糖値を24時間連続して測定し、これまで分からなかった食後高血糖や夜間低血糖などを把握でき、より質の高い治療を行うことが外来診療でも可能となります。
- ・ 治療持続皮下インスリン注入療法 (CSII)
24時間連続的にインスリンを注入するポンプを皮下に挿入することで、よりキメの細かい血糖コントロールが可能です。インスリン注射の煩わしさから解放されるメリットがあります。
- ・ パーソナルCGM機能を搭載したインスリンポンプ療法: Sensor Augmented Pump (SAP) 療法
低血糖および高血糖時にアラームで知らせてくれる機能が搭載されており、さらに「スマートガードテクノロジー(低血糖前一時停止機能)」により、低血糖を予測しインスリン注入を自動で一時停止することも可能です。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数)……………30,685人
- ② 入院患者数(実数)……………493人
- ③ 入院疾患別の実績



■ 2型糖尿病……………	295件
■ 副腎疾患(うち原発性アルドステロン症)……………	40(24)件
■ 1型糖尿病……………	35件
■ 甲状腺疾患……………	18件
■ 下垂体疾患……………	14件
■ 電解質異常……………	12件
■ 感染症の合併症……………	10件
■ 糖尿病合併症……………	7件
■ 副甲状腺疾患……………	6件
■ 低血糖……………	5件



整形外科

診療科長



稲垣 克記
Katsunori Inagaki
専門：手外科

対象疾患：救急医療、小児外傷、スポーツ障害、靭帯損傷、変形性関節症、半月板損傷、軟骨障害、関節リウマチ、上肢手・肘疾患、肩関節疾患、股・膝関節疾患、骨粗鬆症、骨壊死など

専門外来：

- ・手の外科診：運動器に関する組織が精緻な構造で存在するためより専門的な診断と再建手術を行う。
- ・肩診：幅広い肩疾患の診療を行う。
- ・股関節診：乳児から高齢者まで股関節疾患の診療を行う。
- ・膝関節診：膝痛、O脚
- ・リウマチ診：血液検査にとらわれず全身から局所の関節まで広く病変を把握し診断、治療を行う。
- ・スポーツ診：スポーツによる下肢の外傷・障害、成長期の痛みのスポーツ障害。
- ・骨粗鬆症診：骨密度・血液・尿の結果から骨年齢を判断、食事指導、運動指導、内服処方を行う。

1 特徴的な診療領域

■上肢領域では、手関節や肘関節の関節鏡下手術人工肘関節置換術、手指の人工関節をはじめとした最先端の高度医療を行い、小児の上腕骨顆上骨折後の内反肘変形や舟状骨の難治性偽関節、骨壊死にも米国Mayo Clinicにおける高いレベルの技術を取り入れています。難治性の骨折（舟状骨偽関節等）や骨壊死に対して、顕微鏡下に血管を付けたまま血流の豊富な骨を偽関節部に設置することによって、骨癒合および骨再生を期待できます。感染におちいった骨・関節にも応用可能です。**日本手外科学会認定研修施設にも認定**され、複数の手外科専門医でチーム医療の提供を行っています。

■股関節疾患

股関節疾患の治療は歴史があり、乳児から高齢者まで、骨温存手術から人工関節手術と幅広い治療法に対応しています。若年者には病態によって自分の骨を利用する骨切り術を施行しています。**骨セメントを使用しないで行う人工関節の使用**については日本でも最も古い歴史があり、数多くの実績があります。

■関節リウマチ

関節リウマチを中心として関節の病気を全般にわたって診療しております。早期から治療を開始して骨破壊を**生物学的製剤**を使用して最小限に抑えるようにすると、完治も夢ではなくなってきました。手術が必要になった際にはそれぞれの関節の専門の医師と密接に連携を

とりながら治療を行います。

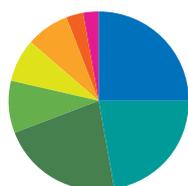
■スポーツ診

スポーツレベルは、全日本クラスからアマチュア、学生レベル、レクリエーションスポーツまで幅広く、主にスポーツによる障害、外傷を中心に手術、リハビリによる治療を行います。スポーツ部門で**ナショナルチームドクター**を務めるなど国際的に活躍する医師が多く、豊富なデータで各種スポーツ特性に応じて診療しています。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....43,013人
- ② 入院患者数(実数).....1,306人
- ③ 手術の実績



■ 脊椎手術	240件
■ 手外科手術	215件
■ 体幹・下肢骨折	210件
■ 人工膝関節置換術	90件
■ 人工股関節置換術	75件
■ 膝関節鏡手術	74件
■ 骨・軟部腫瘍	29件
■ 肩関節鏡手術	25件

※脊椎疾患は、昭和大学病院(脊椎外科センター)で行っています。



精神神経科

診療科長



岩波 明

Akira Iwanami

専門：精神生理学

対象疾患：うつ病・双極性障害などの気分障害、パニック障害・強迫性障害・社交不安障害などの不安障害、統合失調症などの精神病的障害、認知症、発達障害

専門外来：

■**パニック外来：**突然の不安発作、動悸などを特徴とするパニック発作の診療を行う。

■**もの忘れ外来：**物忘れに伴う問題行動などの診療を行う。

■**PTSD外来：**心的外傷にともなう様々な精神症状の診療を行う。

■**児童精神外来：**児童期の精神症状の診療を行う

※まずは16歳未満の方は小児科宛にご紹介ください。

■**アスペルガークリニック：**成人のアスペルガー障害およびADHDの診断を行う。

■**身体合併症外来：**身体に病気のある患者さんの精神症状に対する診療を行う。

1 特徴的な診療領域

当科では外来における薬物療法を中心とした治療を行っております。診療は完全予約制で、入院病床はありません。精神科／神経科領域の疾患に広く対応し、大学病院(総合)という利便性をいかして、適宜、検査や他科との連携を行いながら診断・治療を行っております。もともと身体疾患で当院の他科に通院中の患者さんが同じ病院の中で受診できるという利便性があります。

■検査

担当医の判断により必要に応じて各種心理検査を実施しています。また、身体的な問題で精神症状がみられる場合がありますので、精神科でも必要に応じて血液学的検査、頭部CT、MRI、SPECT(脳血流検査)、脳波を施行し、診断を確定しています。

■入院について

当科では入院病床はありませんので、基本的には外来での通院治療となります。しかし、病状の悪化などで入院が必要な場合には昭和大学附属烏山病院はじめ地域の精神科病床をご紹介します。

■アスペルガークリニック

自閉症スペクトラム障害、ADHD(注意欠陥・多動性障害)などの発達障害は小児期からその特徴が認められる疾患ですが、近年では小児期には見過ごされ、大人になってから診断がつくケースも少なくありません。精神神経科では特殊外来を設置し、その**診断確定**を行っています。診断がついた場合には、**昭和大学附属烏山病院のデイケアにも紹介**しています。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数)……………33,752人
- ② 診療の実績
 - 心理検査件数(実数)……………98件



眼科

診療科長



恩田 秀寿
Hidetoshi Onda
専門：眼外傷

対象疾患：白内障（多焦点眼内レンズ・眼内レンズ強膜内固定）、緑内障、ぶどう膜炎、網膜硝子体（網膜剥離・硝子体出血・黄斑円孔・網膜前膜）、眼形成、眼窩骨折、外傷性視神経症、涙道、未熟児網膜症、斜視弱視

専門外来：眼外傷外来 / 角膜外来 / 緑内障外来 / 網膜硝子体外来 / ぶどう膜炎外来 / 屈折矯正外来 / 角膜外来 / 眼形成外来 / アレルギー外来 / 小児斜視弱外来 / 神経眼科外来 / 眼形成外来 / 黄斑外来 / ロービジョン外来

主な機器：パターンスキャンニングレーザーパスカル、マルチカラーレーザー、YAGレーザー、後眼部・前眼部OCT、ゴールドマン視野計、ハンフリー・オクトパス視野計、レーザーセルフフレアメーター、アロマノスコープ、眼科超音波診断装置・UBM、IOLマスター、レットカム、高速度カメラ眼球運動解析装置、眼科手術顕微鏡、超音波白内障手術装置、広角観察システムおよび高速回転硝子体手術装置、トラバクトーム、眼内・涙道内視鏡、鼻内視鏡、ナビゲーションシステム

1 特徴的な診療領域

■昭和大学病院附属東病院では、眼科専用の手術室が2部屋あり、緊急・臨時手術にも対応可能になっております。

特徴的診療でもある眼窩骨折整復術や外傷性視神経症に対する視神経管開放術は、耳鼻科・形成外科・脳神経外科との合同手術になる場合は昭和大学病院の中央手術室で行っております。全身麻酔にも対応しているため、小児や認知症等により局所麻酔での手術が困難な症例、また増殖糖尿病網膜症や網膜剥離再発に対する内眼手術、眼窩骨折や眼窩深部腫瘍摘出術等の眼窩手術も施行可能です。

■**眼窩骨折手術：**2018年度の手術件数は眼窩底骨折・眼窩内側壁骨折を合わせて74件あり、国内でも有数です。眼窩底骨折に対しては、上顎洞バルーン（ブローアウトバルーン®）を用いた整復術を行い、できるだけ元の骨を温存した手術を目指しております。眼窩内側壁骨折に対しては、経涙丘切開による骨折整復を行っております。

■**外傷性視神経症：**全身状態が許す限りステロイドパルス療法を行い、ステロイドパルス無効例に対して視神経管開放術を行っております。視神経管開放術は視神経管の歪みによって生じた視神経圧迫に対する減圧を目的としており、当院ではこれまで約800例の外傷性視神経症症例に対し手術実績があります。手術は経皮経篩骨洞で行い、顕微鏡下で視神経管の管壁を開放します。

■**白内障手術：**2018年度の手術件数は、年間1,380件あり、2018年度より**多焦点眼内レンズ**を導入し、12月より**先進医療施設**に認定されました。近隣の先生方より多数のご紹介頂き、症例数は増加の一途をたどっております。いずれの症例でも術後QOV改善を認めております。今後、**三焦点レンズ**や**フェムトセカンドレーザー**も導入予定になっております。フェムトセカンドレーザーの使用により、多焦点眼内レンズ挿入症例や過熟白内障・チン小帯脆弱等の難治性白内障での安定した手術が実現可能となります。また、眼内レンズ脱臼に対しては、強膜内固定術を積極

的に行っており、良好な術後経過を得ております。

■**緑内障手術：**トラバクトーム®またはマイクロフックによる線維柱帯切開術、エクスプレス®挿入術および線維柱帯切除術、Baerveldt®インプラントを用いたチューブシャント手術、選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）を行い、良好な術後眼圧下降を得ております。

■**網膜硝子体手術：**網膜剥離・増殖性硝子体網膜症・糖尿病性網膜症・硝子体出血・黄斑円孔・網膜前膜等の網膜硝子体疾患に対し、Alcom社製のCONSTELLATION®/DORC社製のEVA®を使用し、25G/27GによるMIVSを行っております。緊急性疾患であります網膜剥離は随時受け入れております。若年症例や周辺網膜裂孔に対しては、積極的に強膜内陥術を施行しております。深部裂孔や巨大裂孔、多発裂孔、硝子体出血合併例に対しては、硝子体手術を行っております。

■**総合周産期母子医療センター**を有する昭和大学病院では未熟児網膜症に対するNICU回診を毎週水曜に行ない、必要に応じて網膜光凝固を施行しております。

■**加齢黄変変性・糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞**に対する抗VEGF硝子体内注射は、1泊2日の入院で行なっております。

■**鼻涙管閉塞・涙小管閉塞：**涙道内視鏡を用いたSGIを行い、鼻涙管再閉塞例に対して涙囊鼻腔吻合術（DCR鼻外法）を行っております。眼瞼下垂に対して眼瞼挙筋短縮術・ミュラー筋短縮術を、眼瞼内反に対して通系法・Hotz法・LERタッキングを行っております。

■**時間外診療**は品川区・大田区・目黒区を拠点とした区南部救急医療体制をとっており、平日夜間は昭和大学、東邦大学、荏原病院で輪番を組み、365日24時間安心できる眼科救急医療を行っています（当院：火・金曜）。土日祝祭日は各病院で時間外救急医療を行っており、当院では近隣の眼科診療医の先生方に客員講師として診療を担当して頂いております。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....28,533人
- ② 入院患者数(実数).....2,433人



**多焦点眼内レンズの
先進医療施設に認定されました。**

③ 診療の実績

内眼手術			外眼手術		
疾患	術式	件数	疾患	術式	件数
白内障	PEACE+ IOL	1,380	斜視	斜視手術	33
	PECCE+ IOL	16		眼瞼下垂手術	90
	ICCE	2	眼瞼内反症手術	29	
	2nd IOL	25	眼瞼腫瘍手術	14	
	後発白内障切開術	1	涙器	涙囊鼻腔吻合術	6
	その他			涙小管縫合術	3
緑内障	Iridectomy	1	涙道内視鏡手術	涙道内視鏡手術	36
	Trabeculectomy	33		その他涙器に関する手術	4
	Trabeculectomy	29	眼表面	翼状片手術	6
	エクスプレス挿入術	15	眼窩	視神経管開放術	2
	チューブシャント手術	4		眼窩底骨折整復術	61
網膜硝子体	網膜剥離（強膜内陥術）	72	眼窩内側壁骨折整復術	眼窩内側壁骨折整復術	13
	裂孔原性網膜剥離（硝子体手術）	48		眼窩内腫瘍摘出術	6
	眼内異物摘出術	1	眼窩内異物摘出術	5	
	網膜硝子体手術（上記以外）	241	その他	その他外眼手術	17
	硝子体注射	786			
強角膜	強角膜縫合術	17	内眼手術 合計 2,777		
角膜炎	角膜移植術	2	外眼手術 合計 328		
	その他	その他内眼手術	101	合計 3,105	

麻酔科 (ペインクリニック)

診療科長



大江 克憲
Katsunori Ooe

対象疾患: 頭痛・顔面痛、三叉神経痛、筋骨格系疼痛(筋・筋膜性疼痛、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、椎体圧迫骨折、脊椎術後痛など)、帯状疱疹関連痛、術後痛、複合性局所疼痛症候群、幻肢痛、脳卒中後痛、脊髄損傷後痛など

専門外来:

- 多汗症外来: 多汗症(全身性、手掌、腋窩、足底)に対して、薬物療法、神経ブロック治療、ボトックス治療を行う。
- 東洋医学外来: 東洋医学的診察により、痛みの治療(漢方薬、鍼治療ほか)を行う。*東洋医学科を紹介します。

1 特徴的な診療領域

ペインクリニックは、痛みの診断と治療を行う診療部門です。痛みは生体の異常を知らせる警告信号としての役割を持ちますが、この痛みは患者さんにとって不快であるだけでなく、継続すると生活の質まで低下させることもあります。そのため、患者が痛みを発症したら、できるだけ早急に痛みの治療を開始することが大切です。さらに慢性化した痛みは警告信号としての役割はなく、原因の如何に関わらず痛みそのものが治療対象となります。難治性の痛みの場合には、心理療法やリハビリテーションが必要なこともあります。

当科では、神経ブロック療法や薬物療法などの様々な方法を組み合わせ、患者さんに有害な痛みを除去または軽減するための治療を行います。痛みに関する専門的な知識と技術をもとに、その原因を診断し、個々の患者さんに適した検査や治療を実施しております。また、顔面神経麻痺や多汗症、血行障害など、痛みを伴わないものの神経ブロック療法などが著効する疾患も治療対象となります。

当科は、外来診療や短期の入院診療を中心としており、夜間の救急や、長期の入院を必要とする場合には、対応できないこともあります。

ペインクリニック自体が高度な専門性を要する特徴的な診療領域です。当科で提供する様々な治療法は他の診療科にない広がりを持っています。

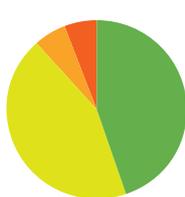
近年、多くの鎮痛薬や鎮痛補助薬が上市されておりますが、各薬剤には特徴があり、投薬に対しても専門的な知識が必要です。また、神経ブロック療法に限らず、高周波熱凝固療法、パルス高周波療法、硬膜外洗浄・癒着剥離、経皮的髄核摘出術、脊髄刺激療法などのインターベンショナル治療も行っています。また、鍼治療や漢方薬など東洋医学的な治療も積極的に取り入れています。通常の痛み治療で疼痛管理が困難な場合に、東洋医学的な治療が奏効することもあります。上記した脊髄刺激療法は、難治性の疼痛疾患だけでなく、血行障害(閉塞性動脈硬化症やパージャー病など)に著効することがあります。

痛み以外の疾患では、顔面神経麻痺の重症度判定や治療に力を入れています。電気生理学的検査による予後判定や重症度診断を行い、麻痺が中等度・高度の症例に対して、積極的に表情筋ストレッチを施行しています。



2 診療実績集(2018年度実績)

- ① ペインクリニック
初診患者数(延数).....370人
再診患者数(延数).....7,676人
- ② 診療の実績



■ 星状神経節ブロック(頸椎症、顔面神経麻痺などに適応)1,336件
■ 硬膜外ブロック(腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアなどの腰下肢痛に適応)1,308件
■ 超音波ガイド下ブロック(帯状疱疹関連痛、頭痛、顔面痛などに適応)172件
■ 透視ガイド下ブロック(腰部脊柱管狭窄症、頸椎症、帯状疱疹関連痛など難治性の痛みに適応)169件

《手術室》



睡眠医療センター

センター長



講師
安達 太郎
Taro Adachi
専門：睡眠時無呼吸症候群

対象疾患：睡眠時無呼吸症候群、過眠症(ナルコレプシーなど)、むずむず脚症候群、概日リズム睡眠障害、睡眠時随伴症(REM睡眠行動障害など)



1 特徴的な診療領域

睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome; SAS)は健康テレビ番組などで特集されることが多くなり治療をうける人が増えてきましたが、それでも未治療の患者数は現在診断されている数の5倍にあたる300万人も存在すると考えられています。
昭和大学病院では今まで各診療科それぞれでSASの検査・治療にあたってきましたが、より専門性の高い診療を行うことを目的に、2018年4月、昭和大学病院附属東病院に睡眠医療センターを設立しました。
睡眠医療センターでは**呼吸器内科、循環器内科**が一体となり窓口となり日本睡眠学会の専門医、認定検査技師が**睡眠外来、終夜睡眠ポリグラフ(F polysomnography; PSG)の入院検査を月曜日から土曜日まで毎日**行っています。2019年4月よりPSG入院病床が1床から2床に増床となり、検査までの待ち時間が大幅に短縮されました。また必要に応じて

耳鼻咽喉科、歯科と協力しながら総合的に治療をさせていただきます。持続陽圧呼吸療法などの治療は長期間行う必要が高いため、地域連携をしっかり行いながら包括的に治療していきます。

SASだけではなく過眠症(ナルコレプシーなど)、むずむず脚症候群、概日リズム睡眠障害、睡眠時随伴症などの疾患も精神科、神経内科、小児科等と連携し治療をさせていただきます。

それぞれの専門的知識を持ったスペシャリストが一つにまとまって治療にあたる、センターとしてふさわしい医療を提供してまいります。

2 診療実績集(2018年度実績)

- ① 外来患者数(延数).....3,505人
- ② 入院患者数(実数).....236人

昭和大学病院

(2019年8月1日現在)

呼吸器・アレルギー内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
相良 博典	教授・診療科長	獨協医科大学/昭和62年	喘息、COPD、免疫学的呼吸器疾患、臨床アレルギー学、関節リウマチ	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・内科指導医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医・日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医・日本感染症学会ICD(Infection Control Doctor)・日本がん治療認定医機構がん治療認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医、日本リウマチ財団登録医、日本老年医学会老年医学専門医・指導医、日本医師会認定産業医、日本禁煙学会禁煙専門医、日本静脈経腸栄養学会TNT(Total Nutritional Therapy)認定医、難病指定医、15条指定医、平成25年度大学教育者のためのワークショップ参加、平成15年度獨協医科大学病院臨床研修指導医養成講習会
大森 亨	准教授	昭和大学/昭和62年	呼吸器一般、腫瘍分子生物学	
大西 司	准教授/豊洲クリニック予防医学センター	昭和大学/昭和62年	COPD、感染症	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・内科指導医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医・日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医・日本感染症学会ICD(Infection Control Doctor)・日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医認定医、日本体育協会スポーツドクター認定医、難病指定医、15条指定医、平成16年度第1回昭和大学臨床研修指導医講習会
横江 琢也	准教授/藤が丘病院	昭和大学/平成7年	SAS	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・内科指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医、日本睡眠学会認定医、難病指定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、15条指定医
田中 明彦	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成9年	喘息、COPD、呼吸器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・内科指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医、難病指定医、平成21年度第7回昭和大学臨床研修指導医講習会、平成26年度第20回教育者のためのワークショップ参加、平成29年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、15条指定医、平成29年度第44回共用試験医学系OSCE評価者認定講習会修了
山岡 利光	兼任講師/先端がん治療研究所准教授	昭和大学/平成10年		日本内科学会認定医
白井 崇生	兼任講師	昭和大学/平成12年	肺がん	日本内科学会認定内科医・日本呼吸器学会呼吸器専門医・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医
鈴木 慎太郎	講師	昭和大学/平成13年	喘息、食物アレルギー、呼吸器内科	日本内科学会認定内科医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本結核学会結核、抗酸菌症認定医、専門医、日本医師会認定産業医、認定健康スポーツ医、日本臨床栄養学会臨床栄養師、品川区呼吸機能障害診断指定医、厚生労働省医師の臨床研修に係る指導医講習会修了、死体解剖保存法、死体解剖資格、日本臨床栄養学会NPNサブライセンスアドバイザー、日本アロマセラピー学会JSA基礎認定アロマセラピー学会認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医、15条指定医、平成25年度第15回昭和大学臨床研修指導医講習会
安藤 浩一	講師/歯科病院内科クリニック	昭和大学/平成13年	肺がん	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医、日本感染症学会ICD(Infection Control Doctor)・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、難病指定医、15条指定医
楠本 社二郎	講師	昭和大学/平成15年	肺がん	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医、平成28年度第22回昭和大学臨床研修指導医講習会
山本 真弓	講師	昭和大学/平成15年	喘息	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・日本アレルギー学会アレルギー専門医・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、難病指定医、平成26年度第17回昭和大学臨床研修指導医講習会、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、15条指定医
渡部 良雄	講師(睡眠医療センター)	昭和大学/平成15年	SAS	日本内科学会認定内科医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、日本睡眠学会 睡眠医療専門医、難病指定医、15条指定医
大田 進	助教	昭和大学/平成16年	喘息	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、平成29年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医、15条指定医、平成29年度第23回昭和大学臨床研修指導医講習会
本間 哲也	助教	昭和大学/平成16年	喘息	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、日本感染症学会感染症専門医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医、平成28年度第21回昭和大学臨床研修指導医講習会
鈴木 孔子	兼任講師	埼玉医科大学/平成17年	肺がん	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、肺がんCT検診認定医、日本医師会認定産業医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医
岸野 康成	助教	昭和大学/平成19年	肺がん	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医
井上 英樹	助教	京都大学/平成20年		日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・呼吸器学会専門医
山口 宗大	兼任講師	帝京大学/平成20年	喘息	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、平成29年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
水間 結子	非常勤臨床女性医師	昭和大学/平成22年		日本内科学会認定内科医、呼吸器学会専門医
神野 恵美	助教	昭和大学/平成23年		日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、呼吸器学会専門医
平井 邦朗	助教	昭和大学/平成23年		日本内科学会認定内科医、呼吸器学会専門医

概要

昭和大学病院 診療科案内

各センター案内

睡眠医療センター

昭和大学所属医師一覧

昭和大学所属医師一覧

呼吸器・アレルギー内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
宮田 祐人	助教	帝京大学/平成23年		日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、難病指定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会終了
木村 友之	助教	東海大学/平成24年		日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、肺がんCT検査認定機構認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会終了
眞鍋 亮	助教	昭和大学/平成24年		日本内科学会認定内科医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会終了
伊田 隆	助教	昭和大学/平成24年		日本内科学会認定内科医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会終了

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
森原 直太	昭和大学/平成24年	松永 智宏	山形大学/平成27年	菅沼 宏充	昭和大学/平成29年
福田 陽佑(出向中)	昭和大学/平成24年	三國 肇子(出向中)	昭和大学/平成27年	山本 成則	聖マリアンナ医科大学/平成29年
内田 嘉隆	昭和大学/平成25年	河原 朋子(出向中)	昭和大学/平成27年	佐藤 裕基	昭和大学/平成29年
藤原 明子(出向中)	昭和大学/平成25年	金子 佳右(出向中)	昭和大学/平成28年	秋本 佳穂	昭和大学/平成29年
佐藤 春奈	東邦大学/平成26年	江波戸 貴哉	昭和大学/平成29年		
宇野 知輝	昭和大学/平成26年	賀島 純佳	昭和大学/平成29年		

呼吸器外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
門倉 光隆	教授/北部病院院長	昭和大学/昭和55年	外科学、呼吸器外科	日本胸部外科学会指導医(修練責任者)、同学会関東甲信越地方会幹事、日本外科学会専門医、指導医(指導責任者)、日本がん治療認定医機構がん治療認定教育医、呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医(基幹施設修練責任者)、日本呼吸器外科学会評議員、指導医、日本肺癌学会評議員、同学会関東支部会幹事、日本呼吸器内視鏡学会評議員、指導医、同学会関東支部会幹事、日本内視鏡外科学会評議員、日本気胸、嚥食性肺疾患学常任理事、同学会事務局代表、日本臨床外科学会評議員、日本気管食道科学会専門医、日本癌学会会員、日本癌治療学会会員、肺外科研究会世話人、身体障害者指定医(呼吸器機能障害)、The International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC) Member、World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (WABIP) Member 他
武井 秀史	教授・診療科長	浜松医科大学/平成5年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会専門医、指導医、日本胸部外科学会指導医、呼吸器外科専門医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、日本呼吸器外科学会評議員、日本肺癌学会評議員、日本呼吸器内視鏡学会評議員、日本気胸、嚥食性肺疾患学理事、The International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC) Member、European Society of Thoracic Surgeons (ESTS) Member 他
鈴木 隆	教授	慶応義塾大学/昭和50年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会専門医、日本胸部外科学会指導医、日本呼吸器外科学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、ICD(インフェクションコントロールクター)、肺癌CT検査認定医、日本内視鏡外科学会評議員、The International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC) Member、World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (WABIP) Member 他
山本 滋	准教授	昭和大学/平成元年	外科学、呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、日本外科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、日本内視鏡外科学会評議員、日本気胸、嚥食性肺疾患学評議員、肺がんCT検査認定医、身体障害者指定医(呼吸器機能障害)、日本胸部外科学会正会員、日本臨床外科学会会員、日本肺癌学会会員、The International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC) Member 他
片岡 大輔	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成5年	外科学、呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医、日本胸部外科学会指導医、日本呼吸器外科学会指導医、日本外科学会専門医、指導医、日本肺癌学会会員、日本内視鏡外科学会会員、日本呼吸器内視鏡学会会員、日本臨床外科学会会員、日本医療機器学会会員 他
遠藤 哲哉	講師	昭和大学/平成15年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会指導医
植松 秀護	講師	昭和大学/平成16年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会外科学専門医、日本呼吸器外科学会専門医、がん治療認定医、日本胸部外科学会会員、日本呼吸器学会会員、日本呼吸器内視鏡学会会員、日本肺癌学会会員、日本臨床外科学会会員、日本内視鏡外科学会会員、日本気胸、嚥食性肺疾患学会員、International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC) Member
南方 孝夫	助教	昭和大学/平成23年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会会員、日本胸部外科学会会員、日本呼吸器外科学会会員、日本呼吸器内視鏡学会会員、日本肺癌学会会員、日本内視鏡外科学会会員、日本臨床外科学会会員、日本気胸、嚥食性肺疾患学会員
新谷 裕美子	助教	聖マリアンナ医科大学/平成26年	外科学、呼吸器外科	日本外科学会会員、日本胸部外科学会会員、日本呼吸器外科学会会員、日本呼吸器内視鏡学会会員、日本肺癌学会会員、日本気胸、嚥食性肺疾患学会員

消化器内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
吉田 仁	教授・診療科長	昭和大学/昭和61年	腫瘍、胆道疾患(膵炎、膵癌、胆道炎)	日本内科学会:認定内科医、指導医、日本消化器病学会:専門医、指導医、関東支部会評議員、財団評議員、ICD-11 検討委員会ワーキンググループ委員、日本消化器内視鏡学会:専門医、指導医、関東支部評議員、社団評議員、用語委員会委員、日本胆道学会:認定指導医、評議員、財務委員会委員、社会保険審査委員会委員、日本高齢消化器病学会:評議員、日本膵臓学会:自己免疫性膵炎委員会委員、日本医師会認定産業医
米山 啓一郎	兼任教授	昭和大学/昭和54年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、指導医、日本膵臓学会:専門医、指導医
田中 滋城	客員教授	昭和大学/昭和55年	胆道疾患(膵炎、膵癌)	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、指導医、日本消化器内視鏡学会:専門医
片桐 教	准教授	昭和大学/平成11年	消化管(内視鏡治療)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本大腸検査学会:評議員
新川 淳一	兼任講師	昭和大学/昭和58年	消化器全般	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、指導医、学会評議員、関東支部会評議員、日本消化器内視鏡学会:専門医、指導医、日本職業、災害医学学会:海外勤務健康管理指導者、日本医師会認定健康スポート医、産業医
竹内 義明	兼任講師	昭和大学/昭和63年	消化管(炎症性腸疾患)	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、指導医、関東支部会評議員、日本消化器内視鏡学会:専門医
松村 卓哉	兼任講師	昭和大学/平成7年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医
坂本 理	講師	昭和大学/平成14年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、指導医、日本消化器病学会:専門医、指導医、関東支部会評議員、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医、指導医、東部会評議員
野本 朋宏	助教	昭和大学/平成14年	腫瘍、胆道疾患	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医
打越 学	講師	昭和大学/平成15年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、指導医、日本消化器病学会:専門医、関東支部会評議員、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医、指導医
久保田祐太郎	兼任講師(腫瘍内科)	昭和大学/平成15年	消化管(癌化学療法)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、指導医、日本臨床腫瘍学会:がん薬物療法専門医、日本がん治療認定医機構:がん治療認定医
新井 勝人	兼任講師	昭和大学/平成15年	消化管(炎症性腸疾患)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、指導医
下岡 祐	講師	昭和大学/平成16年	肝疾患(肝腫瘍・局所治療)	日本内科学会:認定内科医、指導医、日本消化器病学会:専門医、日本膵臓学会:専門医、暫定指導医
魚住 祥二郎	講師、診療科長補佐	昭和大学/平成17年	肝疾患(門脈圧亢進症)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、指導医、日本消化器病学会:専門医、関東支部会評議員、日本消化器内視鏡学会:専門医、指導医、日本膵臓学会:専門医、暫定指導医、日本門脈圧亢進症学会:評議員、技術認定医(内視鏡の治療領域)
東條 正幸	助教	昭和大学/平成18年	消化管(内視鏡)	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医
市川 雪	助教	信州大学/平成18年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、日本膵臓学会:専門医
梶原 教	助教	昭和大学/平成20年	肝疾患(肝腫瘍・局所治療)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医
紺田 健一	助教	昭和大学/平成20年	消化管疾患(内視鏡)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本がん治療認定医機構:がん治療認定医、日本消化管学会:胃腸科専門医
荒井 潤	助教	昭和大学/平成20年	肝疾患	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医、日本膵臓学会:専門医、日本がん治療認定医機構:がん治療認定医
居軒 和也	助教	徳島大学/平成20年	消化管疾患(内視鏡)	日本内科学会:認定内科医、総合内科専門医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医
石井 優	助教	昭和大学/平成22年	腫瘍、胆道疾患	日本内科学会:認定内科医、日本消化器病学会:専門医、日本消化器内視鏡学会:専門医
山口 明香	非常勤臨床女性医師	昭和大学/平成22年	消化管(炎症性腸疾患)	日本内科学会:認定内科医、日本膵臓学会:専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
柳澤 文人	昭和大学/平成23年	菊池 一生	昭和大学/平成26年	西原 成俊	昭和大学/平成28年
三井 佑太	昭和大学/平成24年	中谷 真也	愛知医科大学/平成26年	野口 敏宏	昭和大学/平成29年
牛嶋 俊彦	昭和大学/平成24年	鈴木 統大	昭和大学/平成27年	中谷 深	昭和大学/平成29年
中島 陽子	昭和大学/平成25年	宇佐美 智乃	愛知医科大学/平成27年	中山 颯皓	昭和大学/平成29年
杉浦 育也	昭和大学/平成25年	及川 脩	山梨大学/平成27年	樋口 健佑	昭和大学/平成29年
田代 知映	昭和大学/平成25年	音山 裕美	聖マリアンナ医科大学/平成28年		

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
山村 冬彦	准教授・内視鏡センター長	昭和大学/平成5年	消化管(内視鏡治療)	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本消化器病学会専門医、指導医、日本消化管学会 胃腸科専門医、指導医、日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医、日本消化器内視鏡学会 評議員、日本大腸検査学会 評議員、日本消化器内視鏡学会 昭和大学病院 指導施設責任者、日本消化管学会 昭和大学病院 指導施設責任者、日本カプセル内視鏡学会 所属

(2019年8月1日現在)

食道外科/消化器・一般外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
村上 雅彦	教授・食道外科診療科長	昭和大学/昭和56年	食道・胃の外科、胸腔鏡外科・腹腔鏡外科	日本外科学会指導医(代議員)、日本消化器外科学会指導医、日本臨床外科学会(評議員・編集委員)、日本食道学会食道科認定医(評議員)、日本大腸肛門病学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本腹部救急医学会(評議員)、日本消化器内視鏡学会指導医(評議員)、日本内視鏡外科学会(評議員)、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵外科学会(評議員)、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本外科系連合学会(評議員)、日本外科代謝栄養学会(評議員)、消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医、日本腹部救急医学会教育医、臨床研修指導医
青木 武士	准教授・消化器・一般外科診療科長	昭和大学/平成5年	肝・胆・膵の外科	日本外科学会指導医、日本肝臓学会委嘱指導医、日本消化器外科学会指導医・評議員、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本肝胆膵外科学会(評議員)、日本再生医療学会(評議員)、日本低温医学会理事・組織分科会科長、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医、肝臓内視鏡外科研究会世話人、肝臓治療ナビゲーション研究会世話人、超音波ドップラー研究会常任幹事、東京肝臓内視鏡外科研究会世話人、城南・神奈川腹部超音波画像診断研究会幹事、TKB(東京ベイイリア肝胆膵外科)研究会世話人、TTS(東邦/東医/昭和)肝胆膵アカデミックセミナー幹事、IASGO international medical faculty, International laparoscopic liver society 学術委員
吉武 理	講師	群馬大学/平成2年	腎外科・移植	日本外科学会指導医、日本透析学会指導医、日本臨床腎移植学会専門医・腎移植認定医、日本移植学会移植認定医
大塚 精司	講師	昭和大学/平成8年	食道・胃の外科、胸腔鏡外科・腹腔鏡外科	日本外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本内視鏡外科学会(評議員)、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本食道学会食道科認定医、食道外科専門医(評議員)、日本腹部救急医学会(評議員)、日本臨床外科学会(評議員)、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医
藤森 聡	講師	昭和大学/平成8年	肝・胆・膵の外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会専門医、消化器がん外科治療認定医、集中治療学会ICD
山崎 公靖	講師	昭和大学/平成9年	食道・胃の外科	日本外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医
五藤 哲	講師	昭和大学/平成10年	食道・胃の外科	日本外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本食道学会食道科認定医・食道外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本消化器外科学会指導医、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医
古泉 友丈	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成11年	肝・胆・膵の外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本低温医学会評議員、臨床研修指導医
草野 智一	講師	昭和大学/平成13年	肝・胆・膵の外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本肝臓学会専門医、消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医、臨床研修指導医
松田 和広	講師	昭和大学/平成14年	肝・胆・膵の外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医
有吉 朋丈	講師	昭和大学/平成15年	食道・胃の外科	日本外科学会専門医、日本食道学会食道科認定医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、消化器がん外科治療認定医、臨床研修指導医
山下 剛史	講師	昭和大学/平成17年	食道・胃の外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本食道学会食道科認定医、消化器がん外科治療認定医
渡邊 良平	助教	東邦大学/平成14年	食道・胃の外科	臨床研修指導医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、消化器がん外科治療認定医、日本臨床外科学会(評議員)

循環器内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
新家 俊郎	教授・診療科長	神戸大学/平成4年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患、弁膜症、心不全、肺高血圧症、成人先天性心疾患	日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本心臓病学会特別正会員
下川 映一	教授/保健医療学部	昭和大学/昭和57年		日本循環器学会専門医、日本内科学会指導医
阿久津 靖	教授/鳥山病院	昭和大学/昭和61年		日本循環器学会専門医、核医学専門医、PET・CT専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
木庭 新治	教授	昭和大学/昭和63年	心臓リハビリテーション、脂質異常症	日本循環器学会専門医、心臓リハビリテーション指導士、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
藤田 良範	客員教授	昭和大学/昭和43年		日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
小林 洋一	特任教授	昭和大学/昭和51年		日本循環器学会専門医、不整脈専門医、植込型除細動器認定医、心臓再同期療法指定医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
濱崎 裕司	客員教授	昭和大学/平成3年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
茅野 博行	講師(研修指導出張中)	昭和大学/平成5年	心臓弁膜症、心不全	日本循環器学会専門医、日本超音波医学会認定専門医・指導医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本心臓病学会特別正会員
河村 光晴	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成7年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、不整脈専門医、植込型除細動器認定医、心臓再同期療法指定医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
安達 太郎	講師	昭和大学/平成7年	睡眠時無呼吸症候群	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本睡眠学会睡眠医療認定医、日本老年医学会認定老年病専門医、日本抗加齢医学会専門医
松本 英成	講師	神戸大学/平成6年	虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本心血管インターベンション治療学会専門医
渡辺 則和	講師(研修指導出張中)	昭和大学/平成9年		日本循環器学会専門医、不整脈専門医、植込型除細動器認定医、心臓再同期療法指定医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
村上 幹高	兼任講師	昭和大学/昭和57年		日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医
大塚 敏彦	兼任講師	昭和大学/昭和60年		日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医
牛山 元美	非常勤医師	高知医科大学/昭和61年		日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
山中 英之	兼任講師	昭和大学/平成元年		日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医
土至田 勉	講師	昭和大学/平成10年	心臓弁膜症、心不全	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本超音波医学会超音波専門医・指導医、日本病態栄養学会病態栄養専門医・専門医研修指導医
正司 真	講師	昭和大学/平成11年	心臓リハビリテーション、脂質異常症	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本リハビリテーション指導士、動脈硬化化学会専門医
児玉 雄介	講師	昭和大学/平成12年	虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医
角田 史敬	講師/北部病院	昭和大学/平成12年	心臓リハビリテーション、脂質異常症	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医
小貫 隆也	講師	埼玉医科大学/平成14年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、不整脈専門医
伊藤 啓之	講師	昭和大学/平成14年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、不整脈専門医
横田 裕哉	講師/藤が丘病院	昭和大学/平成15年	心臓リハビリテーション、脂質異常症	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本リハビリテーション指導士、動脈硬化化学会専門医
塚本 茂人	講師	昭和大学/平成17年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患	日本内科学会認定医、日本心血管インターベンション治療学会認定医
望月 泰秀	講師	関西医科大学/平成17年	心臓弁膜症、心不全	日本循環器学会専門医、日本超音波医学会認定専門医、日本内科学会指導医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会特別正会員、日本脈管学会専門医、日本心エコー図学会SHD認定医
辻田 裕昭	講師	昭和大学/平成18年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
近藤 謙太	講師	昭和大学/平成18年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
山本 明和	講師	昭和大学/平成18年	心血管カテーテル治療、虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医
金子 勇一	講師	昭和大学/平成17年	虚血性心疾患	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会認定教育施設指導医、日本核医学学会認定核医学専門医、PET核医学認定医
福岡 裕人	助教/江東豊洲病院	昭和大学/平成19年	心臓弁膜症、心不全	日本内科学会認定医
大沼 善正	助教(学外研修中)	昭和大学/平成19年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、不整脈専門医
宗次 裕美	助教	昭和大学/平成19年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、不整脈専門医
川崎 志郎	助教	昭和大学/平成19年	不整脈、心不全、失神	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、不整脈専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
大西 克美	昭和大学/平成20年	野村 康介	昭和大学/平成25年
千葉 雄太	昭和大学/平成21年	谷津 宏樹	昭和大学/平成25年
猪口 孝一郎	昭和大学/平成23年	太田 礼	昭和大学/平成25年
関本 輝雄	昭和大学/平成23年	荒井 研	日本大学/平成22年
越智 明徳	昭和大学/平成24年	渡関 俊彦	昭和大学/平成26年
小川 亮	昭和大学/平成24年	小倉 邦弘	昭和大学/平成26年
酒井 孝志郎	昭和大学/平成24年	佐藤 里沙	昭和大学/平成26年
中村 友哉	昭和大学/平成24年	吉川 浩介	昭和大学/平成26年
小崎 遼太	愛知医科大学/平成24年	正木 亮太	宮崎大学/平成26年
		医師名	卒業大学/卒業年
		田中 秀彰	昭和大学/平成27年
		豊崎 瑠士	昭和大学/平成27年
		新井 修平	昭和大学/平成28年
		佐藤 俊弥	昭和大学/平成28年
		鎌矢 るみ	昭和大学/平成28年
		新井 希聖	昭和大学/平成29年
		酒井 隆郎	昭和大学/平成29年
		千野 沙織	昭和大学/平成29年
		杉山 拓士	岩手医科大学/平成29年

概要

昭和大学病院
診療科案内

各センター案内

昭和大学病院附属東病院
診療科案内

昭和大学所属医師一覧

(2019年8月1日現在)

小児科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
水野 克己	教授・診療科長	昭和大学/昭和62年	新生児	日本小児科学会専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医、指導医、ICD、国際認定ラクテーションコンサルタント
加藤 光広	教授	山形大学/昭和63年	神経	日本小児科学会専門医、小児神経専門医、てんかん専門臨床遺伝専門医
田中 大介	教授	昭和大学/平成2年	肥満・低身長・起立性調節障害	日本小児科学会小児科指導医・専門医、日本肥満学会 肥満症指導医・専門医、日本医師会 認定産薬医
磯山 恵一	客員教授	昭和大学/昭和53年	血液	日本小児科学会専門医、日本小児血液がん学会暫定指導医、日本血液学会専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医
田角 勝	客員教授	昭和大学/昭和53年	神経	日本小児科学会専門医、小児神経専門医
土橋 一重	客員教授	山梨大学/昭和61年	内分泌	日本小児科学会専門医、日本内分泌学会指導医、日本肥満学会肥満症指導医、日本小児栄養消化器肝臓学会認定医、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医
今井 孝成	教授	東京慈恵会医科大学/平成8年	アレルギー	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医
神谷 太郎	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成8年	アレルギー	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医
中村 俊紀	講師	昭和大学/平成14年	アレルギー	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医
中野 有也	講師	昭和大学/平成15年	新生児	日本小児科学会専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医、ICD
永原 敬子	講師	昭和大学/平成19年	内分泌	日本小児科学会専門医、日本肥満学会認定肥満症専門医
北條 彰	講師	昭和大学/平成19年	神経	日本小児科学会専門医
岡田 祐樹	講師	自治医科大学/平成20年	アレルギー	日本小児科学会専門医
小村 花柄	講師	昭和大学/平成21年	神経	日本小児科学会専門医
古荘 純一	併任講師(精神神経科)	昭和大学/昭和59年	小児精神・小児神経	小児科専門医、てんかん学会指導医・専門医、小児神経科専門医、日本児童青年精神医学会認定医、日本小児精神神経学会認定医
佐藤 弘之	兼任講師	昭和大学/平成2年	神経	日本小児科学会専門医
相澤 まどか	兼任講師	昭和大学/平成8年	新生児	日本小児科学会専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医
加古 結子	助教	愛媛大学/平成元年	遺伝学	日本小児科学会専門医、臨床遺伝専門医
長谷部 義幸	助教	昭和大学/平成18年	新生児	日本小児科学会専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医
城所 勲太	助教	昭和大学/平成20年	新生児	日本小児科学会専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医
寺田 知正	助教	徳島大学/平成20年	新生児	日本小児科学会専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
玉井 哲郎	昭和大学/平成22年	杉下 友美子	昭和大学/平成26年	鮫島 舞	群馬大学/平成29年
浅井 秀幸	昭和大学/平成24年	國上 千絵	東京女子医科大学/平成26年	石川 琢也	昭和大学/平成24年
越智 彩子	帝京大学/平成25年	及川 沈輔	昭和大学/平成28年	山下 恒聖	日本大学/平成29年
水越 曜子	東海大学/平成25年	木村 太郎	昭和大学/平成28年	山本 和也	昭和大学/平成29年

小児外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
渡井 有	教授・診療科長	昭和大学/平成元年	小児外科一般、新生児外科、小児腹腔鏡下手術、ヒルシュスプルング病(類縁疾患を含む)	日本小児外科学会認定医・専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本周産期新生児学会新生児認定外科医、日本小児救急学会認定医
土岐 彰	客員教授	岡山大学/昭和53年	小児外科一般、新生児、胆道拡張症、直腸肛門奇形、漏斗胸、泌尿器疾患、栄養障害など	日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本胸部外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本静脈経腸栄養学会指導医
千葉 正博	准教授	昭和大学/平成元年	小児外科一般、新生児、鏡視下手術小児泌尿器、短腸症候群	日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本静脈経腸栄養学会指導医
中山 智理	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成17年	小児外科一般、新生児	日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医
大澤 俊亮	助教	昭和大学/平成22年	小児外科一般、新生児	日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医(2019年申請中)

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
安藤 晋介	昭和大学/平成22年	鳴釜 ゆり子	横浜市立大/平成29年

脳神経外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
水谷 徹	教授・診療科長	東京大学/昭和59年	脳血管障害、脳動脈瘤クリッピング術、頸部頸動脈内膜剥離術、バイパス術、解離性脳動脈瘤、脳血管病変、良性腫瘍(聴神経腫瘍、髄膜腫ほか)	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術指導医
清水 克悦	教授	慶應義塾大学/昭和62年	顔面けいれん、三叉神経痛の手術、脳腫瘍(髄膜腫、聴神経鞘腫ほか)、頭蓋底腫瘍など	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医
杉山 達也	准教授	埼玉医科大学/平成9年	脳動脈瘤クリッピング術、頸部頸動脈内膜剥離術、バイパス術、脳虚血性脳梗塞の基礎研究	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術指導医
谷岡 大輔	准教授・診療科長補佐	昭和大学/平成10年	脳動脈瘤クリッピング術、バイパス術、解離性脳動脈瘤、脳血管病変、良性腫瘍(聴神経腫瘍、髄膜腫ほか)、小児脳神経外科、神経内視鏡手術	日本脳神経外科学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本脳卒中の外科学会技術指導医
今泉 陽一	兼任講師	昭和大学/平成9年	同脳・下垂体疾患、アクロメガリー(先端巨大症・ホルモン産生下垂体腫瘍)、内視鏡単独経鼻的腫瘍摘出術、神経内視鏡手術、脳室内腫瘍・内視鏡下血腫除去術	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医
奥村 浩隆	助教	山梨医科大学/平成12年	脳血管障害、脳動脈瘤クリッピング術、頸部頸動脈内膜剥離術、バイパス術、解離性脳動脈瘤、脳血管病変、良性腫瘍(聴神経腫瘍、髄膜腫ほか)	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医
鷺見 賢司	助教	防衛医科大学校/平成15年	脳血管内治療、脳動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳動脈瘤奇形、硬膜動脈瘤、超急性期脳梗塞再開通療法、脳血管障害	日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医
桑島 淳氏	助教	昭和大学/平成17年	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医
佐藤 洋輝	助教	新潟大学/平成18年	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医
松本 政輝	助教	岡山大学/平成19年	てんかん外科、脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医、日本てんかん学会専門医
小林 裕介	助教	昭和大学/平成21年	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
廣瀬 瑛介	昭和大学/平成22年	近 貴志	新潟大学/平成4年	東園 和也	鹿児島大学/平成29年
新井 晋太郎	秋田大学/平成22年	光榮 泰信	横浜市立大/平成28年	三鬼 侑真	北里大学/平成29年
吉山 智美	昭和大学/平成26年	長塚 大騎	北海道大学/平成29年		

救命救急科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
土肥 謙二	教授・診療科長	昭和大学/平成4年	救急・集中治療、神経救急(神経集中治療)、脳神経外科	日本救急医学会指導医・専門医、日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会認定専門医、日本高気圧・潜水医学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター、東京 DMAT 隊員、日本 DMAT 隊員、東京消防庁救急隊指導医
森川 健太郎	講師	昭和大学/平成9年	救急・集中治療、災害・病院前救急診療	日本救急医学会専門医、日本脳神経外科学会専門医、日本集中治療医学会専門医、社会医学系専門医、日本 DMAT 隊員、東京 DMAT 隊員・インストラクター、JATEC インストラクター、NDLS インストラクター、エマルゴニアインストラクター
加藤 晶人	講師	昭和大学/平成17年	救急・集中治療	日本救急医学会専門医、日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳卒中外科専門医、東京消防庁救急隊指導医
中島 靖浩	助教	昭和大学/平成18年	救急集中治療、外傷外科、急性血液浄化	日本救急医学会救急科専門医、日本外科学会外科専門医、JATEC プロバイダー、東京 DMAT 隊員、日本 DMAT 隊員、東京消防庁救急隊指導医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
井上 元	昭和大学/平成28年	中村 元保	横浜市立大/平成29年

概要

昭和大学病院

診療科案内

各センター案内

昭和大学病院附属東病院

診療科案内

昭和大学所属医師一覧

昭和大学所属医師一覧

救急診療科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
前田 敦雄	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成16年	経皮的肺補助装置(PCPS)を用いた心肺蘇生・循環器救急・救急・集中治療全般・栄養管理	日本救急医学会専門医、日本外科学会外科専門医、日本心臓血管インターベンション学会認定医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会内科指導医、日本循環器学会専門医、脈管専門医、JATEC・MCLS・ALS・BLS・PALSプロバイダー、臨床研修指導医、弾性ストッキングコンダクター、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医、神奈川DMAT-L隊員、横浜救急医療チーム(YMAT)隊員、第3級陸上特殊無線技士
垂水 庸子	助教	昭和大学/平成13年	総合内科学、救急医学	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本救急医学会救急科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医、JMECCインストラクター、ICLSインストラクター・ディレクター
池田 圭一郎	助教	久留米大学/平成23年	総合診療学、家庭医療学	日本内科学会総合内科専門医

リウマチ・膠原病内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
井出 宏嗣	名誉教授	昭和大学/昭和40年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医
三輪 裕介	准教授	昭和大学/平成8年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医、身体障害者資格認定医、日本医師会認定産業医
金光 裕仁	兼任講師	昭和大学/平成元年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医
花岡 亮輔	兼任講師	昭和大学/平成9年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医、ICLSディレクター、JMECCインストラクター
塩澤 史隆	兼任講師	昭和大学/平成10年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医
矢嶋 宜幸	講師	昭和大学/平成11年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、身体障害者資格認定医、日本臨床疫学認定専門家
磯崎 健男	講師	昭和大学/平成14年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医、日本医師会認定産業医
若林 邦伸	助教・診療科長補佐	昭和大学/平成16年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会指導医・認定専門医、日本リウマチ財団登録医
磯島 咲子	助教(留学中)	東京慈恵会医科大学/平成16年	リウマチ・膠原病一般	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会認定専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
高橋 良	昭和大学/平成17年	小黒 奈緒	旭川医科大学/平成23年	谷口 夢子	獨協医科大学/平成25年
古原 秀和	昭和大学/平成21年	三浦 瑠子	昭和大学/平成23年	林 智樹	昭和大学/平成25年
柳井 亮	昭和大学/平成21年	羽多野 美香	山形大学/平成23年	細沼 雅弘	昭和大学/平成27年
猪狩 雄哉	北里大学/平成21年	阿部 愛里	昭和大学/平成24年	河森 一毅	昭和大学/平成29年
石井 翔	昭和大学/平成23年	西見 慎一郎	昭和大学/平成24年		

腎臓内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
本田 浩一	教授・診療科長	昭和大学/平成4年	腎疾患全般、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、血液浄化医学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本アフェレンス学会専門医、日本腎臓リハビリテーション学会腎臓リハビリテーション指導士
秋澤 忠男	客員教授	東京医科大学/昭和48年	腎臓学、特に腎不全の病態と治療、透析医学、血液浄化医学	日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェレンス学会専門医
柴田 孝則	客員教授	昭和大学/昭和54年	腎疾患全般、腎炎・ネフローゼ、慢性腎臓病	日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェレンス学会専門医
伊與田 雅之	准教授	昭和大学/平成10年	腎臓内科学一般、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
清洲 正英	講師	山形大学/平成9年	腎臓学、特に腎不全の病態と治療、ミネラル代謝異常、血液浄化医学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェレンス学会専門医
松本 啓	講師	昭和大学/平成13年	腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
和田 幸寛	講師	昭和大学/平成15年	腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェレンス学会専門医
黒木 亜紀	兼任講師	昭和大学/平成元年	腎炎、自己免疫による腎疾患	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
横地 章生	兼任講師	昭和大学/平成13年	腎臓病一般、慢性腎臓病、透析医学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医
眞田 大介	助教・診療科長補佐	昭和大学/平成16年	腎臓内科学一般、慢性腎臓病、腎代替療法(血液透析、腹膜透析)	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医・指導医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
式田 康人	大阪医科大学/平成21年	林 純一	昭和大学/平成25年	金澤 伸洋	昭和大学/平成26年
鈴木 泰平	昭和大学/平成22年	森川 友直	昭和大学/平成25年	杉山 元紀	川崎医科大学/平成27年
齋藤 友広	昭和大学/平成22年	飯田 綾那	杏林大学/平成27年		
福田 桂	昭和大学/平成24年	美馬 友紀	昭和大学/平成27年		

血液内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
中牧 剛	教授・診療科長	昭和大学/昭和56年	造血器腫瘍、HIV	日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本エイズ学会認定医
友安 茂	客員教授	昭和大学/昭和48年	貧血、造血器腫瘍、HIV	日本血液学会指導医、日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
服部 憲路	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成15年	血液疾患一般	日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会指導医、造血細胞移植認定医
柳沢 孝次	講師	筑波大学/昭和63年	造血幹細胞移植	日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会指導医
塚本 裕之	助教	昭和大学/平成22年	血液疾患一般	日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
松井 知治	富山大学/平成22年	村井 聡	昭和大学/平成26年	藤原 峻	新潟大学/平成23年
宇藤 唯	昭和大学/平成23年	阿部 真麻	昭和大学/平成26年	島田 翔太郎	昭和大学/平成27年
荒井 奈々	東海大学/平成23年	綿貫 めぐみ	昭和大学/平成26年	佐々木 陽平	昭和大学/平成27年
川口 有紀子	金沢医科大学/平成24年	中田 彩香	帝京大学/平成28年		

腫瘍内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
角田 卓也	教授・診療科長	和歌山県立医科大学/昭和62年	腫瘍免疫学	日本外科学会認定外科医、日本消化器外科学会認定医・指導医
佐々木 康嗣	客員教授	昭和大学/昭和55年	腫瘍内科学	日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本内科学会認定内科医、内科研修医指導医
吉村 清	兼任教授	山口大学/平成5年	腫瘍免疫学	日本内科学会認定内科医、専門医、指導医、日本消化器外科学会認定医・専門医、指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
鯉谷 純司	兼任教授	長崎大学/平成7年	腫瘍内科学、乳癌内科	日本内科学会認定総合内科専門医、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、日本乳癌学会認定乳癌専門医、日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医
和田 聡	兼任教授	群馬大学/平成11年	腫瘍免疫学	日本内科学会認定内科医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医・指導医
堀池 篤	准教授	香川医科大学/平成9年	腫瘍内科学	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医
瀬田 和幸	講師	秋田大学/平成12年	腫瘍内科学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
久保田祐太郎	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成15年	腫瘍内科学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医・専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、がん治療認定医
有泉 裕嗣	講師	昭和大学/平成17年	腫瘍内科学、血液内科学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医
松井 洋人	助教	山口大学/平成17年	腫瘍内科学	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医、肝胆膵外科学会評議員

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
大熊 遼太郎	昭和大学/平成27年	平澤 優弥	東海大学/平成28年	石黒 智之	昭和大学/平成29年

(2019年8月1日現在)

感染症内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
二木 芳人	教授・診療科長	川崎医科大学/昭和51年	感染症学、呼吸器病学	日本感染症学会感染症専門医、日本感染症学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器学会指導医、ICD(インフェクションコントロールドクター)、日本臨床薬理学会特別専門医
時松 一成	准教授	大分医科大学/平成2年	感染症学、呼吸器病学	日本感染症学会感染症専門医、日本感染症学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器学会指導医、ICD(インフェクションコントロールドクター)、日本医歯学連合会認定専門医、臨床薬理学会特別指導医
院岡 隆博	講師・診療科長補佐	九州大学/平成9年	感染症学	日本感染症学会感染症専門医、日本感染症学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本化学療法学会抗腫瘍化学療法指導医、ICD(インフェクションコントロールドクター)、卒後臨床研修指導医
長友 安弘	助教	宮崎医科大学/昭和63年	感染症学、呼吸器病学	日本感染症学会感染症専門医、日本感染症学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本医師会認定産業医

東洋医学科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
石野 尚吾	客員教授 (生理学講座生体制御学部門)	昭和大学/昭和41年	産婦人科、内科一般領域	日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本東洋医学会認定漢方指導医、漢方専門医
齋藤 亮生	兼任講師 (生理学講座生体制御学部門)	昭和大学/平成7年	消化器科、消化器外科、内科一般領域	日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医、日本医師会認定産業医
石野 博嗣	兼任講師 (生理学講座生体制御学部門)	埼玉医科大学/平成9年	産婦人科、内科一般領域	難病指定医、日本医師会認定産業医
堀部 有三	兼任講師 (内科学(神経内科学)部門)	昭和大学/平成12年	神経内科、内科一般領域	日本神経学会認定神経内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本東洋医学会認定漢方指導医・漢方専門医
時田 江里香	兼任講師(耳鼻咽喉科学)	昭和大学/平成19年	耳鼻咽喉科、内科一般領域	日本医師会認定産業医、日本耳鼻咽喉科学会専門医
岩波 弘明	兼任講師 (生理学講座生体制御学部門)	昭和大学/平成20年	神経内科、内科一般領域	日本内科学会認定内科医
渡辺 大士	助教 (内科学(神経内科学)部門)	昭和大学/平成23年	神経内科、内科一般領域	日本内科学会認定内科医

緩和医療科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
岡本 健一郎	教授・診療科長	昭和大学/昭和55年	緩和医療、ペインクリニック	日本緩和医療学会暫定指導医、日本麻酔科学会麻酔専門医・指導医、日本ペインクリニック学会専門医
樋口 比登実	客員教授	昭和大学/昭和53年	緩和医療、ペインクリニック	日本緩和医療学会暫定指導医、日本麻酔科学会麻酔専門医・指導医、日本ペインクリニック学会専門医
西木戸 修	准教授	聖マリアンナ医科大学/平成10年	緩和医療、ペインクリニック	日本緩和医療学会専門医、日本麻酔科学会麻酔専門医・指導医、日本ペインクリニック学会専門医、日本がん治療認定医、慢性疼痛専門医
高橋 彩子	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成8年	老年精神医学、精神療法	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本精神神経学会指導医、老年精神医学学会認定専門医

乳腺外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
中村 清吾	教授・診療科長	千葉大学/昭和57年	乳腺外科	日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、検診マンモグラフィ読影認定医
明石 定子	教授	東京大学/平成2年	乳腺外科	日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医・評議員、検診マンモグラフィ読影認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
澤田 晃暢	兼任講師	昭和大学/平成元年	乳腺外科	日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医・評議員、検診マンモグラフィ読影認定医、ICD、日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医
桑山 隆志	助教・診療科長補佐	東京医科歯科大学/平成10年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
小野田 敏尚	兼任講師	鳥根医科大学/平成11年	乳腺外科	日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳癌専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
鈴木 研也	兼任講師	昭和大学/平成12年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
大山 宗士	特別研究生	鹿児島大学/平成13年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
森 美樹	兼任講師	鳥取医科大学/平成13年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医、検診マンモグラフィ読影認定医
井手 佳美	講師	浜松医科大学/平成14年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
増田 結子	講師	高知大学/平成15年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
垂野 香苗	助教	琉球大学/平成15年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医
橋本 梨佳子	助教	宮崎大学/平成16年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・検診マンモグラフィ読影認定医
繁永 礼奈	兼任講師	防衛医科大学校/平成16年	乳腺外科	日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌専門医・検診マンモグラフィ読影認定医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
池田 繁	日本医科大学/平成20年	松谷 彬子	日本大学/平成24年	松柳 美咲	昭和大学/平成27年
金田 陽子	福井大学/平成20年	阿多 亜里沙	香川大学/平成25年	永田 彩	獨協医科大学/平成27年
小杉 奈津子	東京医科大学/平成21年	中山 紗由香	昭和大学/平成25年	津久井 理加	筑波大学/平成29年
吉沢 あゆは	東京医科大学/平成21年	松永 有紀	大分大学/平成26年	鶴我 朝子	昭和大学/平成29年
殿内 祐美	東京女子医科大学/平成24年	酒井 春奈	愛知医科大学/平成26年		

リハビリテーション科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
笠井 史人	准教授・診療科長	昭和大学/平成2年	リハ医学全般、脊髄損傷、内部障害(呼吸器)	日本リハビリテーション医学会専門医、摂食嚥下リハビリテーション認定士、技師器具適応判定医、日本内科学会認定内科医、身体障害者福祉法第15条指定医師、ICD
依田 光正	准教授/江東豊洲病院	昭和大学/平成3年	リハ医学全般、嚥下障害	日本リハビリテーション医学会専門医、摂食嚥下リハビリテーション認定士、技師器具適応判定医、日本内科学会認定内科医、身体障害者福祉法第15条指定医師
眞野 英寿	兼任講師	昭和大学/平成2年	リハ医学全般、小児リハ	日本リハビリテーション医学会専門医、技師器具適応判定医、身体障害者福祉法第15条指定医師
田中 雅子	助教・診療科長補佐	日本大学/平成18年	リハ医学全般	日本リハビリテーション医学会専門医、身体障害者福祉法第15条指定医師

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
杉山 智子	鳥取大学/平成23年	和田 義敬	昭和大学/平成26年
		飯田 守	昭和大学/平成27年

形成外科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
黒木 知明	准教授・診療科長	佐賀医科大学/平成2年	再建外科、顔面外傷、一般形成外科	日本形成外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、皮膚腫瘍外科分野指導医、小児形成外科分野指導医、乳房再建エキスパンダー・インプラント責任医師、臨床研修指導医
宮邊 健太	助教・診療科長補佐	昭和大学/平成21年	一般形成外科	日本形成外科学会専門医、乳房再建エキスパンダー・インプラント責任医師、臨床研修指導医
青木 絢子	助教	山梨大学/平成22年	一般形成外科	乳房再建エキスパンダー・インプラント責任医師

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
渡辺 太郎	杏林大学/平成21年	佐々木 淑恵	東京女子医科大学/平成26年
渡井 彩	金沢医科大学/平成24年	養原 沙和	神戸大学/平成27年
		中原 真理	熊本大学/平成28年

昭和大学所属医師一覧

耳鼻咽喉科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
小林 一	教授・診療科長	昭和大学/昭和57年	中耳疾患、難聴、平衡障害(めまい)	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医、騒音性難聴担当医
杉内 智子	客員教授	昭和大学/昭和55年	難聴、補聴器	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医、騒音性難聴担当医
池田 賢一郎	講師・診療科長補佐	埼玉医科大学/平成17年	頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
榎橋 幸民	講師	聖マリアンナ医科大学/平成18年	頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
藤居 直和	講師	昭和大学/平成18年	中耳疾患、難聴	日本耳鼻咽喉科学会専門医
江川 峻哉	講師	昭和大学/平成19年	頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、補聴器適合判定医
平野 康次郎	講師	昭和大学/平成19年	鼻副鼻腔疾患、嗅覚障害	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器適合判定医
浜崎 泰佑	講師	昭和大学/平成20年	耳鼻咽喉科一般、中耳疾患、難聴	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器適合判定医
洲崎 勲夫	講師	昭和大学/平成21年	耳鼻咽喉科一般	日本耳鼻咽喉科学会専門医
徳留 卓俊	講師	昭和大学/平成21年	耳鼻咽喉科一般	日本耳鼻咽喉科学会専門医
齋田 晴仁	兼任講師	昭和大学/昭和57年	音声障害、喉頭疾患	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医
小林 毅	兼任講師	信州大学/昭和60年	平衡障害(めまい)	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医
大氣 誠道	兼任講師	昭和大学/昭和61年	難聴、補聴器、頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医
朝比奈 紀彦	兼任講師	昭和大学/昭和62年	鼻副鼻腔疾患、嗅覚障害	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医、騒音性難聴担当医
鈴木 吾登武	兼任講師	昭和大学/昭和63年	喉頭疾患、気管食道疾患	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医
鈴木 恵美子	兼任講師	昭和大学/平成2年	嗅覚障害	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医
杉尾 雄一郎	兼任講師	昭和大学/平成3年	中耳疾患、平衡障害(めまい)	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器適合判定医、めまい相談医、騒音性難聴担当医
内田 淳	兼任講師	昭和大学/平成6年	嗅覚障害、頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医
工藤 隆男	兼任講師	昭和大学/平成6年	頭頸部腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器適合判定医
伊藤 純一	兼任講師	昭和大学/平成7年	アレルギー疾患	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医
木村 百合香	兼任講師	東京医科大学/平成10年	中耳疾患、嚥下障害	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医
渡邊 莊	兼任講師	筑波大学/平成12年	鼻副鼻腔疾患、アレルギー疾患	日本耳鼻咽喉科学会専門医
時田 江里香	兼任講師	昭和大学/平成19年	耳鼻咽喉科一般、中耳疾患	日本耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器適合判定医
仲島 孝昌	非常勤医師	北里大学/平成19年	平衡障害(めまい)	日本耳鼻咽喉科学会専門医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
粟倉 秀幸	昭和大学/平成23年	甘利 泰伸	昭和大学/平成28年	工藤 建人	東邦大学/平成29年
相馬 裕太	昭和大学/平成24年	新井 佐和	昭和大学/平成28年	矢野 真衣	昭和大学/平成29年
成川 陽一郎	金沢大学/平成27年	丸山 祐樹	東邦大学/平成28年		

頭頸部腫瘍センター

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
嶋根 俊和	兼任教授/歯科病院 頭頸部腫瘍センター長	昭和大学/平成8年	頭頸部腫瘍、頸部神経腫瘍	日本耳鼻咽喉科学会専門医、指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本頭頸部外科学会頭頸部がん指導医、専門医、日本気管食道科学会専門医
勝田 秀行	准教授/歯科病院 診療科長補佐	東京医科大学/平成12年	口腔癌	日本口腔外科学会専門医、指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)

皮膚科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
米本 博彦	教授・診療科長	昭和大学/昭和55年	全身と皮膚・重症薬疹、乾癬	日本皮膚科学会認定専門医
渡辺 秀晃	教授	昭和大学/平成7年	重症薬疹、乾癬	日本皮膚科学会認定専門医
北見 由季	准教授	昭和大学/平成3年	皮膚真菌症	日本皮膚科学会認定専門医
池田 祐輔	兼任講師	東海大学/昭和63年	アトピー性皮膚炎	日本皮膚科学会認定専門医
今泉 敦子	兼任講師	昭和大学/平成9年	皮膚科学一般、ざ瘡(ニキビ)	日本皮膚科学会認定専門医
若井 信康	兼任講師	昭和大学/平成18年	皮膚科学一般、皮膚外科	日本皮膚科学会認定専門医
猿田 祐輔	講師・診療科長補佐	埼玉医科大学/平成19年	皮膚科学一般、皮膚病理学	日本皮膚科学会認定専門医
小林 香映	講師	東海大学/平成22年	皮膚科学一般、皮膚病理学	日本皮膚科学会認定専門医
佐々木 駿	助教	昭和大学/平成23年	皮膚科学一般、皮膚外科	日本皮膚科学会認定専門医
岩立 和子	普通科研究員	昭和大学/平成21年	皮膚科学一般	
平野 由似	非常勤臨床女性医師	山口大学/平成22年	皮膚科学一般	

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
大田 美智	金沢医科大学/平成16年	山内 輝夫	昭和大学/平成26年	李 殷先	東京女子医科大学/平成28年
高橋 奈々子	昭和大学/平成17年	三輪 祐	東海大学/平成26年	関 満里奈	山口大学/平成29年
北島 真理子	昭和大学/平成23年	金澤 あずさ	北里大学/平成26年	田村 崇行	順天堂大学/平成29年
鈴木 茉莉恵	昭和大学/平成24年	井藤 遥	昭和大学/平成27年	山口 文太郎	昭和大学/平成29年
小野 蘭	東京女子医科大学/平成24年	吉田 春奈	大分大学/平成27年	須永 知里	川崎医科大学/平成29年
田代 康哉	昭和大学/平成25年	荒木 信之	昭和大学/平成27年	青木 道	帝京大学/平成29年
荻原 麻里	順天堂大学/平成26年	須長 由真	昭和大学/平成27年	三村 明希	金沢医科大学/平成29年
大草 健弘	昭和大学/平成26年	加藤 由花	昭和大学/平成28年		
村上 達子	岩手医科大学/平成26年	境井 尚大	福井大学/平成28年		

泌尿器科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
小川 良雄	教授・診療科長	昭和大学/昭和56年	腎不全、血液浄化、尿路性器癌	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本腎臓学会認定医・指導医、日本透析医学会認定医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定教育医
深貝 隆志	教授/江東豊洲病院	昭和大学/昭和61年	尿路性器癌(前立腺癌)、癌化学療法、癌放射線療法	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、暫定教育医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本がん検診・診断学会がん検診認定医、泌尿器ロボット手術プロクター
和田 鉄部	客員教授	東京慈恵会医科大学/昭和55年	泌尿器科疾患一般	日本泌尿器科学会専門医・指導医
直江 道夫	准教授	昭和大学/平成5年	尿路性器癌(膀胱癌)、癌化学療法	日本泌尿器科学会専門医・指導医
七条 武志	准教授	昭和大学/平成12年	尿路性器癌、下部尿路障害	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本性機能学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
森田 順	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成14年	尿路性器癌(腎癌)、腹腔鏡・ダヴィンチ手術	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、泌尿器ロボット支援手術プロクター、腹腔鏡下小切開手術施設基準医
前田 佳子	講師	東京女子医科大学/平成元年	尿路性器癌、女性泌尿器	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、産業界、インフェクションコントロールプロクター、日本排尿機能学会認定医
押野見 和彦	講師	昭和大学/平成16年	尿路性器癌(前立腺癌)、男性機能障害	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医
中里 武彦	講師	昭和大学/平成18年	尿路性器癌(前立腺癌)、尿路結石症	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本性感染症学会認定医
石鳥 直孝	兼任講師	昭和大学/平成7年	泌尿器科疾患一般	日本泌尿器科学会専門医・指導医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
鶴木 勉	昭和大学/平成23年	平松 綾	浜松医科大学/平成28年	大水 円夏	群馬大学/平成29年
杉下 裕秀	昭和大学/平成26年	井上 直貴	宮崎大学/平成29年	加藤 良佑	山梨大学/平成29年

(2019年8月1日現在)

放射線科

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格
扇谷 芳光	教授・診療科長	昭和大学 / 平成7年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本核医学会認定医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師
後関 武彦	名誉教授	昭和大学 / 昭和55年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本超音波医学会専門医
篠塚 明	客員教授	昭和大学 / 昭和51年	放射線診断、核医学	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、肺がんCT検診認定医、日本医師会認定産業医、第1種放射線取扱主任者資格
廣瀬 正典	客員教授	昭和大学 / 昭和62年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師、がん治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
戸崎 光宏	客員教授	東京慈恵会医科大学 / 平成5年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医
宗近 次朗	講師・診療科長補佐	昭和大学 / 平成19年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本核医学会専門医、PET核医学認定医
石塚 久美子	講師	聖マリアナ医科大学 / 昭和61年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師
竹山 信之	講師	昭和大学 / 平成12年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本核医学会核医学専門医、日本IVR学会専門医、日本核医学会PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師
保坂 憲史	講師	昭和大学 / 平成22年	放射線診断、IVR	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本IVR学会専門医、腹部ステントグラフト指導医
大槻 紀子	兼任講師	昭和大学 / 平成元年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、労働衛生コンサルタント
安田 亮	兼任講師 / 北部病院	昭和大学 / 平成5年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、PET核医学認定医
崔 翔栄	兼任講師	昭和大学 / 平成13年	放射線診断、IVR	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本IVR学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医
須山 淳平	兼任講師	昭和大学 / 平成13年	放射線診断、核医学	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本核医学会専門医、PET核医学認定医
池田 真也	兼任講師	昭和大学 / 平成20年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者
井戸 愛	助教	島根大学 / 平成15年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、検診マンモグラフィ読影認定医師
波多野 久美	助教	東海大学 / 平成21年	放射線診断	日本医学放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本乳癌学会乳癌認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師、日本核医学会核医学専門医、日本核医学会PET核医学認定医

医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年
宮上 修	埼玉医科大学 / 平成22年	溝淵 有哉	昭和大学 / 平成25年	内田 大輔	山梨大学 / 平成27年		
柴谷 有美子	福井大学 / 平成23年	三好 布季子	日本医科大学 / 平成17年	金井 貴宏	昭和大学 / 平成28年		
阿部 亮介	北里大学 / 平成25年	長谷川春菜子	日本医科大学 / 平成26年	佐伯 美帆	北里大学 / 平成29年		
高濱 典嗣	日本大学 / 平成25年	竹内 愛弓	東京女子医科大学 / 平成26年				

放射線治療科

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格
伊藤 芳紀	教授・診療科長	広島大学 / 平成7年	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医、日本医学放射線学会研修指導者、日本食道学会食道科認定医、日本腫瘍学会認定指導医
加賀美 芳和	特任教授	札幌医科大学 / 昭和53年	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医、日本医学放射線学会研修指導者、日本食道学会食道科認定医
芹澤 徹	客員教授	千葉大学 / 昭和61年	脳神経外科	日本脳神経外科学会専門医、がん治療認定医、脳卒中専門医、PET核医学認定医
吉村 亮一	客員教授	東京医科歯科大学 / 平成7年	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医、日本医学放射線学会研修指導者
今井 敦	教授 / 藤が丘病院	大阪大学 / 平成5年	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医、日本医学放射線学会研修指導者
村上 幸三	講師・診療科長補佐	昭和大学 / 平成14年	放射線治療	放射線治療専門医、日本医学放射線学会研修指導者
新城 秀典	講師 / 北部病院	昭和大学 / 平成14年	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、日本医学放射線学会研修指導者
節田 まどか	講師 / 江東豊洲病院	福島県立医科大学 / 平成14年	放射線治療	放射線治療専門医、日本医学放射線学会研修指導者
小澤 由季子	助教 / 藤が丘病院	日本医科大学 / 平成19年	放射線治療	放射線治療専門医、日本医学放射線学会研修指導者

医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年
加藤 正子	昭和大学 / 平成22年	新谷 暁史(北部)	昭和大学 / 平成24年	西村 恵美	鹿児島大学 / 平成27年		
豊福 康介	山口大学 / 平成22年	小林 玲(江東豊洲)	富山大学 / 平成24年	宮浦 和徳(医学物理士)	国際医療福祉大学 / 平成16年		

臨床病理診断科

〈病理診断〉

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格
瀧本 雅文	教授・診療科長	昭和大学 / 昭和56年	乳腺病理、造血器病理、皮膚病理	病理専門医、細胞診専門医
橋 玄秀	教授	旭川医科大学 / 昭和56年	一般外科病理	病理専門医、細胞診専門医
九島 巳樹	教授 / 江東豊洲病院	昭和大学 / 昭和54年	婦人科病理	病理専門医、細胞診専門医
本田 一穂	兼任教授	信州大学 / 昭和59年	腎臓病理	病理専門医、細胞診専門医
美島 健二	兼任教授	徳島大学 / 平成3年	口腔病理	口腔病理専門医
矢持 淑子	准教授	昭和大学 / 平成3年	皮膚病理、造血器病理	病理専門医、細胞診専門医
塩沢 英輔	准教授	昭和大学 / 平成11年	造血器病理	病理専門医、細胞診専門医、内科認定医
大池 信之	教授 / 藤が丘病院	昭和大学 / 平成7年	腫瘍病理、内分泌病理	病理専門医、細胞診専門医
本間 まゆみ	講師 / 北部病院	昭和大学 / 平成16年	造血器病理	病理専門医、細胞診専門医
野呂瀬 朋子	講師 / 藤が丘病院	北里大学 / 平成14年	消化管病理	病理専門医、細胞診専門医
広田 由子	講師 / 江東豊洲病院	昭和大学 / 平成14年	乳腺病理	病理専門医、細胞診専門医
三浦 咲子	助教・診療科長補佐	昭和大学 / 平成20年	呼吸器病理、乳腺病理	病理専門医、細胞診専門医
南雲 佑	助教	昭和大学 / 平成26年	一般外科病理	病理専門医、細胞診専門医

〈臨床検査〉

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格
福地 邦彦	教授	昭和大学 / 昭和56年	分子感染病学、病態検査学	臨床検査専門医、臨床検査管理医
橋 玄秀	教授	旭川医科大学 / 昭和56年	病態検査学	臨床検査管理医
矢持 淑子	准教授	昭和大学 / 平成3年	検査血液学	臨床検査管理医
安原 勇	准教授	帝京大学 / 平成10年	病態検査学	臨床検査専門医、臨床検査管理医
塩沢 英輔	准教授	昭和大学 / 平成11年	検査血液学	臨床検査専門医、臨床検査管理医

歯科・口腔外科

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格
山口 麻子	歯科医師 / 講師	昭和大学 / 平成7年	有病者歯科、高齢者歯科	日本老年歯科医学会認定医・老年専門医、日本有病者歯科医療学会認定医・専門医
須田 玲子	歯科医師	昭和大学 / 昭和58年	歯周病学	日本歯周病学会専門医、日本歯周病学会専門医指導医、日本歯科保存学会専門医、ジャパンオーラルヘルス学会認定医
佐藤 あや子	歯科医師 / 助教	昭和大学 / 平成23年	口腔内病変全般、口腔外科	日本口腔外科学会認定医、日本有病者歯科医療学会認定医

概要

昭和大学病院 診療科案内

各センター案内

昭和大学病院附属東病院 診療科案内

昭和大学所属医師一覽

昭和大学所属医師一覽

昭和大学病院附属東病院

脳神経内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
小野 賢二郎	教授・診療科長	昭和大学/平成9年	認知症、Parkinson病、神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
河村 満	客員教授	横浜市立大学/昭和52年	高次脳機能障害学、神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会専門医
神田 宗太郎	准教授	昭和大学/平成11年	認知症、神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、日本内科学会認定総合内科専門医
矢野 伶	講師・診療科長補佐	昭和大学/平成15年	神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医
黒田 岳志	講師	昭和大学/平成16年	認知症、神経生理学、神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
笠井 英世	講師	昭和大学/平成16年	頭痛、神経内科一般	日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医
杉本 あずさ	講師	千葉大学/平成18年	神経内科一般	日本神経学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
兼元 みずき	助教	筑波大学/平成15年	てんかん、神経内科一般	日本内科学会認定内科医
二村 明徳	助教	昭和大学/平成21年	認知症、高次脳機能障害学、神経内科一般	日本神経学会専門医、日本内科学会認定内科医
水間 啓太	助教	昭和大学/平成22年	脳卒中、神経内科一般	日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本内科学会認定内科医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
渡辺 大士	昭和大学/平成23年	門馬 佑太郎	昭和大学/平成25年	高橋 聖也	昭和大学/平成27年
渡辺 慶子	東海大学/平成23年	野原 哲人	昭和大学/平成25年	三木 綾子	昭和大学/平成27年
飯塚 奈都子	昭和大学/平成23年	井藤 尚仁	昭和大学/平成26年	安本 太郎	昭和大学/平成27年
森 友紀子	聖マリアンナ医科大学/平成23年	大橋 英朗	昭和大学/平成26年	石代 俊美香	昭和大学/平成29年
萩 良樹	昭和大学/平成24年	浅野 未希	昭和大学/平成27年		
所澤 任修	昭和大学/平成24年	木村 篤史	新潟大学/平成27年		

糖尿病・代謝・内分泌内科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
山岸 昌一	教授・診療科長	金沢大学/平成元年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本高血圧学会高血圧専門医、日本抗加齢協合理事、日本内分泌学会評議員、日本老年医学会代議員、日本抗加齢医学会評議員、日本メイラード学会役員、日本糖尿病性腎症研究会幹事、脳心血管抗加齢研究会評議員
平野 勉	客員教授	昭和大学/昭和55年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医・指導医、評議員、日本内科学会認定内科医、日本糖尿病合併症学会評議員、日本動脈硬化学会専門医・評議員、日本肥満学会専門医・評議員、日本生活習慣病学会評議員
谷山 松雄	客員教授/藤が丘病院	慶應義塾大学/昭和50年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医・指導医、評議員、日本内分泌学会専門医・指導医、日本甲状腺学会専門医・指導医
福井 智康	講師	昭和大学/平成12年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医・指導医、評議員、日本内科学会認定内科医
林 俊行	兼任講師	昭和大学/平成13年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医・指導医、評議員、日本動脈硬化学会専門医、日本内科学会認定内科医
森 雄作	講師	昭和大学/平成15年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本内分泌学会内分泌専門医・指導医、日本動脈硬化学会評議員
山本 剛史	講師(留学中)	昭和大学/平成15年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本内分泌学会内分泌専門医、日本生活習慣病学会認定管理指導医
長村 杏奈	兼任講師	昭和大学/平成15年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医・指導医、日本糖尿病・妊娠学会評議員、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
小原 道雄	講師・診療科長補佐	日本医科大学/平成16年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、代議員、日本内科学会認定内科医
寺崎 達雄	講師	昭和大学/平成18年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本生活習慣病学会認定管理指導医
高橋 育克	助教	昭和大学/平成8年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本内分泌学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医
小橋 京子	兼任講師	埼玉医科大学/平成20年	糖尿病・代謝・内分泌領域	日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医

医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年	医師名	卒業大学/卒業年
新村 京子	昭和大学/平成20年	長池 弘江	埼玉医科大学/平成25年	大坂 直也	昭和大学/平成26年
瓜村 宗範	昭和大学/平成21年	深瀬 鮎子	昭和大学/平成25年	江波戸 彩乃	昭和大学/平成29年
九島 秀樹	昭和大学/平成22年	後藤 聡	昭和大学/平成25年	高橋 龍之	昭和大学/平成29年
佐藤 展子	昭和大学/平成24年	高畑 洋	昭和大学/平成25年		
小瀧 正和	昭和大学/平成25年	藤川 大輝	昭和大学/平成26年		

精神神経科

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
岩波 明	教授・診療科長	東京大学/昭和60年	精神生理学	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医
岡田 由佳	准教授・診療科長補佐	昭和大学/平成6年	精神療法、精神生理学	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医
内島 重誠	准教授	東北大学/平成3年	精神薬理学	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医
平田 亮人	助教	宮崎大学/平成22年	臨床精神医学、生物学的精神医学	精神保健指定医、日本医師会産業界、日本精神神経学会専門医・指導医

整形外科/脊椎外科センター

医師名	役職	卒業大学/卒業年	専門分野	資格
福田 克記	教授・診療科長	昭和大学/昭和59年	手・肘関節外科、運動器	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本手の外科学会専門医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医、日本肘関節学会評議員、難病指定医、臨床研修指導医
豊根 知明	教授・脊椎外科センター長	千葉大学/昭和60年	脊椎・脊髄外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術技術認定医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定スポーツ医、難病指定医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医
瀧美 敬	名誉教授	日本医科大学/昭和51年	股関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医
神崎 浩二	教授/藤が丘病院	昭和大学/昭和62年	脊椎・脊髄外科、側弯症	日本整形外科学会整形外科専門医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定リハビリテーション医、義肢装具等適合判定医、日本脊髄インストルメンテーション学会評議員、東日本整形外科学会評議員
並木 脩	客員教授	東北大学/昭和33年	関節リウマチ、骨・関節疾患	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会指導医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医
阪本 桂造	客員教授	昭和大学/昭和41年	スポーツ医学、膝関節外科、骨代謝骨粗鬆症	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医
富岡 英世	客員教授	昭和大学/昭和46年	股関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医、義肢装具等適合判定医
立花 新太郎	客員教授	東京大学/昭和48年	末梢神経	日本整形外科学会整形外科専門医
中村 正則	客員教授	昭和大学/昭和59年	股関節外科、人工関節	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本体育協会公認スポーツドクター、義肢装具等適合判定医、日本温泉気候物理医学会 温泉療法医
渡邊 幹彦	客員教授	香川大学/昭和62年	スポーツ医学、肩関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本リハビリテーション医学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本体育協会公認スポーツドクター、身体障害者福祉法第15条第1項指定医
雨宮 雷太	客員教授	昭和大学/昭和62年	スポーツ医学、膝関節外科、足関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本医師会認定臨床スポーツ医、義肢装具等適合判定医
永井 隆士	准教授・診療科長補佐	昭和大学/平成9年	骨粗鬆症、骨代謝、リハビリテーション	日本整形外科学会整形外科専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本温泉気候物理医学会 温泉療法医、義肢装具等適合判定医、産業界資格
川崎 恵吉	准教授/北部病院	昭和大学/平成3年	手外科、外傷	日本整形外科学会整形外科専門医、臨床研修指導医、日本手の外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
西中 直也	准教授/藤が丘病院	昭和大学/平成6年	肩関節外科、スポーツ医学	日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本体育協会公認スポーツドクター、義肢装具等適合判定医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医
藤巻 良昌	講師/北部病院	昭和大学/平成8年	スポーツ医学、膝関節外科	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
吉川 泰司	講師	昭和大学/平成12年	小児股関節、外傷	日本整形外科学会整形外科専門医
李 相亮	講師	神戸大学/平成12年	外傷、難治骨折、骨再生医療	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本再生医療学会再生医療認定医、日本骨粗鬆症学会認定医
工藤 理史	講師	昭和大学/平成13年	脊椎・脊髄外科、脊椎内視鏡	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本脊椎脊髄病学会指導医
豊島 洋一	講師/江東豊洲病院	昭和大学/平成13年	関節リウマチ、足の外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本リウマチ学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、難病指定医、臨床研修指導医、日本骨粗鬆症学会認定医
久保 和俊	講師	昭和大学/平成15年	手外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本手の外科学会専門医
梶 崇隆	講師	埼玉医科大学/平成17年	股関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
滝木 泰史	講師	日本医科大学/平成17年	膝関節外科	日本整形外科学会整形外科専門医

昭和大学所属医師一覧

麻酔科 (手術室、ICU)

医師名	役職	卒業大学 / 卒業年	専門分野	資格	
大嶽 浩司	主任教授	東京大学 / 平成10年	小児麻酔、集中治療、医療経済	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本集中治療医学会専門医、日本小児麻酔学会認定医	
大江 克憲	教授・診療科長	岡山大学 / 平成2年	小児心臓麻酔、集中治療	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本集中治療医学会専門医、日本心臓血管麻酔学会専門医、日本小児麻酔学会認定医	
加藤 里絵	教授	千葉大学 / 平成4年	産科麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本区域麻酔学会認定医、日本小児麻酔学会認定医、新生児蘇生法インストラクター、J-CIMELS インストラクター	
小谷 透	准教授・集中治療科診療科長	慶應義塾大学 / 昭和60年	集中治療	日本集中治療医学会専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医	
三浦 倫一	准教授	横浜市立大学 / 平成7年	心臓麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本心臓血管麻酔学会専門医	
岡 秀一郎	准教授・歯科麻酔科診療科長	昭和大学 / 昭和58年	手術麻酔、歯科麻酔	日本歯科麻酔科学会歯科麻酔専門医	
増井 健一	講師	山梨医科大学 / 平成9年	静脈麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医	
尾頭 希代子	講師	昭和大学 / 平成11年	呼吸	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医、日本集中治療医学会専門医、日本心臓血管麻酔学会専門医	
細川 幸希	講師	浜松医科大学 / 平成12年	産科麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医、新生児蘇生法インストラクター、J-CIMELS インストラクター	
上嶋 浩順	講師・診療科長補佐	関西医科大学 / 平成16年	区域麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本小児麻酔学会認定医、日本老年麻酔学会認定医、日本区域麻酔学会認定医、臨床麻酔学会PNB・DAM公認教育インストラクター	
宮下 亮一	講師	東京医科大学 / 平成17年	集中治療	日本集中治療医学会専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医	
庄野 敦子	助教	鳥根医科大学 / 平成8年	集中治療		
森 麻衣子	助教	久留米大学 / 平成10年	集中治療	日本集中治療医学会専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医	
市川 ゆき	助教	東京女子医科大学 / 平成13年	集中治療		
稲村 ル斗	助教	昭和大学 / 平成15年	小児麻酔	日本麻酔科学会麻酔科指導医、日本小児麻酔学会認定医	
安藤 茜	助教	昭和大学 / 平成15年	手術麻酔、歯科麻酔	日本歯科麻酔科学会歯科麻酔専門医	
田中 典子	助教	昭和大学 / 平成18年	区域麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
樋口 慧	助教	昭和大学 / 平成20年	手術麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医、日本区域麻酔学会認定医	
善山 栄俊	助教	昭和大学 / 平成20年	手術麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
原 詠子	助教	昭和大学 / 平成22年	区域麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
染井 正行	助教	昭和大学 / 平成23年	集中治療		
浪田 翔	助教	北海道大学 / 平成24年	区域麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医	
植田 紗代	助教	愛知医科大学 / 平成24年	小児麻酔	日本麻酔科学会麻酔科認定医、日本小児麻酔学会認定医	
酒井 麗美	助教	昭和大学 / 平成24年	手術麻酔	日本麻酔科学会麻酔科認定医	
八尾 敬子	助教	岩手医科大学 / 平成24年	手術麻酔、歯科麻酔	日本歯科麻酔科学会歯科麻酔認定医	
医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年	医師名	卒業大学 / 卒業年
加島 有紀	東京大学 / 平成27年	合田 廷大	佐賀大学 / 平成29年	高橋 貴子	昭和大学 / 平成29年
石原 大雅	東邦大学 / 平成28年	小島 衣里加	東京女子医科大学 / 平成29年	細川 麻衣子 (非常勤医師)	昭和大学 / 平成17年
山下 昌平	東京医科大学 / 平成29年	稲木 七生	東海大学 / 平成29年		

概要

昭和大学病院
診療科案内

各センター案内

昭和大学病院附属東病院
診療科案内

昭和大学所属医師一覧

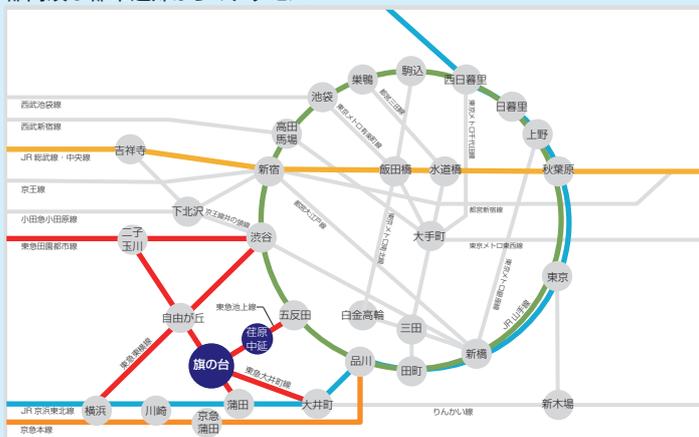
昭和大学病院



〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
 ■代表 TEL : 03-3784-8000
 ■医療連携 TEL : 03-3784-8400
 FAX : 03-3784-8822

- 特定機能病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- エイズ拠点病院
- 災害拠点病院

都内及び都市近郊からのアクセス



【都内主要駅からアクセス JR→東急線】

東京駅～旗の台駅：約 28 分（五反田経由）
 新宿駅～旗の台駅：約 28 分（五反田経由）
 品川駅～旗の台駅：約 19 分（五反田経由）

【近郊都市からのアクセス JR→東急線】

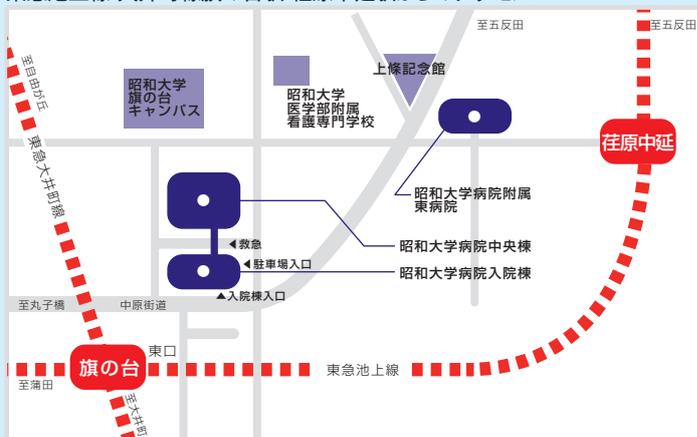
横浜駅～旗の台駅：約 36 分（大井町経由）
 川崎駅～旗の台駅：約 21 分（大井町経由）

昭和大学病院附属東病院



〒142-0054 東京都品川区西中延2-14-19
 ■代表 TEL : 03-3784-8000
 ■医療連携 TEL : 03-3784-8400
 FAX : 03-3784-8822

東急池上線・大井町線旗の台駅・荏原中延駅からのアクセス



【昭和大学病院】

東急池上線・大井町線
 旗の台駅下車 東口徒歩 3 分

【昭和大学病院附属東病院】

東急池上線・大井町線
 旗の台駅下車 東口徒歩 10 分
 東急池上線
 荏原中延駅下車 徒歩 10 分

附属病院

昭和大学藤が丘病院



〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘1-30
 最寄駅▶藤が丘駅
 ■代表 TEL : 045-971-1151
 ■医療連携 TEL : 045-974-6701 FAX : 045-974-4325

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院



〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘2-1-1
 最寄駅▶藤が丘駅
 ■代表 TEL : 045-974-2221
 ■医療連携 TEL : 045-978-6600

昭和大学横浜市北部病院



〒224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
 最寄駅▶センター南駅
 ■代表 TEL : 045-949-7000
 ■医療連携 TEL : 045-949-7151 FAX : 045-949-7287

昭和大学江東豊洲病院



〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38
 最寄駅▶豊洲駅
 ■代表 TEL : 03-6204-6000
 ■医療連携 TEL : 03-6204-6130 FAX : 03-6204-6197

昭和大学附属烏山病院



〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
 最寄駅▶千歳烏山駅
 ■代表 TEL : 03-3300-5231
 ■医療連携 TEL : 03-3300-5329 FAX : 03-3300-5408

昭和大学歯科病院



〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
 最寄駅▶洗足駅、北千束駅
 ■代表 TEL : 03-3787-1151
 ■医療連携 TEL : 03-5498-1954

昭和大学豊洲クリニック予防医学センター（人間ドック）



〒135-0061 東京都江東区豊洲5-5-1 豊洲シエルタワー 3F
 最寄駅▶豊洲駅
 ■TEL : 03-03-3531-9920

昭和大学病院



〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

■代表TEL：03-3784-8000

■医療連携 TEL：03-3784-8400

FAX：03-3784-8822

■特定機能病院

■日本医療機能評価機構認定病院

■地域がん診療連携拠点病院

■エイズ拠点病院

■災害拠点病院

昭和大学病院附属東病院



〒142-0054 東京都品川区西中延2-14-19

■代表TEL：03-3784-8000

■医療連携 TEL：03-3784-8400

FAX：03-3784-8822

昭和大学病院



検索

<http://www.showa-u.ac.jp/SUH>

